

2024（R6）年度

事業報告書



BOWA SUMIRE

社会福祉法人 ボワ・すみれ福社会

目次

法人理念等	1
役員名簿	2
理事会・評議員会の開催状況	3
監事監査・苦情解決第三者委員会開催状況	8
法人本部	9
花の家（生活介護）	14
クッカ広場（就労継続支援 B 型）	26
かけはし（相談支援）	32
医務部門	35
栄養部門	36
運営部門	39
花の郷（生活介護）	56
支援部門	56
生産活動部門	64
医務部門	68
栄養部門	70

委員会年間総括	73
---------	----

ボワ・アルモニー（経営計画より）	84
------------------	----

ボワ・アルモニー（就労継続支援 B 型）	86
----------------------	----

ボワ・アルモニー（生活介護）	89
----------------	----

栄養部門	91
------	----

業務分担	95
------	----

居住支援部（ボワ・ミニヨン・クレール・あかね・ひなた・はるかぜ）	110
----------------------------------	-----

であい（短期入所）	111
-----------	-----

児童支援部	113
-------	-----

ボワ・コンサール（放課後等デイサービス）	127
----------------------	-----

ボワ・エール（放課後等デイサービス）	130
--------------------	-----

社会福祉法人ボワ・すみれ福社会

理念

「誰にも優しい地域社会をつくれます」

経営姿勢

- ・ **職員を大切にする会社を目指します**
法人は、元気に笑顔で仕事ができるように、職員を大切にします。
- ・ **質の高い利用者支援を提供します**
法人が目指す支援は、ご利用者が望む支援を質の高さを常に意識して提供していきます。
- ・ **新たな事業に挑戦し多様な支援を提供します**
法人はニーズに応じて新しい事業や多様な支援を提供していきます。
- ・ **法人は職員と共に成長します**
法人＝職員の考えに基づき、職員の成長なくして法人の成長はない、人材育成の取り組みを行っていきます。

行動指針

- ・ **私たちは、常に熱い心と冷静な姿勢で仕事に取り組みます**
仕事に対して熱意を持ち、冷静沈着な姿勢で仕事に取り組み成果を出していきます。
- ・ **私たちは、より高度な倫理観を持ち社会的責任を自覚し誠実な行動をします**
支援者として常にご利用者の人権と自己決定を尊重し、社会的責任、役割を理解し、社会福祉法人の職員としてふさわしい行動をします。
- ・ **私たちは、法人職員として夢と希望をもって行動します**
自分たちの職場を大切に、全職員自らが夢と希望を持ちご利用者支援の仕事をします。

社会福祉法人 ボワ・すみれ福祉会
理事・監事・評議員名簿

2023年6月15日～2025年6月
定時評議員会終結時、任期2年

		氏名
1	理事長	田部井眞
2	理事	鈴木一典
3	理事	守屋 和夫
4	理事	山田 都
5	理事	熊谷 春一
6	理事	畠山史郎
7	理事	角井まな
1	監事	大久保悦子
2	監事	市川健一

2021年6月13日～2025年6月
定時評議委員会終結時、任期4年

1	評議員	金子好雄
2	評議員	平本善一
3	評議員	石原正義
4	評議員	柴適
5	評議員	木下美夏
6	評議員	志村邦義
7	評議員	岩切孝光
8	評議員	稲田公明 2024年4月8日～
	評議員	小野田義之 ～2023年12月14日

2024年度 理事会・評議員会の開催状況

開催日	議案・報告事項等
第Ⅰ回理事会 2024年5月28日（火）	（Ⅰ）専決事項 ①花の家匿名の寄付について ②ビジネスフォン刷新の件 ③複合機リース契約の件 （Ⅱ）決議事項 第Ⅰ号議案 2023年度事業報告、決算承認の件及び監事監査報告（別冊参照） 第Ⅱ号議案 規程類改定の件 第Ⅲ号議案 評議員会召集の件 （Ⅲ）報告事項 ① 報告事項 ・運転中に意識消失し事故を起こした件（3月12日） ・後援会総会の報告（4月24日開催） ・花の郷防水工事について ・新処遇改善手当について ・居住支援部における虐待について（4月27日） ・理事長の6月からの勤務について ② 理事長の職務執行状況報告 ③ 医療的ケアなどに関する報告 ④ 職員の採用と退職の報告 ⑤ 運営状況報告及び活動報告 ⑥ 今後の予定 ⑦ その他
第Ⅰ回評議員会 2024年6月15日（木）	（Ⅰ）決議事項 第Ⅰ号議案 2023年度事業報告、決算承認の件及び監事監査報告（別冊参照） （Ⅱ）報告事項 ① 報告事項 ・花の家匿名の寄付について ・ビジネスフォン刷新の件 ・複合機リース契約の件 ・規定類改定の件 ・運転中に意識消失し事故を起こした件（3月12日） ・後援会総会の報告（4月24日開催） ・花の郷防水工事について ・新処遇改善手当について ・居住支援部における虐待について（4月27日） ・理事長の6月からの勤務について

	② 理事長の職務執行状況報告 ③ 医療的ケアなどに関する報告 ④ 職員の採用と退職の報告 ⑤ 運営状況報告及び活動報告 ⑥ 今後の予定 ⑦ その他
第 2 回理事会 2024 年 9 月 3 日（火）	(1) 専決事項 ① 正規職員及び有期契約職員 給与退職金規定の改定について (2) 決議事項 第 1 号議案 9 月補正予算承認の件 ・ボワ・アルモニー結束機故障に伴う設備等整備積立金の取り崩しについて ・花の家 200 万の寄付 ・重度重複障害者集中施設補助金の削減 第 2 号議案 評議員会召集の件 (3) 報告事項 ① 報告事項 ・2024 年度法人表彰者について ・花の郷防水工事について ・新処遇改善手当について ・東京都障害福祉サービス等職員居住支援特別手当事業について ・居住支援部における虐待について（5 月理事会以降の報告） ・花の家匿名の寄付 1 千万円の経過 ・花の家匿名の寄付 200 万円について ・7 月 26 日花の家車両事故について ② 理事長の職務執行状況報告 ③ 医療的ケアなどに関する報告 ④ 職員の採用と退職の報告 ⑤ 運営状況報告及び活動報告 ⑥ 今後の予定 ⑦ その他

第 2 回評議員会 2024 年 9 月 12 日（木）	(1) 決議事項 第 1 号議案 9 月補正予算承認の件 ・ボワ・アルモニー結束機故障に伴う設備等整備積立金の取り崩しについて ・花の家 200 万の寄付 ・重度重複障害者集中施設補助金の削減 (2) 報告事項 ① 報告事項 ・2024 年度法人表彰者について ・花の郷防水工事について ・新処遇改善手当について ・東京都障害福祉サービス等職員居住支援特別手当事業について ・居住支援部における虐待について（5 月理事会以降の報告） ・花の家匿名の寄付 1 千万円の経過 ・花の家匿名の寄付 200 万円について ・7 月 26 日花の家車両事故について ・正規職員及び有期契約職員 給与退職金規定の改定について ② 理事長の職務執行状況報告 ③ 医療的ケアなどに関する報告 ④ 職員の採用と退職の報告 ⑤ 運営状況報告及び活動報告 ⑥ 今後の予定 ⑦ その他
第 3 回理事会 2024 年 12 月 3 日（火）	(1) 専決事項 (2) 決議事項 第 1 号議案 規定類の改定の件 第 2 号議案 管理職の人事について 第 3 号議案 評議員会召集の件 (3) 報告事項 ① 報告事項 ・8 月 29 日花の家での虐待の件（9 月理事会以降の経過） ・東京都障害福祉サービス等職員居住支援特別手当事業について 11 月給与より支給開始。4 月～10 月分については賞与時に賞与とは別に支給。 ・9 月 19 日苦情解決第三者委員会報告 ・11 月 12 日ボワ・エール町田市実地指導について ・財務三表の説明 ② 理事長の職務執行状況報告

	③ 医療的ケアなどに関する報告 ④ 職員の採用と退職の報告 ⑤ 運営状況報告及び活動報告 ⑥ 今後の予定 ⑦ その他 ④ 職員の採用と退職の報告
第 3 回評議員会 2024 年 12 月 12 日（木）	(1) 専決事項 (2) 決議事項 第 1 号議案 規定類の改定の件 (3) 報告事項 ① 報告事項 ・ 8 月 29 日花の家での虐待の件（9 月理事会以降の経過） ・ 東京都障害福祉サービス等職員居住支援特別手当事業について 11 月給与より支給開始。4 月～10 月分については給与時に給与とは別に支給。 ・ 9 月 19 日苦情解決第三者委員会報告 ・ 11 月 12 日ボワ・エール町田市実地指導について ・ 財務三表の説明 ② 理事長の職務執行状況報告 ③ 医療的ケアなどに関する報告 ④ 職員の採用と退職の報告 ⑤ 運営状況報告及び活動報告 ⑥ 今後の予定 ⑦ その他
第 4 回理事会 2025 年 3 月 4 日（火）	(1) 専決事項 ①ボワ・アルモニー業務用冷凍冷蔵庫等の購入について (2) 決議事項 第 1 号議案 2025 年度事業計画及び予算承認の件 第 2 号議案 次期役員候補承認の件 第 3 号議案 評議員選任・解任委員選任の件 第 4 号議案 評議員選任・解任委員会について 第 5 号議案 規程類の改定の件 (経理規定、運営規定、就業規則、定款変更、身体拘束適正化指針、育児・介護休養等に関する規程) 第 6 号議案 ボワ・アルモニー封緘機修繕にかかわる設備等整備積立金の取り崩しについて 第 7 号議案 評議員会召集の件 (3) 報告事項 ① 報告事項 ・ 経営計画（中間評価）について ・ 2025 年度町田市補助金について

	・ボワ・エール改善状況報告書について ・財務三表の説明 ・花の家副施設長の人事について ② 理事長の職務執行状況報告 ③ 医療的ケアなどに関する報告 ④ 職員の採用と退職の報告 ⑤ 運営状況報告及び活動報告 ⑥ 今後の予定 ⑦ その他
第４回評議員会 2025年３月13日（木）	（１）決議事項 第１号議案 2025年度事業計画及び予算承認の件 第２号議案 次期役員候補承認の件 第３号議案 評議員選任・解任委員候補選任の件 第４号議案 評議員選任・解任委員会について 第５号議案 定款変更の件 （２）報告事項 ① 報告事項 ・経営計画（中間評価）について ・2025年度町田市補助金について ・ボワ・エール改善状況報告書について ・財務三表の説明 ・花の家副施設長の人事について ・ボワ・アルモニー業務用冷凍冷蔵庫等の購入について ・規定類の改定の件 （経理規定、運営規定、就業規則、身体拘束適正化指針、育児・介護休養等に関する規程） ・ボワ・アルモニー封緘機修繕にかかわる設備等整備積立金の取り崩しについて ② 理事長の職務執行状況報告 ③ 医療的ケアなどに関する報告 ④ 職員の採用と退職の報告 ⑤ 運営状況報告及び活動報告 ⑥ 今後の予定 ⑦ その他

監事監査の実施状況

実施日	監事名	監査項目
2024年5月23、24日 (木、金)	市川 健一 大久保 悦子	法人定款第18条の規定に基づき、2023年度事業にかかわる理事の職務執行状況及び法人の財務監査

苦情解決第三者委員会

氏名	開催日
叶内 昌志 比留川 昇良	2024年9月19日(木) 2025年3月18日(火)

2024年度 法人本部 事業報告

1. 法人本部経営企画部門

(1) 目標
目標1. 新体制での事務分担において、事務処理の正確性、速度の向上を目指します。
目標2. ペーパーレス化をさらに進めます。
目標3. 職員にとって親切丁寧な本部事務を目指します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1)－① 複数担当制を4月に検討、5月から10月まで試行し適切な分担を確立します。	事務リーダーを中心に、会計経理、人事労務、請求事務、総務を協力しながら、大きな事故などなくスムーズに業務を実施することができました。	実施しました。	
(1)－② データ、文書等の保管方法を再検討し、検索等の時間を短縮します。	以前から決められていたフォルダーの再確認や職員個々の専用フォルダーで管理することで検索等の時間の短縮につながりました。	実施しました。	
(1)－③ 本部事務と事業所での事務の分担を明確にし、事務処理の漏れ、遅れなどが発生しないようにします。	経営会議や安否確認メール等を利用して事務処理に関して随時発信を行い、漏れなどが無いようにしました。	実施しました。	
(2)－① 人事システム等使用しているシステム内に保存しているデータはプリント保存しないようにシステムの理解促進に努めプリントを減らします。	人事大臣や給与大臣のデータの見直しを行い、最新のデータに更新し管理することができました。給与や年末調整等電子化で対応することができました。	実施しました。	
(2)－② 事業所から提出されているペーパーをデータでの提出に変更していきます。	事務処理の正確性や今までの流れの部分で完全にペーパーレス化はできませんでしたが、引き続き給与処理の際に自己負担などをCSVで取り込むようにしました。	概ね実施しました。	

(3) - ① 勤務処理、有休処理などわかりやすく取扱い資料等を作成し間違いのない処理を目指します。	勤務管理申請簿の書き方や有給休暇の管理方法など取り扱い資料を作成し、間違いのない処理ができるようにしました。	実施しました。	
(3) - ② 証明書類等本部が行う事務についても事前に案内し、遅滞なく処理できるようにします。	安否確認メールや経営会議等で事前にアナウンスをするようにし、遅滞なく処理できるようにしました。	実施しました。	
・運営協議会 各事業所の保護者会を対象として、理事長等が参加し、経営状況の報告をし意見交換を行い、法人経営、事業所運営に反映していきます。	新型コロナウイルスが5類になったことに伴い、再開することができました。	実施しました。	
・苦情解決第三者委員会 苦情解決の請求があった場合に、委員会を開催します。また、9月、3月に法人に寄せられた意見要望等に関して、外部委員と意見交換を行います。	2回実施しました。委員からの確かな助言をいただきました。	実施しました。	
・法人医務会議 新たな、医療的ケアに関する指針、要綱を制定し、それに基づく対象事業所における要領、マニュアルの作成を支援し、医ケア児者に対する支援が安全にできるように管理します。	各事業所での開催となりました。	実施できませんでした。	

・法人衛生会議 毎月開催される、経営会議と同時開催とし労働安全衛生等に関する内容に関して意見交換等を行います。腰痛防止や労働環境点検を実施します。 6月に全職員対象としたストレスチェックを実施します。	感染防止のため中止し、各事業所での開催となりました。	実施できませんでした。	
・法人栄養会議 法人全体の栄養調理に関する内容について必要に応じて開催します。	開催しませんでした。	実施できませんでした。	
・法人感染症等防止委員会（旧法人安全衛生委員会） 感染症防止対応、食中毒防止対応等の各事業所の実施状況の管理及び運用支援を行います。また、法人として統一した対応についての整理等を行います。	毎月開催の経営会議にて感染状況を共有し各事業所の感染対策の徹底を図りました。	概ね実施しました。	
・法人虐待防止委員会 事業所ごとの虐待防止委員会の運営を支援し、研修等の実施に関して管理を行います。10月を虐待防止強化月間として、集中的に虐待防止等に取り組みます。	各事業所の虐待防止委員会の議事録の確認及び10月に虐待防止チェックリストを配信し集計を行い11月の経営会議で確認し各事業所で虐待防止に努めるように取り組みました。	概ね実施しました。	
・法人身体拘束等適正化委員会 事業所ごとの身体拘束等適正化委員会の運営を支援し、研修等の実施に関して管理を行います。	各事業所の運営状況を確認し、適切に実施できるように確認作業を行いました。	概ね実施しました。	
・法人広報委員会 年4回の広報誌を発行します。	年4回発行することができました。	実施しました。	

・法人防災委員会 BCPの作成管理、事業所ごとに作成するBCPを法人防災委員会で作成の支援、シミュレーション訓練の実施、法人としての統一した対応等を管理します。 無線電話通話訓練、安否確認メールの送信及び返信訓練の実施。夜間参集訓練の実施。	BCPの作成は完了しませんでした。シュミレーション訓練も感染防止のため実施しませんでした。無線電話訓練は実施。夜間参集訓練も未実施です。	実施できませんでした。	
・管理者評価 9月上旬に評価用紙を配布し、評価を行います。評価結果は、理事会・評議員会に報告します。	今年度は4月に実施し、必要に応じて管理者に指導を行いました。	実施しました。	
・災害対応マニュアル見直し 7・8月にマニュアル見直し作業を実施します。修正分は9月に配布します。	本年度の修正要望はなく、改定しませんでした。	実施できませんでした。	
・職員満足度調査の実施 9月に実施します。昨年度実施結果と比較して改善点を見つけ出し、次年度の計画に反映させます。	9月末に実施し、結果は職員に開示しました。経営会議では結果についての共有及び各事業所での改善の検討、実施を行いました。	概ね実施しました。	
・社内報の発行 法人の情報伝達を目的として、適宜発行します。	発行はしませんでした。	実施できませんでした。	
・法人研修（外部・内部研修） ① 参加職員の意識向上と、知り得た情報を共有し法人の発展につなげます。 ② 法人連等の主催する研修への参加をします。	感染予防の観点から主にオンラインでの参加になりましたが、感染防止対策をしたうえで、徐々に対面での研修に参加するような取り組みも再開することができました。	概ね実施しました。	

・法人表彰式の開催 当法人および各施設において長 年貢献された方などを対象とし て、表彰を行います。	感染防止のため開催は、対象 事業で実施となりました。	実施できませ んでした。	
・町田市社会福祉法人施設等連 絡会への参加 引き続き参加し、町田市の福祉 の向上のために役割を果たして いきます。	今年度町田市障がい者自立支 援研究・研修会に統合されま した。	実施しまし た。	

2024年度 ニーズセンター花の家 年間総括

Ⅰ. 生活介護「花の家」

【支援全体】

(1) 目標 「花の家では、ご利用者やご家族、地域の多様なニーズに対し、以下の視点から高い専門性を持った支援を提供します」
①（支援）ご利用者一人ひとりの状態像や想いに寄り添った支援を提供します。
②（活動）活動の充実を図り、豊かな経験と彩りある生活を支援します。
③（健康）専門職や関係機関と連携しながら健康生活を支援します。
④（職員）職員が「働きやすく」且つ「働き甲斐のある」職場を目指します。
⑤（安全）自然災害や感染症等へのリスク管理を徹底し、ご利用者が安心して過ごせる環境を整えます。
⑥（地域）開かれた施設運営を通し、地域福祉の発展に貢献します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①ーⅠご本人のニーズやご家庭の想い、年齢や状態等を加味した上でAからGの7グループ編成として環境を整え、その人らしい成長を支援します。	・各グループ、部署において、個人毎のアセスメント、ニーズに基づく計画に沿って丁寧な支援を行っている。 今年度は個別支援計画の様式も変更し、その年度に求められる支援をより具体化できるように取り組んでいる。	実施できました。	
①ーⅡ＜支援における5つの柱＞①人権擁護・不適切な関りや虐待の防止②生活支援（ADLの向上、自立（自律）生活に向けた取組み等）③活動支援（作業及び療育活動を通じた成長を支援）④健康支援（医療的な支援、栄養と食生活支援）⑤コミュニケーション支援・人間関係形成への取組みに基づき、多角的な観点から、ご利用者の生活が豊かになるよう支援します。	・今年度に新たに明示した＜支援5つの柱＞であり、「言葉」としては定着していないが、理念については浸透して現場で活かしている（虐待防止研修、活動や健康支援の充実等）。	実施できました。	

①－３多くの人との関わりを通し、集団の中の一人ひとりの役割や力が発揮されるように支援します。	・例えば、グループの朝礼での挨拶（日直）、給食を事務所まで運ぶ等、係りを決めて取り組んでもらうことで、ご本人達のやる気や達成感、成長に繋がっている。	実施してきました。	
①－４施設内の相談支援事業や地域の障がい者支援センターを中心とした関係機関と連携を図りながら、家庭を含めた総合的な支援を行います。	・相談支援事業所との連携が一般化されてきており、花の家が担うこと、範囲を超えて相談支援や地域支援センターが担うこと等を分担、共有しながら支援に当たる事例が増えてきている。	実施してきました。	
①－５研修等を通じて職員の人権意識を高め、虐待が疑われる関わりや不適切な関わりの撲滅に努めます。	・研修は計画通り、職員に人権擁護及び虐待防止に関する研修を受講してもらい、全職員への周知の為の報告研修を実施している。 ・その他、自閉症や強度行動障害者に関する研修等にも職員を派遣する等、職員の知識向上に努めた。 ・上記取り組みにも関わらず、８月の活動中に職員によるご利用者への不適切な関わりがあり、町田市に虐待認定を受ける事態が生じた。 その後、策定した再発防止計画に基づく研修会等を実施する等、以降は改善が図れている。	実施しましたが結果が不十分でした。	

②－１＜活動における５つの柱＞①生産活動（園芸、陶芸、販売活動等）②療育活動（音楽、調理、創作、ムーブメント、スヌーズレン、生活等）③健康への取組（リハビリ、体操、体づくり、散歩等）④社会活動・余暇活動（外出、レクリエーション、社会貢献活動等）⑤個別活動（プール、ヘアカット、パソコン操作等）に基づき、多角的な観点から、ご利用者の生活が豊かになるよう支援します。	・活動においては、＜５つの柱（観点）＞に基づきつつ、各グループ、ユニット、部署等で工夫しながら提供している。今年度から、＜ダンス＞や＜体操＞＜体づくり（ストレッチ）＞等の新しい取り組みも始まっている。	実施できました。	
②－２ ニーズがあるご利用者に対し、入浴支援を行います（週１回）。	・入浴ＰＴメンバーが中心となり、利用状況やニーズの聞き取り等を行った上で、メンバー決めや入浴方法を工夫しながら実施している。 ８月から数回に渡って希望者を対象に入浴リフト研修を実施。	実施できました。	
②－３ 補足的な支援として、通所時間外の支援（日中一時支援）、保護者による通院が困難な場合の付添い等のサービスを提供します。	・規程に基づくレスパイト支援を実施。コロナ感染以降、事業内容を縮小（時間短縮、送迎中止等）しており件数は以前より少なくなっているが、一定の利用はされている。	実施できました。	
②－４ 外部講師やアドバイザー等の助力を得て、専門性の高い支援プログラムを提供します（音楽、ICT、支援全般等）。	外部講師の助力を得、園芸や陶芸作業におけるＩＣＴを使った補助装置を作成したり、後期には視線入力装置を利用したマウス操作等に取り組んでおり、支援現場でも活用されている。	概ね実施できました。	

③－１ご利用者の状態、体調等を配慮した活動プログラムを提供し、生活リズムを整えます。	・基本的には毎日同じリズムで生活を過ごすことで健康状態の安定を図っている。 体調に配慮が必要な人、場合には、個別の事情に配慮して過ごし方を工夫している。	実施できました。	
③－２看護師や嘱託医（内科、小児科、歯科）、訓練士等の専門職や地域の医療機関等と連携しながら、健康を支援します。	・各職種の専門性を活かしながら、計画通りの支援を実施できている。	実施できました。	
③－３一人ひとりに合った食事形態や環境の提供と喫食状況の把握をし、安心、安全で楽しく食事ができるよう支援します。	・年３回実施する歯科医師による摂食評価、指導等の機会を利用しながら、一人一人に合った食事形態と介助方法にて食事を提供している。	実施できました。	
③－４花の家「医療的ケア要領」に基づき、医療的ケアを必要とされる方に対し、安心と安全が保たれた質の高い支援を提供します。	・今年度から刷新された医療的ケア要領に基づき、各人の手続きを済ませている。 新しい様式では医師からの指示がより具体的に示されるようになっている為、支援者（看護師等）は今まで以上に安心してケアの実施ができるようになった。	実施できました。	
④－１研修等を通じて必要な知識や専門性、高い技術を身につけ、適切な支援ができるよう努めます。	・研修委員会が中心となり、職員研修を計画、実施、受講の推奨を行っている。 グループ会議内でeラーニングを視聴する等の工夫が観られる等、有期職員の知識獲得や共通認識を図れた。	実施できました。	

④－２ 外部研修や学習会等で得た知識や情報を職員間で共有し、支援現場で活かしていきます。	・研修は計画通り実施出来たものの、研修後のフォローアップが十分機能しておらず、直接支援に活かす等の行動変容迄は至っていない。	実施しましたが結果が不十分でした。	
④－３ 目標共有面接の中で職員と一緒にキャリアアップに向けた道筋を共有し、職員の働き甲斐に繋げていきます。	・２年目を迎えた新人事制度における目標共有面接を通じて個々人の職員の職位における役割基準を基にキャリアアップに向けた道筋を職員と管理者で共有できた。 そのことが働き甲斐に繋がったかどうかの検証はできていない。	概ね実施できました。	
④－４職員が安心して働けるよう、「心の健康づくり計画」に基づくメンタルヘルスの取り組みを進めていきます。	・左記の計画に基づき、メンタルヘルス研修やストレスチェック等を実施した。 効果のほどは確認できていないが、継続的に取組み、次年度のストレスチェックと比較する等して検証することも検討していく。	概ね実施できました。	
④－５「ハラスメント規程」に基づき、研修や啓蒙を通じてハラスメントのない職場作りを目指します。	・左記の規定に基づいた研修をグループ会議の中で開催する等して、ハラスメントに関する知識習得に努めた。	実施できました。	
④－６ 職員会議等で職員間の意見交換、コミュニケーションを活発に行う環境を整える等、風通しの良い職場を目指します。	・８月に発生したご利用者への虐待事案以降、特にコミュニケーションや風通しの良い		

⑤－１ 避難訓練、応急救護訓練、防災教育等の訓練を継続して実施します。	・ ９／１の防災の日に、避難訓練と起震車体験、防災備蓄品の喫食、初期消火訓練を実施。後期には２回目の避難訓練とＡＥＤ操作、応急救護訓練を予定している。	実施できました。	
⑤－２ 防災訓練（内容）のバリエーションを増やし、いろいろな状況に合わせて避難行動がと取れるように訓練していきます。	・ 上述のように、訓練内容としては起震車体験という新しいプログラムを導入した他、火災による避難訓練では、初めてＢグループ室にある避難扉からの避難を行った。	実施できました。	
⑤－３ 近隣の福祉施設（藕絲館）や町内会（桜美林台、もみじ台）と合同防災訓練を実施する等して、災害時等の地域連携体制の構築を図ります。	・ 前期中には実施できませんでした。後期に予定されている避難訓練の際の計画に盛り込めるか、今後の委員会にて検討を行う。	着手できませんでした。	
⑤－４ 新たに策定したＢＣＰ（自然災害発災時及び感染症拡大時における事業継続計画）を職員間で共有するとともに、計画に基づく訓練を実施する等して実効性のある物にしていきます。	・ ＢＣＰについては感染症にかかる物は作成したが、自然災害に関する物の作成には未着手。後期に情報収集を行い、作成に取り掛かる予定。従って、前期中のＢＣＰに基づく訓練は未実施。	着手したが達成できませんでした	

⑤ー５ 法人事業所（花の郷やボワ・アルモニー等）と連携を図りながら災害備蓄品について見直し、拡充をおこないます。（備蓄食を3日分から7日分へ、備蓄資材等について最新情報に基づいて拡充する等）。	・リスク管理委員会の担当が警察にアポイントを取っているとされており、後期に防犯研修を計画している。	着手したが達成できませんでした。	
⑤ー６ 研修の実施や警察などと連携を図りながら、防犯への意識づけをおこないます。	・手洗いやうがい、消毒、換気、３密回避等の基本的な対策は徹底している。 その他、東京都から届けられる抗原検査キットを用い、週２回検査を実施（実習生は毎日）している。 また、４回目となるワクチン接種も８月に実施し、１２０名弱のご利用者、職員が接種している。	実施できました。	
⑤ー７ 新型コロナウイルスやインフルエンザ等への感染予防策として、手洗いうがいの励行、換気、３密の回避、マスク着用等を徹底し、安全で安心して過ごせる施設環境を整えます。	・コロナウィルスの感染症分類が５類に変更された２０２４年５月以降も、度々対応基準について緩和しつつも基本的には従前通り厳しい基準で対応を行ってきた。 その成果もあり、単発での発症は見られたものの、花の家内での感染蔓延は防ぐことができた。	実施できました。	
⑤ー８「感染症と食中毒の発生と蔓延防止の為の指針」に基づく研修と啓蒙を通じて、保健衛生の更なる徹底を図ります。	・左記の指針と年間の研修計画に基づき、感染症予防に関する研修と実技を年２回ずつ実施して周知を図った。	実施できました。	

⑥ー１ 小中高等学校、専門学校、大学等の教育機関と連携を図りながら、実習やボランティアの受け入れを行い、福祉教育や後進育成、進路選択、資格取得等を支援します。	・ほぼ例年通り、各種関係機関から要請を受け、介護福祉士、社会福祉士、保育士、公認心理師等の実習受入れを行った。	実施できました。	
⑥ー２ 施設開放や各種講座の開催等を通じ、地域住民の福祉向上に協力する。	・コロナ禍で一時的に休止していた施設開放を全面的に解禁した。 以前利用されていた団体（コミュニケーション支援団体、書道の会等）による定期的な利用が再開された。	着手したが達成できませんでした。	
⑥ー３ 大規模災害発生時に、地域の福祉避難所としての役割を担っていきます。 医療的ケアが必要とする方も安心して利用できるよう防災備蓄品等の拡充に努めます。	・近年言及されることが多くなった南海トラフ地震や首都直下地震等に備え、災害備蓄食料を３食１００人３日分から５日分に拡充することができた。	実施できました。	

【Aグループ】

(1) 目標「ご利用者、ご家族から“利用したい”と思われる支援を実施します。」
① 質の高いケアを提供します。
② 様々な活動等を通し、ご利用者の笑顔を引き出します。
③ ご利用者・ご家族が安心して過ごせる支援を行います。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①-1 ご家庭・医療職との連携を図りながら、心身の健康に配慮します。	日々の支援の中でご家族、看護師、支援職との連携を図り、ご利用者の変化に速やかに気付けるよう支援しました。また、ご自宅等で体調変化が見られた際は、関係機関も含めて連絡を取り合い、来所時に健康面に関わる支援が適切に行えるよう配慮しました。	実施できました。	
①-2 すべてのケアにおいて、基礎の観察力をしっかり持ち、根拠ある支援を行います。	医療的ケアの研修（第3号研修、フォローアップ研修等）や看護師との話し合いを通じ、グループ全職員が健康面（体づくり、排痰、注入等を含む）における適切なケア、観察が行えるよう支援しました。	実施できました。	
②-1 ボランティアや実習生、他のグループの方々など、幅広い人たちと触れ合う機会を設けます。	感染症流行時期を除き、福祉関係の学校の実習生や他グループとの交流を随時行いました。普段関わっていない方が側に来ることで、ご利用者によっては、いつもと異なった表情や笑顔が見受けられました。	実施できました。	
②-2 タブレットやスイッチ等の機器を導入し、新しい活動に取り組みます。	ICT委員会と連携し、視線入力装置の導入を行いました。また、昨年度から継続して行っている「スイッチを活用した活動」を引き続き行いました。しかし、スイッチを新たな活動に結びつけるまでには至りませんでした。	概ね実施できました。	スイッチを様々な活動に結びつけ、ご利用者が意欲的になるよう支援します。

②ー3 受動的な活動の充実、明るい声掛けを心がけ、楽しい雰囲気で行う支援します。	昨年度から行っている音楽やムーブメントなど受動的な活動の中で、楽しい雰囲気を大切にした支援を実施しました。しかし、新たな活動等に目を向けるまでには至りませんでした。	概ね実施できました。	新たな活動や既存の活動の内容を充実させ、ご利用者がさらに楽しめるよう支援します。
②ー4 毎月外出、食事会、季節のイベント等を実施し、メリハリのある日常を支援します。	施設全体のイベント（夏祭り、ハロウィンレク等）以外に、2ヵ月に1回程度外出を実施し、ご利用者がメリハリある日々を送れるようにしました。	実施できました。	
③ー1 連絡帳への返事・記載、体調等の細かな連絡等を確実にし、ご利用者・ご家族に不安を抱かせない支援を行います。	連絡帳を通して、ご家族との情報共有を適切に行いました。また、連絡帳以外にも、電話連絡やメールなど、その時に最も良いツールを活用し、ご家族と情報共有を行いました。しかし、連絡がしっかり伝わっていないことが多々見られました。	概ね実施できました。	ご家族に連絡内容を確実に把握して頂けるよう、その方法を随時考慮します。
③ー2 職員間の情報共有を徹底し、グループ職員全員が同じ方向を向いて支援にあたります。	支援者、看護師を含めAグループと関わる職員全員にご利用者等の情報、施設の情報を共有し、ご利用者がより良い日々を過ごせるよう職員全体で支援を実施しました。	実施できました。	

【BCDグループ】

(1) 目標「多種多様で豊富な活動と社会との繋がりを大切にし、ご利用者・ご家族の笑顔溢れる支援を提供します」
① 様々な活動を提供し、ご利用者の笑顔を引き出します。
② 地域交流や集団生活を通し、自主性と社会との繋がりを大切にします。
③ ご家庭のニーズ等を把握し、地域における自立を支援します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①-1 楽しみと社会性の双方が培われるよう、他のグループとの活動共有を図りながら活動と作業を随時行います。	ムーブメントやスヌーズレン、音楽などの『活動』と、リサイクルや園芸・陶芸などの『作業』を随時設定し、ご利用者個々に合った内容を行えるよう支援しました。	実施できました。	
①-2 新たな内容を模索・実施し、常に高揚感が味わえるよう支援します。	活動の根幹自体は大きく変わることはありませんでしたが、後期ではUVレジンでのアクセサリ製作の取り組みが始動しました。現段階はご利用者とともに話し合いを重ねながら試行錯誤中です。	実施しましたが、結果が不十分でした。	
②-1 ご利用者のできることを把握し、集団生活の中で周囲のことを意識した行動ができるよう支援します。	活動準備や食事の片付け、送迎の乗車確認など、個々でできることを見つけ、それに合わせた声掛け等を行いました。声掛け等に合わせ、各ご利用者も積極的に行動する様子が見られました。	実施できました。	
②-2 安全に配慮した中で地域交流や外出を行い、周囲と関わる機会を豊富に作ります。	感染状況に配慮しながらイオンでのイエローレシートキャンペーンのほか、周辺地域のエコ活動やリス園等へ陶芸製品の納品などに取り組みました。また買い物や外出先では自動精算機を導入する店舗が増えるなど、出先で新たな経験をする機会が多々ありました。	概ね実施できました。	
③-1 家庭環境を把握・理解し、各ご家庭に寄り添った支援を行います。	相談支援かけはしと連携し合い、個々のご利用者・ご家庭に合った社会資源の情報を提供しました。	実施できました。	

【EFGグループ】

(1) 目標「一人ひとりの障がい特性に合わせた活動を提供し、充実した毎日を過ごせるように支援します。」
① 個々のニーズや得意なことを活動や生活の場面に取り入れ、充実した日々が過ごせるように支援します。
② 地域との繋がりを大切に活動を行います。
③ ご家庭やグループホームと連携しながら健康で安定した生活を支援します。
④ ご利用者が楽しめる活動を提供します。
⑤ 職員の障がいへの知識・理解の更なる向上を目指します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－1 他グループと活動共有をしながら、個々の得意なことや興味、状態に合った活動を提供をします。	EFGグループで活動を行い、各グループのご利用者の行動特性などを共有することができました。それにより、ご利用者の状態に合わせた活動提供をすることができました。	実施できました。	
①－2 作業や日々の活動、生活の場面で、ご本人が行えることの幅を広げながら、一人ひとりが笑顔で毎日充実して過ごせるように支援します。	ご利用者一人ひとりのできることを職員が把握し、作業や生活の場面でご自身でできることが増えるよう支援しました。できることの幅が広がったご利用者がいました。	実施できました。	
②－1 施設外での活動（リース等納品やビラ配り、委託作業、出張販売、買い物など）に取り組むに、地域社会との交流を深めていきます。	リースや納品、買い物、外出などの外活動を行いました。納品先の方とのやり取りも含めた、地域社会との交流がありました。	実施できました。	
③－1 ご家庭やグループホームでの健康についての情報を医務と共有しながら、体調把握に努め、必要に応じて関係各所と連携を図ります。	体調不良や怪我をした際、すぐにご家庭やグループホームへ連絡しました。また、その後の経過などを医務と情報共有しました。	実施できました。	
③－2 日々のバイタルチェック及び月1回の体重測定を行い、健康状態の把握に努めます。	毎日来所後に検温とバイタルチェックを行いました。また、月一回の体重測定を行い健康状態の把握に努めました。	実施できました。	

④－１ 毎月の外出や食事会、季節ごとのイベントなどを企画し、ご利用者が心から楽しめるよう支援します。	各グループとも外出や食事会などのイベントを月に一回行い、普段とは違う活動で、充足感が得られるよう努めました。	実施できました。	
④－２ ご利用者が楽しみながら参加できる運動プログラムの充実に努めます。	「運動」の活動内での平均台を増やしたり、午後の３コマ目に「ラジオ体操」を取り入れるなど、プログラムの工夫を凝らしました。	実施できました。	
⑤－１ さらなる障がい理解と知識の向上の為、研修への参加を促します。	「ダウン症の勉強会」、グループ会議内での「強度行動障がい研修」など、知識向上に繋がる研修を実施しました。	実施できました。	

２．就労継続支援事業「クッカ広場」

【全体】

(１) 目標「ご利用者が充実した社会生活を継続的に送れるよう、個々のライフステージやニーズに応じた就労支援・生活支援を行います」			
①	事業収入(売上)１, ７００万円を達成し、工賃向上につなげます。		
②	ご利用者一人ひとりの状態像に適正に応じた就労・生活支援を行います。		
③	心身ともに安全、安心して過ごせる環境を整えます。		
④	質の高い支援とサービスの提供を目指し様々な研修通じて職員育成に努めます。		
⑤	地域に必要とされる施設を目指します。		

(２) 計画	実施状況	評価	今後の課題
--------	------	----	-------

①-1 リサイクル事業では、「楽しく、飽きの来ないショップづくり」をモットーに適宜セールを開催し商品の入れ替えを行い、様々な企画を適時開催します。また、飲み物や季節限定で焼き芋販売を行い、売上1,260万円を達成します。	楽しく・飽きの来ないショップづくりのために、日常的に店内整理や商品補充を行いました。6月・9月・12月・3月にリサイクル全品半額セールを行いショップ内の全リサイクル商品の入れ替えをしました。セールの来ない月にはスカート、ズボン10円企画や300円割引企画、限定商品半額セールなどを実施しました。また新たな企画として日替わりミステリー企画を行い「楽しみにして毎日来ます」等のお言葉もいただき沢山のお客様のご来店と、売り上げ向上につなげることができました。12月から2月には紅はるかの焼き芋販売を実施しました。ショップ売り上げ：14,897,181円、その他の収入：192,320円となり、合計：15,089,501円の収入となりました。	実施できました。	
①-2 ガーデン事業では、季節ごとの草花・観葉のショップ販売を中心に出張販売や外売りに力を入れ、ショップPRと地域貢献に努めるとともに売り上げ250万円を達成します。	5月に町田市の小学校3校に学習教材として使用する花苗や資材の納品をしました。年2回の町田市の小山田児童公園の花壇撤去・植え付と毎月の水やりや清掃の花壇管理を行いました。昨年に引き続き毎月3件と各月1件の観葉リースを行いました。6月の「しょうぶ・あじさいまつり」では商品納品、撤収作業を担当しました。また、注文に応じて、鉢花や演台花の作成をしました。コロナウイルスの感染等もあり、出張販売や外売りの機会はあまりありませんでした。3月の桜祭り開催時に合わせショップ特別営業を行い、新規顧客の獲得に努めました。年度替わり直前に職員の異動や事業内容の変更等があり、植物の仕入れを減らしたためショップ売り上げは減少しましたが経費削減に努め支出を減らすことができました。ショップ売り上げ：1,007,087円・その他の収入（受注事業からの変更分）：1,103,784円となり、合計：2,110,871円の収入となりました。	実施しましたが結果不十分でした。	収入増につなげられるように事業内容の精査を行っていきます。

①-3 受注事業では、花壇管理、除草・観葉リース・施設清掃などの定期契約作業を継続し安定した収入を得るとともに、分別作業などの下請け作業では作業効率を上げ納品回数を増やし、収入185万円を達成します。機会を作り新たな受注作業にも積極的に取り組みます。	年度替わり直前に花壇管理、観葉リース、注文花等をガーデン事業にするという事業内容の変更がありました。C D仕分け作業を効率的に行うために体制や作業環境の工夫をし、納品回数を増やし月平均53,000円と昨年度より、9,000円ほど収入を上げることができました。定期契約での施設清掃や除草作業を年間を通じて行うとともに、2月には町田市社会福祉協議会からの依頼で封入作業を行いました。事業内容の変更がありました。ガーデン事業のその他の収入分がマイナスになっています。C D仕分け作業収入：639,452円 その他の収入：362,852円となり、合計：1,002,304円の収入となりました。	実施できました。	
①-4 各事業で増収を図り経費削減に努め、平均工賃3万3千円を目指します。	リサイクル事業、ガーデン事業、受注事業の各事業において増収を図るための作業の効率化や体制組を行いました。またショップでは各企画のアナウンスや、チラシを作成し売り上げの向上に努めました。作業用品の購入は最低限にし、提供品で作業に使用できるものをできるだけ活用しました。商品値札をリサイクルして使用したり、裏紙をメモ紙に使うなどして経費の削減に努めました。装事業収入：18,202,676円となり、平均工賃3万3千円を上回ることができました。	実施できました。	

②-1 モニタリングやアセスメント面談を6ヶ月毎に行い、ご利用者の状態像の変化に合わせて作業を提供するとともに、健康状態や生活環境の変化を把握しご本人のニーズや課題を整理し支援計画書を作成し支援します。	9月に個別支援計画の振り返りをご利用者とともにを行い目標の達成度の確認を行いました。3月には振り返りとともに次年度個別支援計画に向けた面談を実施しました。また各ご利用者の状態像の変化や新たなニーズ、課題、健康状態や生活の変化を職員間で情報共有し、今後の支援につなげていくことを話しました。	実施できました。	
②-2 ご利用者の精神安定が図れるように積極的にコミュニケーションをとり、必要に応じて面談を行います。	ご利用者が落ち着いて作業や活動に取り組めるような環境づくりに努めました。ご利用者の休憩時間には世間話やご利用者の興味に合わせた話等をしてよりより関係を作るとともに精神的に不安定な方や相談希望のあった方には個別で話を聞いたり、面談を行いました。	実施できました。	
②-3 職場でのあいさつの習慣化やコミュニケーションの図り方、身だしなみへの意識づけなど、社会性が学べるよう支援します。	日々職員から「おはよう」「お疲れ様」「さようなら」「ありがとう」等の挨拶や声掛けを行いました。ご利用者自ら挨拶される方やご利用者間での挨拶や声かけが増えました。衣服やマスクの乱れや汚れなどが見られた際にはその場で伝え、整えていただいたり、着替えていただきました。また、ご利用者の状態像や必要に応じて衛生点検表を活用するなどして身だしなみに対する意識の向上につなげることができました。	実施できました。	

③-1 毎月体重測定を実施します。体調変化の早期発見・対応に努め、状況に応じて医務部門と連携し対処します。医務部門と協力し健康診断、歯科検診を実施します。精神的安定が図れるように相談しやすい環境づくりに努めます。	毎月、きっぷす会で体重測定を行いました。大幅な体重増加が見られた方はいませんでした。医務と連携し7月11日に健康診断、12月4日に歯科検診を実施しました。毎日来所時の検温と様子伺いを行い、顔色や行動の変化を見逃さないよう観察しました。不調や不調の訴えがあった際には状態を確認し、必要に応じて医務に連絡を取り対応、対処しました。精神的に不安定になるご利用者や面談を希望するご利用者には随時面談を行いました。精神的な不調も含め大きな体調不良やケガもなく過ごすことができました。	実施できました。	
③-2 防災訓練・避難訓練・応急救護訓練・防犯訓練を実施します。策定したBCP（事業継続計画）を職員間で共有するとともに計画に基づいた訓練を行います。	11月に生活介護と合同で自然災害編として講義とグループワークによる演習を行いました。講義ではBCPの基礎知識、グループワークではシナリオで設定されている被災状況に合わせての話し合いを机上訓練として行いました。他部署の職員との意見交換ができました。12月6日に感染症研修として動画視聴を実施しました。スタンダードプリコーションについてやノロウィルス、インフルエンザなどの感染症の対応などを学びました。3月10日町田警察署生活安全課による防犯研修を実施しました。さすまたの使用方法や、不審者対策のポイントをご指導いただきました。ロールプレイ方式で実際にさすまたを持って犯人役と職員役に別れ、どこを抑えると効果的かなど参考になる内容でした。	実施できました。	

③-3 様々な感染症や食中毒に関する知識を深め感染症対策を徹底し、蔓延防止に努めます。	日々感染症対策を徹底しました。来所時の検温をはじめ手洗い、うがい、マスクの着用を継続し、作業場、廊下手すりの消毒を実施しました。ショップでは適時換気を行い、使用後の買い物カゴの消毒を継続しました。12月6日には感染症対策研修、2月7日には保健所から手洗いキットをレンタルし、ご利用者の手洗い研修を実施しました。ご利用者、職員ともに普段の手洗いの実態の把握ができたこと、また、ご利用者に自身の手の汚れを見える化することで理解しやすく、意識を持ってもらう良い機会となりました。7月に新型コロナウイルスに集団感染することがありました。発生後すぐに職員ご利用者全員の抗原検査を実施し、感染状況を確認するとともに施設閉鎖をすることで感染が拡大することはありませんでした。	実施しましたが結果不十分でした。	
④-1 虐待防止・身体拘束研修をはじめとした内外部研修を通じて必要な知識や技術・専門性を身につけ、質の高い支援を目指します。	7月12日：障がい者との関係構築・7月24日：自閉症研修12月6日：感染症対策研修・1月10日には虐待防止、身体拘束適正化研修を職員全員で実施しました。職員会議に合わせて虐待防止委員会を開き、学びや気づきを共有しました。	実施できました。	
④-2 法人が求めるキャリアアップとスキルアップに連動した研修計画を立案し質の高い支援・サービスの向上を図ります。研修後に振り返りを行うことでスキルの定着化を目指します	年間を通じて様々な研修を計画し、実施しました。各研修後にお互いの学びを共有するとともに3か月後に振り返りを行いさらに知識を深めより良い支援とサービスの向上に努めました。	実施できました。	

④-3 メンタルヘルスへの取り組みやハラスメントのない環境づくりに努め、職員が安心して働き、成長できる職場づくりに努めます。	職員同士でコミュニケーションを積極的に取り取りました。11月15日には職員全員でハラスメント、メンタルヘルスの研修を実施しました。話しやすく安心して働ける環境作りに努めました。	実施できました。	
⑤-1 各種教育機関や関係機関からの実習・見学や地域住民ボランティアの受け入れを行います。	7月:職場体験2名、11月:町田の丘学園1名、9月から10月には公認心理士、社会福祉士、看護師、支援員など多くの方の実習を受け入れました。また、依頼や希望に応じて小学校、保護者、教員等の見学の受け入れを随時行いました。	実施できました。	
⑤-2 ショップを通じて利用者とともに地域住民との交流を深め、多くの方に花の家を知っていただけるように地域の行事に積極的に参加します。	ショップで様々な企画を開催し、ご来店客を増やし、花の家を知っていただけるように努めました。3月29・30日には尾根緑道のさくら祭りに合わせ特別営業を行いました。コロナ感染による施設閉鎖もあり、夏に行われた地域の行事には参加することができませんでした。	実施しましたが結果不十分でした。	
⑤-3 地域の福祉避難所としての役割を担い、AEDの施設外設置を継続し地域貢献に努めます。	町田市による二次避難所、トイレや発電関連の調査に協力しました。ご利用者玄関外部に地域の方がだれでも使えるようにAEDの設置を継続しました。6月より町田市民と農をつなぐ取り組みの「まちだベジハブ」に参加し地元の生産者が作る野菜の販売を開始し、継続しました。お客様にも好評を得ています。	実施できました。	継続して行っています。

3. 指定特定相談事業所「かけはし」

(1) 目標
① 当事者（ご家族含む）の想いに寄り添った相談支援を行います。
② 当事者のニーズに応え、当事者が望む生活を支える為に、各種サービス利用や社会資源の調整、マネジメントを行い、計画立案と定期的な状況確認（モニタリング）を行います。
③ 相談支援で得られた情報を通して地域における課題を明らかにする中で、障がいのある方が暮らしやすい地域社会の実現を目指していきます。

④ 相談支援の質の向上、相談業務の専門性の習得を目指し、研修等を通じて相談員の育成に努めます。

⑤ 事業の継続と発展を目指し、適正な人員配置と収支バランスを意識した運営を行います。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①-1 ご利用者の想いにより添った、丁寧な相談支援(基本相談)を行います。	・計画書やサービス利用に繋がらないような内容の相談にも丁寧に対応するようにしている。	実施出来ました。	
②-1 ご本人が望むご本人らしい生活の実現を目指して、各種機関・サービスと連携し、サービス等利用計画の作成およびサービスのマネジメントを行います。	・新規受付は行っていない為、従前のご利用者に対する計画相談支援を継続して行っている。 かけはし開設以来7年が経過し、情報も集積してきており、関係機関とのネットワークも構築できてきている。 そのネットワークを通じて、多角的な支援を提供できている。	実施出来ました。	
②-2 定期的な状況確認(モニタリング)を行うことで、ニーズの変化や追加、サービス利用上の課題等に対応していきます。	・職員配置が十分できず、定期的なモニタリング等が計画的に実施出来なかった。	実施出来ませんでした。	
②-3 計画立案やモニタリングに遅れが生じないようにスケジュール管理を確実に行っていきます。	・職員配置が十分できず、定期的なモニタリング等が計画的に実施出来なかった。	実施出来ませんでした。	
②-4 サービス等利用計画に加え、「緊急時予防・対応プラン」を積極的に活用することで、ご利用者の暮らしのリスク軽減を図ります。	・「緊急時予防・対応プラン」について各ご利用者に記入していただき個人ファイルにて保管している。 直接的な利用には至っていないが、情報としては活用できた。	概ね実施出来ました。	

③-1 ご利用者が地域で豊かに暮らせるために、関係機関（相談支援事業所、地域障がい者支援センター、行政、法人連絡会等）との連携を図ります。	・町田市や法人連絡会の相談支援事業所連絡会、忠生地域のネットワーク会議等を通じて顔の見える関係性が構築されている。 いろいろなご利用者の相談に対し、様々な地域の多様な関係機関の協力を得ながら（相談）支援を提供できている。	実施出来ました。	
③-2 相談支援を通じて得られた情報や相談支援事業所連絡会での意見交換を通じて得られた情報等から地域の課題を明らかにする中で、関係機関や行政と連携を図りながら障がいのある方々が暮らしやすい社会の実現を目指してまいります。	・上述した連絡会やネットワーク会議において、個々の事例を踏まえた地域の課題を共有しながら、上部団体等へ改善に向けた取り組みを提案する等の活動を行っている。	実施出来ました。	
③-3 町田市で取り組んでいる「地域生活支援拠点」に参画し、当事者の安心して暮らせる地域作りに向けて貢献していきます。	・条件が整わず町田市地域生活支援拠点事業には参画できていないが、関係機関等と連携したネットワークづくりには参加している。	概ね実施出来ました。	
④-1 法人の新人事制度の活用や研修等を通じて、相談支援の質の向上、相談業務の専門性の習得を図ります。	・法人の研修システム（eラーニング）を利用して知識の習得に努めたほか、町田市相談支援事業所連絡会の事例検討等を通じて、相談支援の質の向上に努めた。	概ね実施出来ました。	
⑤-1 高い質の相談支援を行う為の人員配置を行いつつ、収支バランスが適正に保てるよう、相談件数が月35件を目指して段階的に取り組みます。	・職員配置が十分できず、定期的なモニタリング等が計画的に実施出来なかった。	実施出来ませんでした。	

4. 医務部門

(1) 目標

① ご利用者の安心・安全な生活を目指して心身の健康支援を行います。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①ー1 ご利用者の体調を把握し、異常の早期発見・早期対応に努めます。 ・軽微なけがなどの処置 ・バイタルサインチェック（毎日） ・嘱託医（内科医、小児神経科医）による医療相談（毎月） ・健康診断のチェック（年1回） ・訓練士（PT）による作業訓練（月2回/不定期） ・町田市口腔保健センターによる歯科検診（年1回） ・鶴川記念病院健診部による健康診断（年1回） ・歯科医師による摂食指導	・軽微なけがの処置や体調不良時については支援職員やご家族、グループホームと連携し対応しました。 ・7月11日鶴川記念病院健診部による健康診断を実施しました。（生活介護、就労Bの希望者）健診結果は嘱託医に確認・助言をいただき支援職員と共有しました。 ・町田市口腔保健センターによる歯科健診は12月4日に行われ、結果は支援職員と共有しました。 ・毎月2回嘱託医による医療相談を実施しました。 ・訓練士（PT）による作業訓練等は生活介護の各グループを巡回し支援職員や看護師に対して助言・指導を行なっています。助言を頂いたためグループと共有していきました。	実施できました。	引き続き行なっています。
①ー2 服薬管理を適切に行います。 ・日常的な服薬内容の把握 ・3日分の予備薬管理	・予備薬の交換を行いました。提出物を入れる封筒に、内容物一覧表をつけたことで、提出物の不備は減りました。体調不良時の対応票も、文面を変更した結果、裏面の記載漏れはほぼなくなりました。 ・市販薬、屯用薬のルールについて、支援者の理解は深まりましたが、ご家族への説明がまだ不十分と思われます。 ・ご家庭の事情やSS使用などにより、預かり薬が増えています。	実施できました。	引き続き行なっています。 来年度の薬交換の案内配布と同時に、市販薬等のルールも紙面にてお知らせする予定です。
①ー3 ご家族、主治医、嘱託医、提携病院、他の専門職（栄養士、PT等）支援職員、他事業所等との連携を図り情報の共有をします。	・日々、支援職員、ご家族、嘱託医、他事業所等との連携に努めました。訪看と情報共有を行い連携を取っていきました。	実施しました。	引き続き行なっています。

①ー４ 軽微なけがなどの処置は、支援職員が安全に実施できるように指導していきます。（「医行為でない行為」に基づいて。）	・軽微なけがや虫刺されなどの処置、爪やすり等はその場で支援職員に指導をし処置をできるように努めています。処置前に洗浄してから医務室へ来る支援職員も増えています。 ・あかねにて、坐薬の研修を行いました。	実施できました。	引き続き行なっています。
①ー５ 介護職員等による喀痰吸引等の指導要綱に基づき、対象者への実地研修・指導を行います。	・認定特定行為業務従事者に対して実地研修を行い日々医療的ケアの指導を行いました。座学修了後時間が経ってしまった職員に対し、改めて手技の指導も行います。食品注入が行える支援職員が増えました。 ・１１月注入手技のフォローアップ研修を行いました。	実施できました。	引き続き行なっています。

５．栄養部門

(１) 目標	
①	季節感のあるメニュー、味付けや盛り付けの工夫、利用者の嗜好の反映等に努め、より美味しく、飽きのこない食事の提供を目指します。
②	ご利用者個人にあわせた食事形態を提供をします。
③	HACCPに沿った調理環境の整備、衛生管理を徹底し、安心・安全な食事を提供します。
④	肥満、生活習慣病予防対策としてご利用者の栄養管理を行います。
⑤	知識や技術の向上を目指します。

(２) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①ー１ 旬の食材や行事食を取り入れ、季節感のある食事を提供します。	旬の食材の使用(当施設で採れたじゃが芋の利用、季節の果物や野菜の使用)、行事食(入所式・子供の日・七夕・土用の丑・海の日・山の日・夏祭り・十五夜・ハロウィン・冬至・クリスマス・成人式・節分・バレンタインデー・雛祭り・ホワイトデー)を取り入れ、季節感のある食事を提供しました。	実施できました。	

①－２ 嗜好調査（５月・１１月）残食調査（８月・２月）を実施します。	嗜好調査を５/２０(月)～５/２４(金)に実施。 残食調査を８/１９(月)～８/２３(金)に実施しました。 嗜好調査を１１/１８(月)～１１/２２(金)に実施。 残食調査を２/１７(月)～２/２１(金)に実施しました。	実施できました。	
①－３ 栄養会議を実施し、献立や食事内容の改善を行います。（毎月）	支援各事業所(生活介護・クッカ)へアンケートを配布し、それを元に栄養会議を行いました。（支援からの意見や喫食状況・要望を把握した上で、食事内容の改善を行いました。質問があった場合は、回答を正職会議資料に載せ、全体へ周知できるようにしました。	実施できました。	
①－４ リクエスト給食や栄養部門アンケートを実施し、ご利用者の嗜好を取り入れた献立を作成します。	栄養部門アンケートの要望やリクエスト内容を検討し、献立に取り入れました。	実施できました。	
①－５ 保護者向けの給食試食会を実施し、保護者のニーズや意見を把握します。	今年度も、コロナ対策の為、実施していません。	着手できなかった。	
①－６ マニュアルの定期的な見直しで、安定した食事の提供をします。	マニュアルを見直しをしたが、変更点は見当たりませんでした。	実施できました。	
①－７ グループ訪問を行い、ご利用者の食事状況の把握に努めます。（１１月～３月感染予防週間以外の期間）	今年度も、コロナ対策の為、実施していません。	着手できなかった。	コロナ感染状況・１１月～３月の感染予防週間以外の期間の実施の予定です。
②－１ 支援職員と連携を図り、ご利用者の摂食機能に合った食事形態を、年３回の歯科医師の回診によるアドバイスを含めて検討し、食べやすい食事を提供します。	摂食については、摂食会議の結果１名後期から中期に変更しました。歯科医師の巡回診察(年３回)の結果を考慮している。今年度６月・１０月・２月に歯科医師の巡回診察を行ったが、形態変更の要望はありませんでした。	実施できました。	

②－２ ご利用者個人に合わせたアレルギー対応・制限食等の提供をします。	新規のアレルギー対応・制限食対応のご利用者はおりませんでした。	実施できました。	
②－３ 食品注入に関して、支援・医務との連携を図ります。	1名注入食に移行予定はありますが、具体的な進展は現在の所はありません。	概ね実施できました。	
③－１ 配膳間際の盛り付けや、保温性のある食缶の使用、電子レンジを活用し適温での食事の提供をします。HACCPに沿った衛生管理を行います。	適時適温と調理後2時間以内の喫食を遵守する為に、調理工程の見直しと配膳間際の盛り付け、冷蔵庫での保管等の適切な温度管理を行いました。	実施できました。	
③－２ 細菌検査を実施します。(毎月)	毎月1回実施しました。	実施できました。	
③－３ 冷凍・冷蔵庫、厨房の室温等の温度管理を行います。	調理機器の温度管理を行いました。	実施できました。	
③－４ 手洗い後のペーパータオルの使用・アルコールでの消毒、使い捨てマスクの使用等、衛生管理を徹底して行います。	計画通り徹底して行いました。	実施できました。	
③－５ 電解水、殺菌庫、食器消毒保管庫を使用して調理器具類の消毒や殺菌を行います。	計画通り徹底して行いました。	実施できました。	
③－６ 日常的な清掃(床、冷蔵庫、トイレ他)と定期的な清掃(換気扇、下水)を行い、厨房内を衛生的に保ちます。	日常清掃に加え、随時気になる所の清掃を行っている為、清潔に保つ事ができました。	実施できました。	

③－７ 調理従事者の衛生教育（手洗いチェッカーとノロ研修等）を行います。	手洗いチェッカーは、11/15（金）・11/26（火）に実施しました。 ノロ研修は1/22（水）に実施しました。	実施できました。	
③－８ HACCPに沿った厨房の環境整備を行います。	計画通り徹底して行いました。	実施できました。	
④－１ 年1回実施のご利用者の健康診断のデータと、給与栄養量に基づいた食事を提供します。	減塩をしておりますが、本年度に入って減塩の目標量に達していませんでした。	実施しましたが、結果が不十分。	来年度は、月平均3gを少しでも切れるよう徐々に減塩を進めてまいります。
⑤－１ 調理研修や試食会の参加等を行い、技術や知識の向上を目指します。	4/23（火）に日本食研の八王子支社で夏メニューの試食会に参加しました。こちらで試食した抹茶の水羊羹を7/24(水)土用の丑の日に提供をしました。	実施できました。	
⑤－２ 法人内の他事業所と必要に応じて連携を図り、知識や技術の向上を目指します。	4月の新人研修の折にアルモニーに伺い食堂の見学や備蓄品の見学などをしました。	実施できました。	

6. 運営部門

（１）目標

① 設備環境や人的環境を効率的に運用しながら、健全な財政運営を行います。
② 法人の人事制度と連動させながら、職員の育成と専門性の向上を図ります。
③ 働きやすい環境と自己責任と自主性、チームワークを大切にした強い組織作りを目指します。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ 設備環境や人的環境を効率的に運用しながら、健全な財政運営、資金の確保に努め、将来的に持続可能な施設運営、法人経営を行います。	・花の家とクッカ広場、エール等複数事業を営む多機能事業所として、効率的な人員配置等を行うことができる為、人件費率も70%（前半）に抑えることができる等、全体的に見れば財政面上も効率の良い運営ができています。 ただし、今年度はご利用者6名が施設入所等で退所されたこと等もあり、収支は例年より悪くなっている。	概ね実施出来ました。	

①－２ 財政状態を勘案しつつ、適正な職員配置を行い、予算と現場のバランスが取れた運営を行います。	・花の家とクッカ広場、エール等複数事業を営む多機能事業所として、効率的な人員配置等を行うことができる為、人件費率も７０％（前半）に抑えることができる等、全体的に見れば財政面上も効率の良い運営ができています。 ただし、今年度はご利用者７名が施設入所等で退所されたこと等もあり、収支は例年より悪くなっている。	概ね実施出来ました。	
②－１ 職員個々の職位や経験、自己目標に応じた育成計画を立案し、職員の成長を図ります。	・昨年度に制度化された新人事制度に基づく目標共有面談を実施しました。 階層毎に設定された役割基準等をベースにしつつ、個々の職員の状態像を加味した上で今年度の目標を設定し、年３回面接を実施し、進捗の管理等に努めました。	概ね実施出来ました。	
②－２ 新人事制度と連動する計画に基づいた研修を実施し、支援の質と専門性の向上を図ります。	・新人事制度と研修計画の連動が十分確立されていなかった為、花の家独自の研修計画に基づき職員の育成に努めました。 人事制度や研修を通して期待された成長が見られたかどうかには疑問もあるところです。	概ね実施出来ました。	
②－３ ご利用者の人権擁護・虐待防止の観点から、研修委員会と連携しながら「不適切な支援」事例を通し「適切、適正な支援」方法を考えます。	・昨年度発生した虐待事案以降で虐待や不適切支援の撲滅に向けて取り組んできたはずですが、結果として８月に職員による身体的及び心理的虐待事案が発生してしまう事態となりました。 町田市には手順通りの報告と改善計画を提出し、全ご家族に対しても情報開示をしています。 また、以降は改善計画に沿った研修や取り組みを行い、職員関係や職場の雰囲気等について改善が見られています。	実施出来ませんでした。	

③－１ 職位と業務内容、権限を明確にすることで、一人ひとりの職員が自分の役割と職責を理解し自主的かつ積極的な働きができ、他者への思いやりとチームワークを大切にした職員関係の構築を目指します。	・新人事制度はまだ試行段階ではあるが、少しずつ職位への意識づけもできてきている様子。それぞれの職位にあるものが、相応しい行動を取ることで、良いチームワークが形成されていると言える。	概ね実施出来ました。	
④－１ 産業医の指導を仰ぎつつ、職員の健康管理や健康診断後のアフターフォローを確実に実施します。	・今年度から産業医の関わりが明確化され、健診結果に指導内容が記載されることになりました。今年度に関し、大きな指摘はありませんでした。	実施出来ませんでした。	
④－２ 昨年度策定された「心の健康づくり計画」に基づいた研修等を通じて、職員のメンタルヘルスに取り組みます。	・上述のように、今年度から健康診断結果について産業医に見ていただき、指導と助言をいただけるようになりました。その他、職員のメンタルヘルス等に関しては、必要な事例が出た場合に助言をいただいています。	実施出来ました。	
⑤－１ 昨年度策定された「感染症と食中毒の発生と蔓延防止の為の指針」に基づき、「施設の衛生管理（消毒等）、手洗いやうがい、換気、３密の回避等」の感染予防策を徹底します。	コロナウィルスが感染症分類５類に移行した後も基本的には感染症対策や罹患時、発生時の対応を継続してきました。単発での罹患はありましたが、施設内で感染が広がるようなことはありませんでした。その他、計画通りに年２回感染症予防に関する研修と実技を行う等して、職員の意識と対応力の向上に努めました。	実施出来ました。	
⑤－２ 防災対策では、実態に即した訓練や地域と連携した訓練、備蓄品の拡充に努めます。	リスク管理委員会が所管して、避難訓練やＡＥＤ操作と心肺蘇生、初期消火訓練を行いました。２月に行った避難訓練では、近隣の障害者施設ぐうし館や高齢者支援センターと合同防災訓練を実施しました。	実施出来ました。	

⑤-3 昨年度策定されたBCP（事業継続）に基づいた研修と訓練を実施する等して、大規模災害発生時の事業の継続について学んでいきます。	・昨年度末に作成したBCPに基づく研修と実技を実施しました。第1回目の研修であり、BCPの中身の説明と想定訓練を行いました。	実施出来ました。	
⑤-4防犯対策として、警察署（交番）や地域、関係機関と情報共有し連携を図ります。	・3月に町田警察署による防犯研修（刺す又等を使用した）を実施しました（7年ぶり）。実技を交えた研修から学ぶことは多くあり、参加者からも好評でした。	実施出来ました。	

安全衛生美化委員会

①作業場や生活空間、施設全体の環境整備に努めます。
②感染症予防に努めます。
③事故時の迅速な対応と、重大な事故0件を目指します。
④環境整備、保健衛生、リスクマネジメントに関する研修を実施し、職員の意識向上に努めます。
⑤医務部門と協力し、職員、スタッフ、ご利用者の健康を支援します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①-1 日々、定期清掃の実施	各グループごと決められた箇所の清掃を行うことができました。	実施できました。	引き続き実施します。
①-2 『年3回以上の美化DAY』と『外部への清掃依頼』を実施し、定期的に普段行えない場所を清掃します。	年度内で3回、「美化デイ」と称する日程を組み、職員全体で普段行えない場所を清掃しました。	実施できました。	引き続き実施します。
①-3 担当を配置し、機器類（加湿器や捕虫器等）の管理を徹底します。	各グループの加湿器や扇風機については、グループごと時期をみて設置するなど、適宜管理をしました。また、ホール等に設置していた加湿器、捕虫器に関しては、効果等を見極め、今年度は設置しませんでした。	実施できました。	機器類を設置した際は、管理が適正に行えるよう、その都度担当を配置します。
①-4 理美容の調整をし、月1回程度実施します。	月1回、カットボラを行いました。美容師資格のある職員がカットを行い、ご利用者からの評判も良く、滞りなく実施できました。	実施できました。	引き続き実施します。
②-1 インフルエンザ予防接種の推奨します。	職員向けに助成金を設定し、予防接種を推奨しました。	概ね実施できました。	より効果のある勧奨方法を考えつつ、来年度も実施します。

②－２ 感染予防マニュアルの周知徹底を図り、予防対策を徹底します。また、その時の情勢や保健所・国の指針に則り、状況に適した感染予防対策を随時検討し、実施します。	感染症予防のため、空気清浄機や加湿器を設置し、室内環境に十分注意を払いました。新型コロナウイルスに関しては、国の指針等を確認しつつ、施設独自で濃厚接触者の特定や罹患者の個別対応など、感染が広がらない対応を検討し実施しました。後期にクッカ事業所内でコロナ罹患が広がり、5日間の施設閉鎖を実施しましたが、生活介護事業所等では感染が広がることはありませんでした。	概ね実施できました。	引き続き実施します。
②－３ ノロウイルス等感染性胃腸炎対策については、栄養部と連携し、HACCPや電解水等を活用しながら食品衛生管理を徹底します。	手洗いや嘔吐時の対応、感染予防について研修を実施しました。また、「感染症及び食中毒の予防及びまん延防止のための指針」に則り、職員間で周知できる環境を整えました。	概ね実施できました。	職員全体が指針の内容をさらに把握、理解できるよう、周知方法を検討し、実施します。
③－１ 事故・ヒヤリハット発生時の迅速な対応を行います。	事故・ヒヤリハット発生時は各現場で迅速に行動し、当該者への通院の促しなど、適宜その事象にあった対応を行いました。	実施できました。	引き続き実施します。
③－２ 会議や朝礼等で気づき報告、KYT（危険予知トレーニング）研修などを適宜行い、ひやりはっと等への意識を向上させ、事故を未然に防ぎます。	各グループ会議内でKYT研修等を常時行いましたが、ヒヤリハットを抽出する意識の低下が若干見られました。	実施しましたが、結果が不十分でした。	KYT研修の質の向上、ヒヤリハット抽出に対する意識の向上など、適切な仕組みを考えて実施します。
③－３ 事故・ひやりはっとの記録と管理、周知を徹底し、再発防止に努めます。	事故が起こった際は担当で速やかに会議し、記録と関係者への周知を徹底しました。。また、3か月後に事故のモニタリングをし、その記録の記載も徹底しました。ひやりはっとに関しては、起こったすべての内容を各グループ会議で伝え、共有理解ができるようにしました。	実施できました。	引き続き実施します。

③－４ 上記の計画を行い、重大な事故（通院等を要する）０件を目指します。	支援、送迎、調理を合わせた事故件数は昨年度より多く、４０件以上ありました。そのうち１件が都・市に報告が必要な重大事故（通院が必要、服薬等に関する事故）でした。	実施しましたが、結果が不十分でした。	事故防止の観点から、一つひとつの支援等が丁寧で適切となるよう、その方法を安全衛生委員会で検討し実施します。
④－１ 様々な媒体を活用し、安全衛生等に関する研修（ノロ、手洗い研修）、職員の派遣を行います。	実地研修の他、オンラインやe－ラーニングを活用し、安全衛生に関わる研修を随時行いました。	実施できました。	引き続き実施します。
⑤－１ ご利用者、職員対象の健康診断（年１～２回）の実施と、アフターフォローを確実にを行います。	健康診断を計画通り実施し、検査結果を管理者、産業医で確認しました。その後、再検査等のある職員に関しては声掛けをし、アフターフォローを実施しました。	実施できました。	引き続き実施します。
⑤－２ 腰痛予防PTを設置し、腰痛対策に関して継続的に取り組みます。（アンケート実施・腰痛ベルト支給、機器類の配置等）	腰痛ベルトや膝・腱鞘炎サポーターの助成を行いました。また、腰痛予防PTを設け、昇降リフトの継続的な使用や床走行リフトの導入、アシストスーツの推進など、腰痛予防への取り組みを強化しました。	実施できました。	引き続き実施します。
⑤－３ 心身の健康に関して、事業所の指針『心の健康づくり推進計画』に基づき、適切に対応します。	法人全体でストレスチェックを実施して、職場環境の把握に努めました。また、メンタルヘルスに関する指針の作成や外部相談窓口をポスター等で分かりやすく周知するなど、職員が相談しやすい環境を整えました。	実施できました。	メンタルヘルスに関する指針を職員全体に周知し、今以上に相談しやすい環境を整えます。

送迎委員会

（１）目標

①運転するすべての職員が安全な運転業務を遂行し、車両事故０を目指します。

②ご利用者個々の特性を理解し、車内での安全を確保します。

③送迎を利用されるご利用者のニーズに応えられるよう努めます。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ 職員全体に運転をする上での注意喚起（研修等を含む）を随時行います。	事故や危険な運転があった際は、個々・全体への注意喚起（ドライブレコーダーの映像を見てもらう等）を随時行いました。	実施できました。	

①－２　新しい職員が入職した際はその方の運転技術等を見極め、必要な期間、運転研修や運転実施練習を行います。	運転可能な新しい職員4名（正規職員2名、運転手2名）の運転研修を必要期間行い、事故なく花の家車両の運転に慣れてもらうことができました。	実施できました。	
①－３　ドライブレコーダーを活用し、随時、運転状況の確認を行います。	添乗員等から危険な状況があったと話があった際は、ドライブレコーダーを確認し、その状況の把握に努めました。また、確認した上で運転手に注意喚起をし、安全運転に努めてもらえるよう配慮しました。	実施できました。	
①－４　車両の定期点検を行い、故障時には迅速に対応します。	各車両の車検、6か月・12か月点検を実施しました。また故障等が起きた際は迅速に対応し、安全に運行することができました。	実施できました。	
①－５　上記の事柄を実施し、事故0件を目指します。万が一事故が起こってしまった際は、マニュアル通りの対応を遵守し、同じ事故が起こらないよう速やかに事故検証会議を行います。	・事故発生時の適切対応を全職員・運転手に徹底したことで、事故処理、事故検証会議に関しては不備なく行うことができました。 ・今年度、車両事故は2件（昨年度7件）発生、内1件は緊急搬送と車両の全損を有する事故となってしまう、事故時・事故後の対応（行政への報告、職員の健康状況の確認等）を適宜行いました。	実施しましたが、結果が不十分でした。	上記の計画を徹底するとともに、個々の職員が安全に運転できるかを管理者、送迎委員で見極め、適切に対応します。
②－１　送迎連絡ボードを活用し、注意が必要な事象があった際は添乗員への周知を徹底します。また、送迎時の各ご利用者のマニュアルを更新し、ご利用者の特性を理解して添乗業務にあたれるよう努めます。	各ご利用者の送迎時のマニュアルを再度確認し、ご利用者一人ひとりが安全に乗車できるよう努めました。また、送迎車内での事故、ヒヤリハットがあった際は、その都度、連絡ボードに内容を記載するなど注意喚起を徹底しました。しかし、自傷行為による物損事故等が数回見られました。	実施しましたが、結果が不十分でした。	各ご利用者への配慮をさらに徹底し、車内での安全と風通しの良い送迎運行ができるよう努めます。

③－１ 希望するご利用者全員が利用できるよう、乗車車両や乗車位置の調整を行います。	常に乗車車両や乗車位置を検討し、乗りたい（特別な事情を除く）ご利用者が100%乗れるよう配車しました。	実施できました。	
③－２ ご家庭の状況に合わせて、到着時間等をできる限り配慮します。	ご家庭の要望に合わせて送迎時間の調整をし、ご家族のニーズに応えることができました。	実施できました。	

医療的ケア委員会

(１) 目標			
①医療的ケアを安全且つ適切に実施するための情報共有、検討を行います。			
②医療的ケアに関する職員の知識や技術の向上を図るとともに、認定特定行為業務従事者（以下、従事者）による喀痰吸引等の実施対象者を増やし、ご利用者の活動の幅を広げます。			

(２) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ 医ケア要領に基づき、毎月の委員会内で要医ケア者の体調や手技、リスク、変更事項等の確認を行います。	毎月の委員会にて、ご利用者の健康状態や手技、事故やヒヤリ等の確認をメンバー間で共有することで、日々安心、安全に医療的ケアを実践することが出来ました。	実施出来ました。	
①－２ 医療的ケアに関する書類等を整備し、関係者で共有します。	看護師が医療的ケア実施申請書、医療的ケア指示書、指導医健診記録、医療的ケア実施通知書を整備し、委員会等で共有することが出来ました。	実施出来ました。	
①－３ 最新情報をマニュアルに反映させ、周知徹底を図ります。	支援職が安全にミキサー食の注入が出来るよう看護師がマニュアルを作成し、対象職員と共有しました。また、ご利用者の状況に合わせて追加された手法を個々人マニュアルに反映させることで周知徹底することが出来ました。	実施出来ました。	

①－４ 新たなケアのご要望に対して、主治医や保護者、嘱託医、他事業所等と連携し、よりよいサービスを提供します。	胃ろうからミキサー食の注入を希望されているご利用者らに対して、食事の楽しみをより感じてもらえる様に主食とおかずで分けて提供する様にしました。また、人工呼吸器を新たに着用するご利用者に対して、不明点等について他事業所や嘱託医と安全なサービス提供に向けて連携を図りました。		
②－１ 従事者らによる喀痰吸引等の実施対象者が増えるよう、計画的に実地研修を企画します。	支援職が安心・安全に胃ろうからの注入を実施するため、看護師の実際の手技を見学し、指導を受けて場数を踏みました。支援職が、繰り返し注入に関わることでマニュアルに沿った安全な注入を実施することが出来ました。	実施出来ました。	
②－２ 従事者が同一技術の支援を維持できるよう、フォローアップ研修を企画・実施します。	フォローアップ研修を行い、第三号研修の取得者が手技を振り返る機会を設定しました。	実施出来ました。	
②－３ 医療的ケアや重症心身障がい者支援に関する知識・技術向上のため、他施設への見学や研修の実施、医療従事者と支援職員との情報共有を密に行います。。	新たに人工呼吸器を使用するご利用者を受け入れる準備の為、事前に外部施設に見学を依頼し、情報の共有を行いました。	概ね実施出来ました。	左記のご利用者につきましては、ご家族の判断もあり島田療育センターの通所日を増やす方向となり花の家を退所しています（２月）。

リスク管理委員会

(1) 目標
①大規模災害や防犯対策等へのリスク管理を徹底し、ご利用者、職員の安全を図ります。また、備蓄の充実、避難訓練や防災・防犯研修等を通じた職員やご利用者の防災意識の向上、関係機関や地域ネットワーク構築を行います。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ 避難訓練の想定を工夫し、実効性のある訓練を行ってまいります。	新たな場面想定や訓練内容を検討しつつも、基本的な避難経路や避難訓練を確実に身に付けることを重視して取り組みました。 1回目は通常通り、地震及び火災を想定した訓練を行いました。2回目はぐうし館との共同開催で、今年度は散歩や外出中の発災を想定し、帰途にあるぐうし館へ避難する訓練を実施しました。	実施出来ました。	
①－２ 心肺蘇生やAED操作など応急救護訓練を実施します。	忠生消防署に協力していただき、訓練を実施。今回は特に有期職員を対象に設定し、25名程度の職員が参加しました。	実施出来ました。	
①－３事業継続計画（BCP）に基づく訓練をおこないます。	策定したBCPを基にした研修と実際に発災した際の対応を想定した訓練を実施しました。	実施出来ませんでした。	今年度の内容は主に自然災害を中心としていた為、次年度には感染症に関する内容にも触れた内容を検討します。
①－４ 近隣の自治会や関係施設等との連携を図り、エリア全体で一体的に災害対策に努めます。	①－１参照。	実施出来ました。	
①－５ 町田市二次避難所として、町田市と連携しながら、地域貢献を図ります。	町田市による二次避難所の現調が行われたり、トイレや発電関連の詳細な調査が行われ、協力しています。	実施出来ました。	
①－６ 町田市の福祉施設情報伝達訓練に参加し、災害時等における市や関係機関との連絡の強化を図ります。	町田市から発信されたメールに対し、想定した被災状況等を報告する形で訓練に参加しています。 計画にある「連絡の強化」については特に取り組みはしていません。	概ね実施出来ました。	

①-7 防災備蓄品について見直し、消耗や賞味期限等について管理を行います。	備蓄品や食料品の消耗や賞味期限の管理は計画通り実施した他、今年度は備蓄食料を1.5倍にする計画で取り組みました。	概ね実施出来ました。	
①-8 防災マニュアル、災害時対応マニュアル等の周知を図ります。	備蓄食料の消費（給食で提供）や期限管理、補充等は計画通り実施できました。	実施出来ました。	
①-9 防災、防犯に関する研修会に参加して最新の情報を収集し、施設の防災対策、職員の防災教育を行います。	防災に関する研修には特に参加はしていませんが、防災に関する情報等の収集と周知には努めました。また、防犯研修は町田警察に協力していただき、3月に実施しています。	概ね実施出来ました。	
①-10 施設に合った、防犯対策を検討していきます。	①-9参照。 上記研修の他、今後(年度末～次年度)、事故等への対策目的の見守りカメラを随所に設置予定をしており、防犯対策にも活用する予定です。	概ね実施出来ました。	

研修委員会

(1) 目標

①職員が「知りたい！学びたい！」研修の企画・実践を通じて、職員のスキルアップと仕事へのモチベーションアップを目指します。

②他の委員会と連動しながら、職員の専門性の向上を図ります。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①-1 階層別研修、事業所全体に係る研修、入職必須研修、グループ会議内研修、〇〇強化WEEK等、昨年度の研修アンケートを基に、楽しく学べるような研修計画を立案・執行します。	グループ内研修は特に摂食（5月）、AEDの取り扱い（6月）等、施設内の状況に応じて研修を企画、実施することが出来ました。	実施出来ました。	

①ー２ 昨年度実施した外部講師招聘研修で寄せられた意見をもとに、強度行動障害や自閉症に関する内容に焦点を当て、日々の支援での悩みや困りごとが改善されるような研修を企画します。	7月に外部講師招聘のもと、自閉症に関する研修を実施しました。得られた気づきを日々の支援に活かすため、正職会議内で研修内容を元にしたミニ研修とグループワークを実施し、さらに各グループ会議内で有期職員にもフィードバックを行うことが出来ました。	実施出来ました。	
①ー３ eラーニング視聴後はディスカッションやケーススタディ、事例紹介等を設定します。また、研修後にアンケートや振り返りを通して取得した知識の定着化を図ります。	新人オリエンテーションでは視聴後にディスカッションを行なうことで、あらたな気づきを得ることが出来ていました。各グループリーダー責任のもとグループ会議内で活用するよう促しましたがばらつきがありました。	実施しましたが、結果が不十分でした。	
②ー１ 摂食委員会による摂食勉強会や医療的ケア委員会による勉強会・第3号研修、安全衛生委員会による感染症対策や虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会による必須研修のサポートを行います。	摂食委員会にはミニ研修企画の促しをし、漏れがないようサポートしました。次年度の研修計画に記載することでより計画的に取り組めるようにします。	概ね実施出来ました。	

広報委員会

(1) 目標

①法人で発行する広報誌の紙面、ホームページ等を利用し、花の家の活動を広く地域に向けて周知をします。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①ー１ 年4回発行される法人広報誌の紙面と適宜更新されるホームページを利用して、ニーズセンター花の家で行っている諸活動等について、広く地域に向けて発信します。	広報誌については、特集や時宜に叶った内容で記事を掲載できました。 ホームページの活用については、適宜報告を行ったが、定期的な掲載には至りませんでした。	概ね実施できました。	ホームページ記事の更新については、時期を決めて行うようにする。

人権擁護・虐待防止委員会

(1) 目標

①国や都等における人権擁護や虐待防止に関する情報を収集し、施設内で情報提供、周知徹底を図ります。

②施設内や近隣地域等の虐待に纏わる情報を把握し、施設内で周知、改善を図ります。

③人権擁護・虐待防止に関する研修を通して、職員の意識向上を図り、虐待や不適切な関わりの根絶に努めます。

④定期的に身体拘束の状況について情報共有し、不適切な関わりの有無の確認や代替方法がないか等についての検討を行います。並行して、身体拘束に関する研修を1年0回以上開催し、身体拘束ない支援に関する学びを深めて行きます。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－1 行政や関係機関等から送られてくる人権擁護や虐待防止に関する情報を集約し、職員会議や掲示等を通じて施設内に情報提供し、周知徹底を図ります。	行政や関係機関等から送られてくる人権擁護や虐待防止に関する情報を集約し、職員会議や掲示等を通じて職員に情報提供しました。	実施できました。	
②－1 運営会議の中で施設内や近隣で生じた虐待事例等の情報を収集し、運営者で対応について協議、職員会議等で方針について徹底します。	運営会議の中で虐待事案に関する報告がありました。その後の調査で事実が確認された為、町田市に報告する等所定の手続きを取りました。 当事者を含め、花の家家族会全体にも報告しています。 その後は町田市に提出した改善計画に沿って職員への研修を実施した他、職員会議等で等を通じて管理者が再発防止に向けたメッセージを伝える等して改善に取り組んでいます。	実施できましたが結果が不十分でした。	左記の事案の原因には複数の要因が考えられますが、大きな原因として支援のマンネリ化や職員の人間関係、モラルの低下等が挙げられる為、日常業務の遂行状況についてこれまで以上に観察を密にし、気づいたことがあれば速やかに対応することを徹底します。
②－2 虐待防止月間（10月）にはポスター掲示をする等して、人権や虐待防止への意識付けを図ります。	毎年行っている虐待防止チェックリストを用いた意識づけを行ったり、グループ会議で虐待防止や人権擁護に関わる規程類の読み合わせ等を行いました。が、あまり意識化されていない様子で実効性が課題となっている。	実施できましたが結果が不十分でした。	
③－1 人権擁護及び虐待防止等における研修、虐待防止チェックリストの活用等を通じて、職員の人権意識の向上を図ります。	東京都が主催した人権擁護・虐待防止研修に職員が参加し、その報告研修を全職員に対し行いました。 例年通り、虐待防止チェックリストを行いました。が、回答率の悪さが課題となっています。 その他、虐待防止や権利擁護の意識づけの為、各グループ会議等で規程類の読み合わせを行いました。が、意識向上につながったかどうか疑問が残るところです。	実施できましたが結果が不十分でした。	虐待防止チェックリストの提出については職員に直接声をかける等して提出を促す等、虐待防止への意識向上を図ります。

③ー２ 「不適切な関り」事例を題材にした研修を通し、人権擁護の視点に立った「適切な支援」について学びます。	各グループ会議単位で不適切支援の洗い出しを行う等してより良い支援に向けた検討を行うことになっていましたが、不徹底に終わってしまいました。	実施できましたが結果が不十分でした。	
③ー３ 定期的（３ヶ月目安）に支援方法、声掛けの仕方等について確認作業を行います。	各グループ会議単位で不適切支援の洗い出しを行う等してより良い支援に向けた検討を行うことになっていましたが、不徹底に終わってしまいました。	実施できましたが結果が不十分でした。	
④ー１ 毎月の運営会議において、身体拘束に関する各現場の状況を確認し、結果を全職員に職員会議資料等で公示します。	計画通り運営会議での状況確認の他、対象者がいるグループでは毎月対応について検討を重ねてまいりました。	実施できました。	
④ー２ 止むを得ず拘束する必要がある場合は、マニュアルに照らしつつ、保護者への確認、施設内での情報共有と施設決定、３要件（切迫性、一時性、非代替性）の該当等の手順や条件を達成しているか確認します。	身体拘束に当たる対象者がいるグループにおいて、毎月状況（切迫性、一時性、非代替性）や対応について、専門家（PT等）の助言を受けるなどしながら検討を重ねてまいりました。	実施できました。	
④ー３ また、止むを得ず拘束する必要がある場合は、専門家等の意見や助言等も聞きながら代替方法について検討します。	身体拘束に当たる対象者がいるグループにおいて、毎月状況（切迫性、一時性、非代替性）や対応について、専門家（PT等）の助言を受けるなどしながら検討を重ねてまいりました。	実施できました。	
④ー４ 身体拘束に関する研修会を年１回以上開催し、身体拘束に関する最新情報の共有や身体拘束のない支援等に関する学びを深めてまいります。	毎月身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束の有無や状況の確認を行いました。 また、研修も予定通り虐待防止研修の中で合わせて実施しています。	実施できました。	

サービス向上委員会

(1) 目標
①ご利用者や保護者、職員等の関係者からの要望や苦情、意見等を収集し、事業所運営や支援に活かしていきます。
②国や都等における福祉関連のサービス提供に関する情報を収集し、施設内に情報提供、周知徹底を図ります。
③施設内のサービス提供の実態を把握し、改善、向上を図ります。
④福祉サービスに関する研修を通し、職員の意識の変革やサービスの向上を図ります。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①ーIご利用者のご要望や意見等については年6回行う保護者会や毎年行うアンケートを通じて、また、施設内関係者から直接的な申し出の他、ご意見箱（意見を投函しやすいように新たに設置場所を追加）を活用する等して意見や提案等を収集し、事業運営や支援に活かしていきます。	行政や関係機関等から送られてくる福祉関連の情報を集約し、職員会議や掲示等を通じて職員に情報提供しました。	実施できました。	
②ーI 行政や関係機関等から送られてくる福祉関連の情報を集約し、職員会議や掲示等を通じて施設内に情報提供し、周知徹底を図ります。	今年度については主に感染予防等に関する情報が多かったですが、適宜職員に情報提供と意識づけを行いました。	実施できました。	
③ーI 運営会議の中で施設におけるサービス提供に関する情報を収集し、運営者で対応について協議、職員会議等で方針について徹底します。	意見箱を通して意見を募る等、サービス課題の把握に努めました。意見が出た際には運営会議等関係会議で取り上げ、対応・改善の検討を持った。検討・対応の結果については職員に周知をしています。 （中断していた）家族への「花の家利用に関するアンケート」を実施し、サービス改善に向けた検討材料としています。	実施できました。	

④ーⅠ 福祉サービスに関する研修を実施し、職員の意識変革、知識や技術の向上を図ります。	チェックリストを活用したりグループワークを行う等して虐待防止や不適切支援の防止に関する取り組みを実施したほか、知識や技術向上に関しては、eラーニング等を通じた学びをしています。	実施できませんでした。	
---	--	-------------	--

摂食委員会

(Ⅰ) 目標
①ご利用者が安心・安全に食事が摂れるよう、職員の知識と技術の向上を目指します。
②歯科医師のアドバイスをもとに、ご利用者個人に合わせた摂食指導を行います。
③保護者や歯科医師等との情報共有を図ります。

(Ⅱ) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①ーⅠ 研修委員会と連携し、職員への研修（web研修も活用）を設定し、摂食への意識や知識、技術の向上を図ります。	Ⅰ月は研修委員会企画の基、新人職員を対象とした研修を実施しました。また、2月には各グループ会議内で、口腔ケアについての研修を実施しました。	実施できませんでした。	
①ーⅡ 委員会のメンバーが率先して研鑽し、知識と技術の向上を図りました。	歯科医師からの摂食指導の際、委員会のメンバーが必ず同行し、摂食に関しての最新の技術・知識を学ばせていただきました。	実施できませんでした。	
②ーⅠ 新規入所者、又は摂食に課題のあるご利用者の摂食指導を、歯科医師のアドバイスをもとに行います。	6月、10月、2月に新規入所者と摂食に課題のあるご利用者の摂食指導を、行っていただきました。	実施できませんでした。	
②ーⅡ 摂食指導を撮影した様子と、歯科医師からのアドバイスを担当職員にフィードバックし、日々の食事介助に活用します。	歯科医師からのアドバイスを、担当職員へ当日フィードバックし、課題解決や今後の活用方法などを伝えました。	実施できませんでした。	
③ーⅠ 新規入所者と摂食に課題のあるご利用者を委員会にて把握し、情報共有します。	摂食について課題のあるご利用者のご家族へ、摂食指導がある日程の情報を提供しました。また、グループとの情報共有を図り、課題や疑問点などを事前に整理してもらいました。	実施できませんでした。	

③-2 ご家庭からの要望や摂食状況を考慮し、食形態の見直し・モニタリングをおこないます。	ご家庭から要望があった際は、委員会の中で情報を共有し、速やかに食形態の見直しをする為に、モニタリングを行いました。	実施できました。	
--	---	----------	--

ICT委員会

(1) 目標			
①学習や情報収集、専門家等の助言等を通じて、ICTの利用や活用方法等について研究し、提供します。			
②ICTに拘らず、現状にあった活動内容を模索し、実施します。			

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①-1 ICTに関する研修会に参加したり、専門家や特別支援学級等から情報提供をいただきながら、ICTの利用や活用方法について研究を行い、実践への適用を検討していきます。	CIAO代表の田中氏より視線入力に関しての情報、活用方法の助言をいただきました。機材を購入しA、Bグループのご利用者を中心に活用に至るまで実施する事が出来ました。	実施出来ました。	
②-1 活動全般の知識向上のため、専門家等の助言の場や研修を設定します。	CIAO代表の田中氏に月に一度のペースで各グループを見て頂き、そのグループへのアドバイスを報告書として作成していただきました。	実施出来ました。	
②-2 研修等で得た知識等を踏まえ、新たな活動や内容を検討して実施します。	CIAO代表の田中氏に作成していただいた報告書を元に、その中で各グループ毎に合った物をピックアップし日々の活動の向上に繋げました。	実施出来ました。	

2024年度 花の郷 年間総括

部門別年間総括

Ⅰ. 支援部門

【全体】

(Ⅰ) 目標
①支援者はプロとしての意識を持ち、専門職としての知識、技術の向上、ご利用者一人ひとりの障がい特性を理解する取り組みを行います。
②ご利用者の思いに寄り添った、安心・安全な支援を行い、豊かで幸せな時間を過ごせるようにします。

(Ⅱ) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①ーⅠ 理学療法士、臨床心理士、言語聴覚士の専門職からアドバイスを頂き、ご利用者に寄り添った質の高い支援につなげます。また、日中の様子を「障害児・者QOLサポートラボCIAO」からアドバイスを頂き、支援方法や活動のプログラムの充実図ります。	理学療法士、言語聴覚士、公認心理士を島田療育センターより派遣していただき、また「障害児・者QOLサポートラボCIAO」の田中先生からも日常的な支援とICT機器を使用した支援のアドバイスを受けることができました。体に関わること、食事、環境等ご利用者が快適に過ごすための支援につなげることができました。	概ね実施できました。	ICT機器を使用し、より活動の充実を図っていく。
①ーⅡ 研修に参加し、またe-ラーニングなど自己学習で知識など向上させます。	強度行動障害基礎研修、実践研修、虐待防止研修等、支援に関する外部の研修を積極的に受講しました。受講した職員で研修報告会を企画し、支援正職で学んできたことを共有しました。	概ね実施できました。	継続していきます。
②ーⅠ ご利用者の気持ちやニーズを大切にし、一人ひとりのペースを大切にしたい活動を提供します。	ご本人の得意なことや興味のあることを積極的に取り入れ、集団活動に参加しやすい設定を工夫しました。ご利用者の得意なことを活動の中で共有することができました。	概ね実施できました。	個別対応で安心できる環境を整えた後、集団の中でも個々の力を発揮していけるよう、引き続き、環境整備に努めます。

②－２ 年度内に１回ご利用者面談を行い、ご要望をお聞きして、より良い支援につなげます。面談方法は、対面、電話のアンケートを取り、実施していきます。	ご家族やご本人の要望を確認し、面談の中で再確認できました。対面面談に限定せず、電話での面談を実施することで幅広い時間設定の中で、無理なく実施することができました。	概ね実施できました。	引き続き、実施していきます。
②－３ ご利用者の活動内容をご家族に見学していただく場の設定や活動の情報を提供する機会を作ります。	アンケートにて見学日や活動内容をご希望を調査し、できる限りご希望の活動見学ができるよう設定しました。花の郷で生き生きと活動に参加される様子をみていただくことができました。	概ね実施できました。	引き続き、実施していきます。
②－４ 感染症対策に向けた取り組みとして、密を避けた活動の提供に配慮します。（手洗い、うがい、フェイスシールド着用、換気など）	コロナは４類に移行しましたが、基本的な感染対策は継続し、施設内で感染が広がらないよう配慮しました。濃厚接触者の取り扱いについては、徐々に緩和し、個別対応で受け入れを実施しました。	概ね実施できました。	感染対策に配慮しながら、安心して通所できる場を保障できるよう努めていきます。
②－５ 入浴PT、整容PT、ボランティアPTの計画を進め、花の郷でより充実した時間を過ごせられるようにします。	入浴PTを中心に浴室の整理整頓をし、脱衣所の壁を綺麗に塗装しました。整容PTでは、出張美容サービスルピナスに訪問していただき、カットを実施しました。ボランティアPTでは、花の郷まつりの手伝いや、活動時間にフラダンススクールの人などが来ていただき、ご利用者も一緒に楽しむことができました。	概ね実施できました。	引き続き、実施していきます。

【Aグループ】

(1) 目標
① 安全・安心して過ごせるよう支援します。
② 心身の健康に配慮します。
③ 一人ひとりのニーズやペースに合わせた活動の提供を目指します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①-1 ご利用者一人ひとりに応じた支援を行い、安心・安全・安定した活動を提供します。	ご利用者一人ひとりに合わせた支援をグループ職員で共有し、実施しました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
①-2 支援者間で支援方法の共有をし、グループ全体で安全・安心な環境作りに努めます。	グループ日誌や会議資料、ケースカンファレンスを通して、支援方法の共有をし、安全・安心な環境づくりに努めました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
①-3 心の動きに配慮し、一人ひとりのニーズに合わせた支援を行います。ホール・グループ室を活用し、状況に応じて個別での支援や、少人数の支援を行ない、安心して過ごせるようにします。	グループ室、外作業、ホールなどご利用者の体調や精神的な面を考慮し、活動設定を行いました。	概ね実施できました。	
②-1 日々の生活（活動）の中で、看護師、ご家庭、グループホームと連携を図りながら健康の維持・増進に努めます。	体調に変化があった場合は、速やかに医務に報告し、ご家庭・グループホームと情報共有をしました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
②-2 身体機能の維持に向け、睡眠、体重の把握、運動の保証をします。	園芸・散歩・ムーブメントなど、体を動かす活動や足湯を設定し、基礎代謝を高めました。体制が整わないため、ご利用者の1週間の散歩の回数を把握し、平等に設定できるようにしました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。

③－１ 一人ひとりの自主的な行動や発言を受け止め、可能性・経験の広がりにつながるよう支援します。	活動の中で、ご利用者の自主的な行動や発言が引き出せるよう支援しました。ご利用者の希望の活動を実施しました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます
③－２ ご利用者が楽しく、達成感を得られるような活動（生産、療育）の提供を行ないます。	生産活動では、パッキン作業中の横でムーブメントの時間と被ってしまい、集中できる環境が課題となりました。療育活動は、ブランコを待っている間にバランスボール、ミニトランポリンを実施するなど新たな活動を提供できました。	実施できました。	水曜日の午後は1階のホールが空いているので、今後調整します。
③－３ クッキー、園芸などの生産、販売活動を通してご利用者の社会とのつながりを大事に支援します。	園芸は定期的実施し、収穫物を販売しました。販売の回数が少なかったです。	実施しましたが、結果が不十分でした。	今後も引き続き継続していきます

【Bグループ】

(1) 目標
① 一人ひとりのニーズに合わせた活動提供をします。
② 安全に楽しく食事ができるよう工夫します。
③ 心と体の健康維持を図ります。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ 生産活動や療育的活動の中で、個々の強みを活かした活動設定をします。	個々の能力に合わせてパッキン以外にも、お茶殻をほぐす作業や、花の種植えを取り入れました。トランポリンではできる方は揺られるだけではなく、座位や立位を取って跳ねるなど新しいことにチャレンジしました。	実施できました。	引き続き生産・療育両方の活動の中で、ご利用者ができることを模索し、得意なことを伸ばす内容にします。
①－２ 生産活動の中で、社会とかかわることができるよう活動設定をします。	販売や納品の活動提供はできませんでした。 クッキーに関わる生産活動では、お中元やお歳暮等、たくさんのご注文を頂いていることをご利用者と共有しながら作業をすすめました。	着手できませんでした。	納品や販売については、感染症状況を確認し実施していきます。

①－３ 感染症の状況に応じて外出を設定し、自ら選択する、購入する、金銭のやりとりを行う等の機会を提供します。	新型コロナウイルスの感染状況をふまえながら、短時間での外出を一回行いました。期間が空いてから初めての外出でしたがみなさん安全に楽しく外出することができました。	実施できました。	新型コロナウイルスの感染状況など見ながら実施します。
②－１ 摂食に関しての知識を共有し、一人ひとりに合った食事支援を行います。	日々グループの職員全員が摂食支援（口腔周辺のマッサージやレンジのみ、かじりとりなど）に取り組みました。STカンファレンスではご利用者の評価の確認、摂食支援の確認を行いました。	実施できました。	引き続き日々の支援の中で摂食支援にも取り組んでいきます。
③－１ 安定して過ごせるように、その日の体調や気持ちに合わせた支援を行います。	連絡帳の記載やご本人の様子を見ながら、その日の体調や気持ちに合わせて活動設定を行いました。	実施できました。	引き続き体調や気持ちに合わせた活動調整を行います。
③－２ てんかん発作や体調不良時は、看護師やご家庭、ホームと相談しながら迅速且つ適切に対応します。	発作時は安全に注意して対応しました。また体調不良やけがを確認した時には場合によっては看護師に相談し、連携して対応しました。寝不足の際は活動内容を変更し、安静に過ごせるようにしました。	実施できました。	引き続き発作、体調不良時は適切に対応します。

【Cグループ】

(1) 目標
① ご利用者が安全・安心して過ごせる環境を整えます。
② 充実した活動を提供します。
③ 一人ひとりの健康維持を支援します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ 支援者が連携し合い、環境整理をし、転倒事故やその他事故防止に努め、安全・安心な環境づくりに努めます。	他害、転倒事故はありませんでした。誤飲事故（食べ物を詰まらせる）があり、話し合い、共有し、実践し再発防止に努め、安全安心な環境づくりに努めました。ヒヤリハットも共有しました。	概ね実施できました。	ヒヤリハットの活用しやすい環境作り、事故防止の為の更なる職員意識の向上。

②－１ 創意工夫しながら活動を設定し、充実した楽しい活動を提供できるよう努めます。	ご利用者の精神面、体調に合わせて活動を設定しました。 グループの小集団だからこそ、一人一人にスポットを当て、ニーズに合わせた活動設定をすることができました。	概ね実施できました。	ご利用者にあった更なる活動の工夫。
③－１ 体の取り組みや散歩を定期的の実施し、心身ともに健康維持を図ります。	散歩は安全に出かけることができる体制を整えて実施しました。また、PTからアドバイスをいただくことで、ご利用者の現状に合った体の取り組みを実施することができました。	概ね実施できました。	体の取り組みを行う時間、人手の工夫。
③－２ ご利用者の様子観察を行ない、健康状態や様子の変化の把握に努めます。また、看護師や専門職との連携を図り適切な対応をします。	記録表を用いて、てんかん発作や排泄の記録等について、ご家庭やグループホームと共有しました。STの評価を受け、できていること、現状の課題、将来に向けて必要な支援を理解することができました。	概ね実施できました。	年齢と共に変化する摂食機能の観察。口腔内の健康維持。

【Ｅグループ】

(１) 目標
① 障がい特性を理解し、健康面に配慮をします。
② 安全で楽しい食事を提供します。
③ 充実した活動を提供します。

(２) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ 一人ひとりの体調に合わせた生活ペースを大切にします。	ご利用者個人の意思や体調、ペースを尊重しながら、無理のない範囲で集団生活を送れるように配慮しました。	実施できました。	安全性の確保、より快適なスペースの確保について考えていきます。

①－２ 看護師と連携し、認定特定行為業務従事者が安全な医療的ケアを実施します。	口鼻腔吸引、胃瘻、経鼻胃管などの医療的ケアに関して、第三号研修を実施し、看護師と協力して安全に配慮した医療的ケアを行いました。 また、カニューレフリーの気管切開部の吸引も看護師のもと支援職員も安全に実施しています。	実施できました。	積極的に医療的ケア者との関わりをもち、看護師と連携しながら、添乗、フォロー等に入れるようにしたいと考えます。また、他グループに異動になった職員であっても定期的に、手技の確認を行います。
①－３ 体調の変化や緊急時には保護者、看護師と素早く連携を図ります。	体調変化があった時や新型コロナウイルスの疑いなど、緊急時には保護者、看護師と連携を取り合いました。	実施できました。	継続します。
②－１ 安全に楽しく食事できるように支援します。	決まった時間に食事をし、和気あいあいとした雰囲気のなかで食事を行いました。	実施できました。	ご利用者を交えた内容の会話を心掛けていきます。
③－１ ムーブメントや音楽、スヌーズレンなど感覚を刺激する活動を大切にします。	ムーブメントではブランコ、トランポリン、サーキット、陣取り等様々な取り組みを行いました。朗読では沢山の本を読みました。朝顔やマリーゴールドの摘み取り等ガーデニングも行いました。	実施できました。	よりご利用者に楽しんで頂ける療育的活動を検討していきます。
③－２ 常に活動の工夫をしながら安全に楽しく参加できるようにしたり、外出や季節感のある行事を通し、豊かな時間を過ごせるようにします。	レクリエーションではご利用者がより関わりやすく楽しめる工夫をしました。	実施できました。	ご利用者に楽しんで頂く活動を検討していきます。

【Fグループ】

(1) 目標
①一人ひとりの体調に配慮し、安定した生活、楽しく安全な食事を提供します。
②一人ひとりのニーズに合わせ様々な活動を設定し、充実した時間を過ごします。
③たくさんの人との関わりを楽しみ、人間関係を広げます。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①ー１ ご家庭と連携し、看護師と相談しながら全職員で安心して生活できる環境を作ります。	ご家族や、看護師と連携を取り情報を共有しながら支援しました。必要に応じて看護師に相談し、安心安全に過ごせるよう環境を整えました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
①ー２ 一人一人に合わせた形態で食事を提供し、安全に食べられるよう食具や姿勢、介助方法を全職員で共有します。	安全に食事が出来るよう、一人一人に合わせた食事形態で提供しました。形態食の再調理を職員に共有しいつでも形態食が提供できるようにしました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
②ー１ 一人ひとりのニーズや興味に合った活動を設定します。出来る事が増えるよう支援しました。	一人一人が自信を持って出来ることを探しました。特性を理解し得意分野では幅が広がるよう提案し、苦手なこともチャレンジ出来るような環境を作りました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
②ー２ 安全に充実した活動を設定し、楽しく過ごせるよう支援します	安全に過ごせるようグループ室の環境を整えました。歩行などの妨げにならないようカットテーブルや椅子の場所を工夫しました。季節に応じた装飾をし楽しめる空間を作りました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
③ー１ 活動を通していろいろな人との関わりを楽しめるよう支援します。	沢山の職員とコミュニケーションが取れるよう、会議等でご利用者の情報を共有しました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。

③ー２ 外出する機会を設定し、地域社会とつながる機会を作ります。	今年度成瀬体育館内にある福祉レストランにランチ外出にいきました。好きなメニューを注文し召し上がっていただきました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
④ー１ 必要に応じ、面談やカンファレンスを設定します。また、関係機関との連携を図り、地域生活を支援します。	ST、PTのアドバイスをいただき職員に共有しました。 また担当者会議に出席し、関係機関と情報交換することが出来ました。	実施しましたが、結果が不十分でした。	

２．生産活動部門

【クッキー】

(１) 目標			
① 新型コロナウイルスの感染状況に応じた販売、納品を設定し、地域社会とのつながりを広げていきます。			
② 品質の向上、新製品の開発により花の郷ブランドの向上を目指します。			
③ クッカ広場、花の家、委託販売先と連携を図り、販売を促進します。			
④ 工房の作業工程を見直し、多くのご利用者の作業参加を目指します。			
⑤ 年間売り上げ３８０万円を目指します。			

(２) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①ー１ アグリハウス、テラスでの販売、クッカ広場、ダリア園の納品の設定を設定し、ご利用者が関わられるようにします。	納品はダリア園、クッカ広場へ納品に行きました。アグリハウスの販売は２回実施しました。	概ね実施できました。	テラス販売を実施します。
②ー１ ご利用者の意見やお客様の声を大切に、品質の向上に努めます。	贈答用のBOXのかけ紙を草木染で染めた半紙にしました。１階のご利用者が半紙を染め、２階のご利用者が裁断機で切る作業をしました。	実施できました。	
②ー２ 工房会議を定期的に実施します。	定期的に実施しました。	実施できました。	

③ー１ 花の家やクッカ広場と協力し、委託販売、お中元、お歳暮を通して販売促進に努めます。	計画的にお中元、お歳暮の案内を配布し、作業することができました。	実施できました。	
④ー１クッキー作りの作業を見直し、支援職員、工房職員とご利用者が参加出来る作業方法を考え、環境を整えます。	2階でクッキー工房に入るよう呼びかけ、A、Bグループ数名が作業に参加しました。	概ね実施できました。	定期的に作業に入れるよう、工房職員への引継ぎ、各グループへのアナウンスをします。
⑤ー１ 委託販売や地域のイベントなどの出張販売に参加します。	花の郷まつり、赤い屋根まつりでクッキーの販売をしました。年間の売り上げは400万弱となりました。	実施できました。	
⑤ー２ ホームページ、チラシ等を利用し、クッキーに関する情報を発信します。	イベント（クリスマス、ハロウィンなど）用のクッキーはチラシを配布しました。ホームページの内容を変更しました。	実施できました。	

【動物用クッキー】

(1) 目標
① 誰もが参加出来る環境を整え、一人ひとりが力を発揮できるよう作業設定を行います。
② 動物用クッキーの宣伝活動を行い、地域に根ざした活動を展開します。
③ 年間売り上げ3万円を目指し、安全な商品を提供します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①ー１ 活動時間や参加人数は、一人ひとりのご利用者の特性を理解した上で最適な設定・配置をします。	設定できませんでした。	着手できませんでした。	作業設定の時間、場所を確保が難しい。
①ー２ 道具や環境、身だしなみを整え、安全で衛生的な活動を提供します。	設定できませんでした。	着手できませんでした。	

①－３ 作業行程を細分化し、一人ひとりのニーズに合わせてそれぞれの得意なことを活かした作業を設定します。 (生地作り、型抜き、袋詰め、買い物、パソコンでのポスターやラベル作りラベルのスタンプ押し等)	設定できませんでした。	着手できませんでした。	
②－１ 定期的なテラス販売、花の家の納品を設定し、ご利用者が関われるようにします。	設定できませんでした。	着手できませんでした。	作業設定を確保します。
③－１ 計画的な活動設定を行い、安定した生産・販売を行います。	設定できませんでした。	着手できませんでした。	計画的な活動設定、活動場所を設定します。来年度は活動を見合わせ、環境が整い次第、活動を再開します。
③－２ 動物の愛護及び管理に関する法律（動物愛護管理法）、食品表示法に基づき、商品のラベルの作成、品質管理に努めます。	設定できませんでした。	着手できませんでした。	

【草木染】

(１) 目標
① ご利用者の作業意欲や持っている力を引き出せるよう支援します。
② 植物採集を通して五感に働きかけます。
③ 販売を実施し社会参加を支援します。

(２) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ 紙すきや紙の染色、紙パッキングや紙ちぎりなど、様々な作業を行うことで個々のニーズに対応し作業意欲を高めます	各グループでご利用者の能力に合った活動を提供しました。出来ることが増えるよう作業方法を工夫しました。	概ね実施できました。	

①－２ちぎる、すくう、押す、伸ばす、叩く、はがすといった作業工程を通じてご利用者のもっている力が発揮できるよう支援します。	作業工程を細分化しご利用者ができる作業から実施していくことで、作業能力を引き出すことができました。	実施できました。	
②－１ 植物を採集することで四季折々の草花に触れ、観たり匂いをかぐことで様々な感覚に働きかけます。	季節に応じて植物を育てたり、採取したりすることで五感に働きかけるよう支援しました。	実施できました。	定期的な花の採集、年間を通した草花の栽培を行っています。
③－１ ご利用者、購入者ともに満足のいく製品を作製し、社会参加意識と売上げ向上につながる支援を行います。	新型コロナウイルスの影響のため、販売は実施しませんでした。	着手できませんでした。	

【園芸】

(1) 目標
① 作業を通して、運動量の確保、健康の増進に努めます。
② 他の生産活動との連携を図り、生産活動全体の収入増を目指します。
③ 花の郷敷地内の土地の有効活用を行います。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ ご利用者のニーズ、能力に合せた作業提供を行います。	ご利用者の状態像に合わせた作業を提案しました。室内でも出来る作業や車椅子でも出来ることを考えました。ポットへの種植えや筒を使い畑に種を撒く活動を提案しました。	実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
①－２ 土運びや土ふるい等、体を動かす活動を行います。	気候により外活動が制限されることがありましたが、無理のない範囲で運動量を確保しました。	概ね実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
②－１ クッキーに使う野菜の栽培、ペパーミントの管理をします。	今年度栽培した野菜をクッキーに使用することは出来ませんでした。ペパーミントは工房と協力し管理しました。	実施しましたが結果が不十分でした	今後も引き続き継続していきます。

③－１ 作業棟が園芸作業だけでなく、他の活動や会議に使用できるよう、清潔な環境を維持します。	作業棟の環境に配慮し清潔な状態を保てるよう、整理整頓をしました。	概ね実施できました。	今後も引き続き継続していきます。
③－２ 花の郷内の敷地内の土地を有効活用し野菜の栽培などを行い園芸収入アップとご利用者の豊かな生活に繋がるよう、年間を通して活用を試みます。	限られた環境で野菜の栽培を工夫して行いました。気候や天候に左右され例年ほどの収穫ができませんでした。収穫作業は沢山のご利用者に経験していただけるよう周知しました。	概ね実施できました。	今後も引き続き継続していきます。

３．医務部門

(１) 目標			
① ご利用者と支援の安全に配慮した環境を整えます。			
② ご利用者の個性を考慮した専門職との連携を強化します。			
③ 指導看護師として医療的ケアの安全な実施を継続します。			
④ ご利用者の口腔衛生環境 向上に努めます。			

(２) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ 健康にかかわる情報を中心に支援職員と共有します。	日々各グループに入り、健康ニーズの把握及び健康観察について職員と共有しました。主に電話面談や手紙等でご利用者の健康相談を実施し、支援職員と共有しました。	実施できました。	高齢化、二次障害、てんかん発作の変化等、ご利用者の健康状態は常に変化することに対応できるよう看護師一人ひとりが専門性を発揮できるようにしていきます。
①－２ 緊急時、災害時等、非日常的な生活を想定したご利用者の医療情報を整理します。	預かり薬の管理を継続しました。薬の種類により管理方法が異なる事や、常時変化する処方経過を追う事がよりスムーズに行えるよう工夫が必要です。感染対策備品の備蓄を再点検し、整理しました。	概ね実施できました。	預かり薬について、一施設で実施することの意義を再確認します。

①－３ 生命に関わる事故 予防・早期発見・対策の学 習会を実施します。	「命」の研修として、窒息・心臓 について研修を行いました。摂食 支援について、グループ職員とリ スクを共有しました。	実施できま した。	支援職員が知りたい 事や知っておくべき ことを研修として継 続していきます。
②－１ 専門職に関わる基 礎知識や技術を共有し、支 援のサポートに努めます。	相談事業では、各専門職からの助 言を支援に反映できるよう、支援 職員が中心に実施できるよう協力 しました。今年度対象者を含め、 相談を実施した全員の記録を確認 しました。ご利用者のニーズに気 づく視点について、支援職員に声 掛けをしました。	概ね実施で きました。	相談内容が支援にき ちんと反映されてい るか、潜在的ニーズ をどのように捉える かを、支援職員と共 有し続ける必要があ ります。
②－２ 看護の専門性を支 援に反映できるよう看護師 会議で共有します。	送迎添乗を調整し、朝に看護師会 議を実施しました。そこで看護技 術に関わる最新のエビデンスを共 有したり、身体拘束等施設として の取り組みを共有しました。日常 タイムリーな情報共有として、送 迎添乗・検温終了後に毎日ショ ートミーティングを実施しました。	実施できま した。	看護師会議は随時、 毎日のショートミー ティングを継続して いきます。
②－３ 施設看護師として 地域連携に努めます。	受診同行・関係者カンファレンス 等に参加しました。入院時等情報 提供書を作成し提出したことで、 退院に向けて主治医と連携がと れ、通所再開の受け入れを整えま した。	実施できま した。	要望がある時以外で もこちらから発信し ていく時間を計画的 に確保します。
③－１ 計画的に実地研修 を行います。	実地研修対象者を明確にし、日々 支援体制の調整と協力を得て、計 画的に実施研修を実施することが できました。	実施できま した。	実地研修評価票の改 訂が必要です。

③－２ 認定特定行為業務従事者が安全に業務継続できる環境を整えます。	認定特定行為業務従事者の研修マニュアルを作成し、運用しました。計画的にフォローアップ研修を実施しました。	実施できました。	認定特定行為業務従事者が安全に実施できるよう、継続して計画的な実施ができるよう努めます。
④－１ 口腔ケアに関する啓蒙活動及び学習の機会を作ります。	歯科検診の結果及び悩みごとのアドバイスや記録など、歯科検診を実施したご利用者一人ひとりに内容を還元しました。アドバイスは支援マニュアルに反映させました。職員で共有したい内容をポスターで掲示（クイズ）し、職員自ら学ぶ時間を作りました。	実施できました。	摂食及び全身状態に影響する口腔ケアの大切さについての啓蒙活動を継続し続けます。
④－２ ていねいにしっかり磨く支援を職員間で共有します。	各グループにの支援に入ること、歯磨きの機会に看護職員が介入することができています。歯科受診の結果等を職員間で共有しました。	実施できました。	必要に応じて、周知を繰り返すことがあります。

４．栄養部門

(１) 目標	
① 季節感のあるメニュー、味付けや盛り付けの工夫、ご利用者の嗜好の反映等により美味しくて飽きのこない食事の提供に努めます。	
② ご利用者個人にあわせた食物形態（形態食）での食事の提供に努めます。	
③ 食事環境の整備、職員の衛生の徹底を図り、衛生的で安全な食事を提供します。	
④ ご利用者一人ひとりに快適な食事時間を設定し、ご利用者に適切な支援を行います。	
⑤ 災害時に備え、防災食の備蓄します。	
⑥ 食品ロスを削減する取り組みを行います。	

(２) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ 季節の食材の使用や行事食を取り入れ、季節の感じられる食事を提供します。	野菜、魚、果物など旬の食材を使用した献立を意識しました。また、季節行事に合わせてこどもの日やハロウィン、クリスマスなどのメニューを献立に反映しました。	実施できました。	今後も、お食事を通して、季節を感じられる行事食を提供していきます。

①－２ 嗜好調査（５月・１１月）残食調査（８月・２月）を実施します。	・残食調査 ８月２１日～８月２５日 ２月２６日～３月１日 ・嗜好調査 ５月２２日～５月２６日 １１月２７日～１２月１日 に実施しご利用者の嗜好の把握や献立メニューに反映しました。	実施できました。	今後もご利用者の嗜好を把握し、おいしく楽しい食事時間を提供できるよう、工夫していきます。
①－３ 位置合わせを随時行い献立や食事内容の改善を行います。	花の郷栄養部門でその都度献立についての話し合い、改善を行いました。また、今年度は、栄養会議を３回実施し、厨房職員間で業務改善のため取り組む内容を決めました。マニュアル化されていないものを見て確認できるよう、文章、表等にしたもの共有しました。	概ね実施できました。	今後、定期的に話し合いを設定していきます。
①－４ リクエスト給食を実施します。	リクエスト給食は各グループご利用者に、昼食時に食べたいメニューなどアンケートを取り、献立に反映させました。保護者向け給食試食会は、感染予防のため実施を控えました。	実施できました。	感染予防を最優先しながら、保護者向けの試食会の実施については検討していきます。
②－１ 個人個人にあった食物形態の食事の提供をします。〔形態食（初期・中期・後期）普通食・アレルギー食・〇〇なし食・ダイエット食〕	食札を使用してご利用者個々に合わせた食形態食やアレルギー食など間違いが無いように対応しました。	概ね実施できました。	提供できる食数を超えているため、形態食を提供できない分は、各グループにて支援職員が再調理し提供しました。
②－２ ニーズに応じた治療食の提供をします。	治療食の必要のあるご利用者については個別に作業指示書を作成し、ご利用者に合った栄養管理を実施しました。	実施できました。	今後必要に応じ、対応していきます。

③－１ 大量調理マニュアル及びハサップに則った衛生管理を行います。	ハサップに準じた形の衛生管理を実施しました。細菌検査、手洗いの徹底、中心温度測定、消毒、マスクの着用などを行い食中毒予防に努め安心して食べられる食事を提供しました。また、毎日の清掃、業者による清掃、年末の清掃など実施することができました。	実施できました。	引き続き、継続していきます。
③－２ 給食会議を設定し、栄養部門の現状や課題を職員間で共有し、より安全な食事提供ができるよう努めます。	厨房業務終了後、調理正規職員、調理補助有期職員、栄養士、のほか、看護主任、または施設長が参加し、現状の共有、今後の課題等を話し合いました。	実施できました。	次年度は、４月、８月、１１月、３月に会議を予定しています。
④－１ 食事中的訪問やアンケートの実施、必要に応じて支援職員と連絡を取り合い、喫食状況の把握に努めます。	厨房職員が各グループを回り、ご利用者の食事の様子を観察する機会を作りました。ご利用者が食事を楽しみにしている様子やおいしく食べている様子、また、好み等を支援職員と共有することができました。	実施できました。	引き続き、継続していきます。
④－２ 各グループと協力し、よりよい食事時間・食事環境を整えます。	毎日、一定の時間に提供しました。 栄養士による各グループの再調理の実施や食事介助の支援に入ること、ご利用者の食事の様子や環境を把握することができました。	実施できました。	引き続き、ご利用者の食事の様子を知るために、食事介助や食事の様子の見学を実施します。
⑤－１ 防災食の備蓄をし、災害時にも不安なく食事提供ができるよう準備します。	ご利用者６０名分を想定した防災食の備蓄をしました。賞味期限を管理し、災害時に不足のないよう補充しました。	実施できました。	７日分から１０日分の備蓄ができるよう、準備していきます。

⑤－２ 防災食の日を２回設定し、食べる体験、提供する体験を継続し、災害時に備えます。	年２回、防災食の日に昼食として提供し、食べる経験、提供する経験をしました。給食と同様の盛り付けで提供され、ご利用者も抵抗感なく、食べることができました。	実施できました。	引き続き、継続していきます。
⑥－１ 食品ロスを削減する取り組みを行います。	ロスなく提供できるよう配膳状況や喫食状況を確認しました。また、防災食の日を実施し、備蓄食品が期限内に提供できるよう工夫しました。	実施できました。	引き続き、継続していきます。

委員会年間総括

Ⅰ．虐待防止委員会

(Ⅰ) 目標
① 虐待防止や身体拘束廃止に取り組めます。

(Ⅱ) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ 虐待防止責任者を設置し、虐待防止に取り組めます。	虐待防止責任者を施設長とし、毎月虐待防止委員会の開催を行い、ご利用者の呼称ポスターの作製や職員会議資料にて虐待防止の啓蒙を実施しました。虐待防止委員会の中で身体拘束についての適正化に向けた検討を実施することができました。また、職員に虐待防止研修や強度行動障害支援者養成研修（基礎、実践）を受講してもらい、研修で学んだことを職員において発表をしました。	実施できました。	
①－２ 毎月最終火曜日に虐待防止委員会を開催し、虐待や身体拘束防止の検討を行います	施設長中心に虐待防止チェックリストの配布集計、ケアカルテへの身体拘束の状況入力を行いました。	実施できました。	
①－３ 虐待防止アンケートを実施し職員全体に虐待防止に関わる啓蒙活動を行います。	チェックリストを実施し、３年分の意識の高まったところ下がったところをまとめ、職員会議資料として配布し啓蒙活動に結びました。	概ね実施できました。	

①-4 12月、2月にグループ会議で虐待に関するケースカンファレンスを行います。	グループ会議にて身体拘束を職員が体験する研修を実施しました。ベルトや抑制帯の体験を通し、自由に体が動かせないことでの苦痛や不自由さの中で感じる感情の動きについて職員間で共有しました。また、強度行動障害の研修では、言葉では伝えられないことのもどかしさ、周囲に理解されないこと、周囲の事を理解できないことを体験する研修を実施しました。	概ね実施できました。	
①-5 会議録等は法令順守責任者である理事長へ報告をします。	会議録をデーターで所定のフォルダーに入れ理事長時報告しました。	実施できました。	
①-6 会議で話された内容は職員会議を通して職員周知を行います。	感染予防のため、グループ会議は紙面により実施しました。グループ会議の資料に虐待防止標語を載せ、折に触れて確認できるようにしました。	実施できました。	

2. 安全衛生委員会

(1) 目標	
①	ご利用者・職員の安全及び衛生のための教育を実施します。
②	ご利用者・職員の健康の保持増進のための措置を行います。
③	施設内の重大事故を未然に防ぐ事故防止に努めます。
④	ご利用者・職員が快適に過ごせる施設環境を整えます。
⑤	感染症対策を徹底し、感染予防に努めます。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①-1 毎月定例の安全衛生委員会を開催し、利用者・職員の安全衛生及びひやりはっと事故防止に向けた取り組みを行うとともに緊急の課題が発生した場合はただちに対処します。	毎月定例の委員会他、随時開催することで、感染症の発症や事故対応について検討、方針決定をしました。委員会では課題と対応、周知などスケジュールを明確にしました。感染対策については、現状に合わせて制限の解除をしていきました。	実施できました。	ヒヤリハットの件数が減っています。積極的にヒヤリハットを共有し、事故を未然に防ぐ意識が必要です。

①－２ 研修会（こんな時どうする？）、会議（感染症、事故防止、対策（年２回）、腰痛、車いす操作）の定期開催のほか、職場のニーズに応じた学びの場を作ります。	「命の研修」というテーマで、ご利用者の急変リスクや対応についての研修を実施しました。今年度は、身近な課題である「窒息」「心臓の機能」をテーマにしました。	実施できました。	今後も、施設内で発生する事案について、未然に防ぐための取り組みを実施していきます。
①－３ 職員が安全安心して働ける労働環境の整備をします。	安全衛生委員会で検討が必要なケースについては随時検討、確認を行いました。 面接等で発見した課題については、必要に応じ委員会で共有し、対策の検討をしました。	概ね実施できました。	職員一人一人の状況を把握することはできませんでした。
②－１ 嘱託医と連携を取って安全・衛生面の向上に努めます。	月１回の定期健診や医療支援の相談等その都度連絡をとり、安全に安心してご利用者が花の郷をご利用いただけるように努めました。	実施できました。	
③－１ 施設内での事故及びひやりはっについて検証し、原因及び再発防止に努めます。	毎月月締めで月ごとのひやりはっの確認を行い、情報の共有を図ることができました。また、車両事故、ヒヤリハットについてドライブレコーダーによる事故検証及び事故防止の啓蒙を行いました。	概ね実施できました。	ドライブレコーダーが機能しているか、適宜確認し、必要に応じ、SDカードの交換を行う。
④－１ 施設内の安全、快適な環境整備について維持し更に改善します。	各事故検証会議において事故の原因再発予防に努めました。 重大事故につながる可能性があるケースについては、具体的な対策を安全衛生委員会から発信し、対応を実行しました。	実施できました。	

④－２ 事故につながる前のひやりはっについて職員に意識してもらうように啓蒙し、用紙に記入、分析したものを集計し、事故防止につなげます。	ヒヤリハットの件数が減少傾向にある際は各部署に再アナウンスし、職員に意識を持ってもらうように努めました。	概ね実施できました。	委員会前のひやりはっの確認及び件数減少について対策が必要です。
⑤－１ 事業所における施設感染予防マニュアル・指針・ＢＣＰに沿った運用を行い必要時、改訂します。掃除や再調理等小項目のマニュアルを見直し、より精度の高い内容に改訂します。	ＢＣＰの内容や更新について、会議内で確認しました。また、各部署で全職員が参加できるように資料を準備し、研修、訓練を実施しました。緊急対応として形態食、注入食を現場再調理で実施する機会がありました。今後活かすため、実施した内容を総括し、現場再調理のマニュアルを作成しました。	実施できました。	ＢＣＰ、マニュアル等、現状に合わせて見直しや更新をしていく。

３．医療的ケア委員会

(１) 目標
① 医療的ケアを適切に行うために委員会運営を行います。
② 実施者の知識、技術向上に関する教育を適宜行います。
③ 認定特定行為業務従事者、特例実施者が安全・安心に医療的ケアができる環境を整えます。
④ 第３号研修及び医療的ケア、緊急時対応の研修を実施していきます。
⑤ 医療的ケアの啓蒙を行います。

(２) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ 毎月１回、委員会を開催し、適切に医療的ケアが実施できているか確認します。	毎月１回開催し、認定特定行為従事者、特例実施者の医療的ケアに関する現状確認、要医ケア者の現状確認、検討事項として、たんの吸引等の実施の為の研修内容の確認等々検討し、また、医療的ケアに関する研修に関しても情報を共有するようにしました。	実施できました。	

①－２ 適宜、医療的ケアの内容の確認や変更事項やご利用者の体調の把握に努めます。	看護師や各フロアの主任に医ケアの内容や確認、変更事項、体調把握に関する報告をしてもらい、内容によっては検討し情報を共有し、安全に医療的ケアができるように努めました。	実施できました。	
②－１ 医療的ケアに関する研修への参加の機会を認定特定行為業務従事者及び特例実施者に設けます。	正規職員、有期契約職員に対して認定特定行為業務従事者になるための研修を実施しました。また、異動した正職などの吸引、注入のフォローアップ研修を行いました。	実施できました。	
②－２ 医療的ケアを実施する場面で、手技や配慮する点などの看護師によるOJTや確認を実施します。	日常の支援の中で看護師と同じ空間でご利用者支援をしているので、随時看護師によるOJTや確認を実施し、安全に医療的ケアができるようにしました。また、送迎時のみ吸引をする職員には別途看護師の元、手技の確認を行いました。	実施できました。	
③－１ 職員にマニュアルの周知徹底を図ります。	４月９日特定職員研修、てんかん発作時の座薬挿入研修の実施しました。 認定特定行為業務従事者研修は、５月１５日と９月４日に経験者、未経験者に分けて２回実施しました。それぞれの特徴に合わせて学習を深めることができました。	実施できました。	

③－２ 情報提供を行うことによって指導医と主治医の連携の強化を図ります。	ご利用者の体調の変化や入院等があった場合は指導医に必ず報告し、また、主治医に意見や情報を確認したい場合は書面にて連絡を取り合い、ご利用者の状態をしっかり把握し、支援することができました。	実施できました。	
③－３ 法人の医療的ケア指要項に基づいて花の郷医療的ケア要領、細則の運用を行います。	法人の医療的ケア実施要項に基づいて花の郷医療的ケア要領、細則の運用を行い安全に花の郷での医療的ケアを実施することができました。	実施できました。	
④－１ 計画的に研修を実施し、健全、確実な運用を行います。	年間計画に沿ってに実施しました。花の郷内部での認定特定行為業務従事者の育成を計画的に行うことができました。	実施できました。	
④－２ 職員に認定特定行為業務従事者の認定を取得してもらい、ご利用者の生活の保障等を目指していきます。	計画的に研修会を実施し、有期契約職員にも認定特定行為業務従事者の認定取得を計画的に実施できています。そのことでご利用者の支援に反映することができました。	実施できました。	
⑤－１ 施設見学の受け入れや医療的ケアに関する研修や連絡会に参加します。	今年度、希望があれば施設見学や実習を実施しました。積極的な受け入れや研修参加はありませんでした。	実施しましたが、結果が不十分でした。	

４．送迎委員

(１) 目標
① ご利用者が安心して花の郷へ通えるよう、安全な送迎業務に取り組みます。
② 「基本ルート表」に沿って毎月送迎車の運行を行います。
③ 総括を行い、送迎業務の見直しをします。

(２) 計画	実施状況	評価	今後の課題
--------	------	----	-------

①－１ 車検以外にもディーラーに依頼し定期点検を行い、また花の郷でも定期的な点検を実施することで、車輛の安全確保に努めます。	ディーラーに依頼し、６ヶ月点検、１２ヶ月点検、車検を行いました。基本的に金曜夕方から日曜にかけて実施することで送迎に支障が出ないよう配慮しました。	実施できました。	継続して車両の安全確保に努めます。
①－２ 車中ではシートベルトの他に、必要に応じて胸ベルトをすることで更なる安全対策に努めます。	ご利用者の特性や座る座席に合わせ、シートベルト以外に胸ベルトをするなど安全対策を施しました。また、個別支援計画にその旨を記載し、保護者にも確認をとりました。	実施できました。	必要なご利用者に対してのジュニアシートの使用の検討。継続してご利用者の安全確保に努めます。
①－３ 運転手は急ブレーキや急発進などをしないよう心がけ、安全な走行に努めます。	運転手はご利用者が安心して乗車できるように安全な運転を心がけました。	概ね実施できました。	継続して運転手は安全な走行に努めます。ヒヤリハットや事故があった際は全員で共有して日々の業務改善に努めます。
①－４ 車内では利用者の座席配置に気を配り、安全に過ごせるよう配慮します。	ご利用者の障がい特性に合わせた座席配置を行い、安全に過ごせるように配慮しました。	実施できました。	継続して車内でのご利用者が安全に過ごせるよう配慮します。
①－５ 緊急時におけるマニュアルを作成し、対応の統一を図ります。	緊急時の対応の統一化へ向け「送迎引継ぎ表」を作成しました。	実施できました。	来年度も継続して使用し緊急時における対応の統一化を行います。
①－６ 「運転手マニュアル」を継続して活用し、断続的に見直しを行います。	昨年度作成した運転手のマニュアル・添乗員のマニュアルを使用し、送迎車の運行を行いました。	実施できました。	来年度も継続して使用し業務の統一化を行います。
②－１ 送迎ルートは原則固定とし、年度途中での大幅な見直しは行いません。	新規ご利用者の追加を除き、大幅なルートの変更は行いませんでした。年度途中に送迎時間の効率化の為、一部ルートの変更を行いました。その際は影響があるご利用者に対し、事前に電話連絡にて時間変更の連絡をし、許可をいただきました。	実施できました。	来年度も原則、ルートを一年間固定します。必要がある場合は臨時の送迎会議を行います。

②－２ 毎月１０日前後に送迎連絡表（キャンセル表）をご利用者に配布し、翌月の送迎ルート表に反映させます。	毎月送迎連絡表を配布することで円滑に送迎業務を行うことができました。資源の使用の削減の為、希望するご利用者のみ毎月配布とし、そのほかのご利用者は、基本年始の一回のみの配布としました。	実施できました。	来年度も送迎業務円滑化のため希望者には送迎連絡表を毎月配布します。
--	---	----------	-----------------------------------

５．防災委員

(１) 目標			
① 花の郷関係者の防災への意識を高めます。			
② 災害時の食事を体験します。			
③ 応急救護訓練の実施をします。			
④ 災害備蓄品の見直しを行います。			
⑤ 災害時のマニュアル等の整備を行います。			

(２) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ 年２回総合防災訓練を実施し実際に火災が起きた場合の自衛消防隊の動きの確認、消火器の使い方、通報の仕方、避難の仕方を確認し、防災への意識を高めます。	年に２回、総合防災訓練を実施しました。実際に避難訓練を行い、防火管理者による消火器使用の説明事務所内内線を使い通報訓練を実施しました。ご利用者、職員の防災への意識を高めることができました。今年度設置したプロパンガス式の発電機の説明を防災訓練時に行いました。防災訓練の前にBCPの見直しを行いました。	実施できました。	継続していきます。
②－１ 年１回炊き出し訓練を行い、防災備蓄品の調理の仕方の確認、ご利用者への適切な食形態への対応の練習、かまどなどの設置の確認を行います。	新型コロナウイルス対応のため、炊き出し訓練は実施できませんでしたが自家発電機エネポの確認を定期的に実施することができました。防災食の日として、防災食を安全に提供しおいしく食べる経験を積むことを目的とした取り組みを実施しました。	概ね実施できました。	炊き出し訓練の実施や厨房で調理ができないときの食事提供の方法を検討していきます。
③－１ 防災備蓄品に二時避難所として必要な物品を再確認します。	防災備蓄食材を中心に購入し、備蓄することができました。（形態食含む）	概ね実施できました。	貯蓄量を計画的に増やしていきます。

④－２ 用途別、期限の有無、追加備品などの整理を行います。また、内容について管理していきます。	備蓄食材の在庫管理を行いました	概ね実施できました。	貯蓄量を計画的に増やしていきます。
⑤－１ ９，２月に防災委員会を開き、施設及び設備の点検、防災倉庫の整理、花の郷災害マニュアルの作成、花の郷二次避難所開設マニュアルの整備等を行います。	事前に防災倉庫点検及び清掃を実施しました。衛生品を増やせるよう棚を造設しました。防災委員会では施設点検をしました。各種防災関連の引継ぎ時に確認を行いました。	概ね実施できました。	二次避難所開設マニュアルの見直しが必要です。

６．花の郷祭り

(１) 目標			
①	年一回の施設の開放と大きな地域交流の場として花の郷関係者及び地域の方々にも楽しんでい		
②	地域の方々に来ていただくためにＰＲ活動を行います。		
③	安全に楽しめるように企画します。		

(２) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ ステージ企画や模擬店を通じて地域の方々と交流の機会を設けます。	４年ぶりに開催しました。ステージ企画はスティームパン演奏、バンド演奏の２団体の他、町田ゼルビアのマスコットキャラクターにも出演してもらい楽しいステージとなりました。近隣の少年野球チームや他事業所の模擬店、キッチンカー等にも出店してもらい、地域との交流を深めました。	実施できました。	ステージ出演団体の選定、依頼法。
①－２ 他団体に声をかけ、イベントや外の販売ブースなど充実できるようにします。	法人内のクッカ広場、他事業所の赤い屋根、森工房、少年野球チームの鶴川イーグルスターズ等の他団体に声を掛け、販売ブースを充実させることができました。	実施できました。	収益を得るための販売の検討。

②－１ ポスターやビラを作成し、近隣へ配ります。	近隣へのビラ配りは行わず、ポスターを大蔵町町内の回覧板や掲示板に掲示してもらうように依頼しました。他事業所や関係者にも案内文と併せ、ポスターの掲示依頼を郵送しました。	実施できました。	
②－２ ご利用者の活動とも連携し、計画的にビラの配布を行います。	上記の為、ビラ配りは実施しませんでした。	着手できませんでした。	
③－１ 花の郷祭り実行委員会を開催し、企画の立案と安全かつ効率的に運営できるようにします。	新型コロナウイルス感染防止対策の為の安全対策について検討を重ね、屋外開催についての企画運営を進めました。他、定期的に実行委員会で話し合いを重ね企画準備を進めました。	実施できました。	経験の少ない職員含め、実行委員外の職員とも準備の業務を分散しながら、主体的かつ効率的に進めること。
③－２ ご利用者、職員全体が主体的に楽しく、達成感が持てる関わりができるよう企画します。	ご利用者、保護者、職員に対し、４年ぶりの祭りへのモチベーションを高めてもらうため、祭りに先行してＴシャツ販売を行ったり、玄関前にステージ出演者の情報を掲示し情報共有を図るなど、各自が主体的に参加できるように工夫しました。	実施できました。	ご利用者、職員が準備段階から主体的にかかわるための工夫。

９．日中一時支援

(１) 目標
① 今まで日中一時支援の仕組みを再考します。
② 日中一時支援中のご利用者の過ごし方及び送迎について検討します。

(２) 計画	実施状況	評価	今後の課題
①－１ 今までの日中一時支援について改善点を検討します。	職員が送迎業務が入ることが多く、受け入れ体制が整わなかったが、ご家族の通院など、緊急時のみ、日中一時を実施しました。	実施しましたが、結果が不十分でした。	体制が整い次第、コロナ禍前のように受け入れできるか検討する。

①－２ 日中一時支援の内容、業務について改善点を検討します。	実施出来ませんでした。	実施出来ませんでした。	体制が整い次第、コロナ禍前のように受け入れできるか検討する。
②－１ 日中一時支援検討委員会の中で送迎の実施について検討していきます。	実施出来ませんでした。	実施出来ませんでした。	体制が整い次第、コロナ禍前のように受け入れできるか検討する。

2024年度 ボワ・アルモニー 事業報告

経営計画

(1) 目標
目標1. ご利用者がより豊かな生活が送れるよう「働くこと」と「自立生活」を念頭に置き、 工賃向上と共に社会生活の向上のサポートに努めます。(就労継続支援B型)
目標2. 地域資源としての施設の有効活用を行います。
目標3. 適正収支を確保します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) - ①ダイレクトメール作業を通じ、各ご利用者自身の技術向上を図り、より適正な工賃をご提供できるよう、取り組みます。また日常生活においても自立に向け、合理的配慮を基本に取り組んでまいります。 (就労継続支援B型)	主に職員が行っていた資材準備等をご利用者に担っていただけるよう、ご利用者の障がい像に合わせ、時間を掛け、作業に取り組む際に何がネックになっているかを確認し丁寧に支援した結果、すべてのご利用者の自立度向上に繋げることができました。	実施できました。	次年度も継続します
- ②ご利用者ご自身の体力の低下や情緒面等に考慮し、レクリエーション等を計画し楽しく過ごせる環境をご提供します。ご家庭の状況等を鑑みて、相談支援事業所や地域支援センターと協力して適切な対応をとってまいります。 (生活介護)	自助具等を作成し今まで苦手になっていた作業に意欲的に取り組んで頂く等働く事の喜びに繋がられました。活動にも力を入れ、月2回のレクリエーションでは、体力の維持向上に繋がられるカリキュラムや季節の移ろいを感じるウォーキングにも取り組みました。ご家庭やGHでの様子も参考にし、生活で悩み事がないか確認し、相談支援事業所や支援センターに繋ぐ取り組みも行いました。	実施できました。	次年度も継続します
- ③SDGSを意識した取り組みを行います。	特にサステナブル(持続可能)な資源循環を意識し、本体、分場の作業時に出る段ボール等の紙ごみを捨てるのではなく、根岸町内会様に協力するスタイルで、再生紙として活用できる取り組みました。(根岸町内子供会の収入に充てられる)	実施できました。	

(2) -①ひとり親世帯における生活環境の不安定要素やヤングケアラー問題等、子供たちを取り巻く厳しい環境に対し、町田市の協力もいただきながら、現在運営されている子ども食堂事業者の方々への協力を中心に活動してまいります。	子ども食堂を運営されている事業者への協力等を想定していましたが、実行できませんでした。	着手できなかった	町田市や子ども食堂を運営されている事業所に対し、アルモニーで協力できることを中心に取り組んでいきます。
-②二次避難所として整備をしていきます。	二次避難所として有事を想定した整備に取り組みました。	実施できました。	引き続き、食材、飲料水等の確保、BCPを基に有事の想定に取り組んでまいります。
(3) -①人件費率を75%以内にします。	離職者も多い状況という理由でアルモニーとしての人件費率は達成できています。	実施できました。	予算も念頭に置きつつ、健全な人件費率を保てるよう運営してまいります。
-②事業活動収支差額を10,000,000円とする予算管理を目指します。	出勤率の100%を目指しながら運営に取り組みました。	実施できました。	ご利用者の体調や情緒面の様子を確認しながら、出勤率を高めます。ランニングコストの見直しも含め、今後も削れるコストを洗い出し予算管理に努めます。
-③保守契約の見直し、水道光熱費、事務消耗品（白黒印刷、ペーパーレス化等）の無駄を省き、コストカットを徹底します	水道の水漏れや無駄と思われる光熱費にも注目し節約に取り組みました。ペーパーレスを基調とし、できるだけ紙を出さないよう、メールでの対応や可能な範囲で裏紙でのプリントアウトに心掛けました。	実施できました。	次年度も継続します

就労継続支援B型

Ⅰ. 支援部門

(1) 目標
目標1. 心も体も健康に働き続けられるよう支援します。
目標2. 地域との関わりを持って生活できるよう支援します。
目標3. 集団の中で個別支援をチームで実施します。
目標4. 職員の専門性の習得、資質の向上を図り、サービスの質の向上に努めます。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) -①日々の健康状態の把握（健康観察票による出勤時の確認）、毎月の体重測定、半年ごとの体脂肪率測定、口腔ケア（休憩時のうがいの実施・口腔ケアの職員補助）、健康診断、歯科検診、問診を実施します。	健康診断、歯科検診、ブラッシング指導・インフルエンザ予防接種を実施しました。検査や診断結果を保護者と共有し、治療などに結びつけてることができました。	実施できました。	高齢化に伴う、健康管理・身体機能低下の把握が課題です。
-②生産活動において、ご利用者の体力、腰痛などの身体への負担に配慮して役割分担や作業を提供します。	体力低下の防止のため、体調に合わせ資材準備等にも取り組んで頂きました。また腰痛予防等の観点から、長い時間座位にならないよう、立位での作業等を提供しました。	実施できました。	次年度も継続します
(2) -①行事を通して地域の方々の交流の実施。みんなの会で実施する美化活動を通しての地域貢献を行ないます。	アルモニー祭りを開催し、地域の方々との交流を図りました。 美化活動を、生活介護事業所（分場）が中心に取り組みました。	概ね実施できました。	アルモニー祭りでは、地域の方々への情報提供が足りず、多くの方の来場が達成できませんでした。
(3) -①生産活動を通して、ご利用者の状態像や目標に合わせた作業内容や作業環境を職員で検討、共有を適宜、対応します。	その日のご利用者の状態に合わせ、適宜、作業環境を調整・設定しました。	実施できました。	次年度も継続します

(4)-①各職員の目標管理に基づいて、外部研修に参加・研修報告を会議などで実践し専門職として必要な知識や専門性を身に付け、適切な支援ができるように努めます。	目標管理に則った専門職として知識を身に付けるため、ケース検討会議や内部研修を行い、外部研修にも参加しました。また毎日、夕礼等を始め、日々のご利用者の状況をスタッフ全員で話し合い支援の質の向上に繋げています。	実施できました。	次年度も達成に向け、計画を行い継続します。
---	--	-----------------	------------------------------

2. 生産活動部門

(1) 目標
目標1. “働く”ことから「生きがい」「やりがい」が実感できるよう支援します。
目標2. ご利用者の技術向上を図り、できる作業を増やし工賃アップを目指します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
【全体】(1)-①毎月の作業実績・売上をグラフに表し、みんなの会で発表し仕事の達成感を共有します。	売上をグラフ化し、支援会議での報告、検討、食堂の掲示板に掲示し、みんなの会にて報告をしました。	実施できました。	次年度も継続します
(2)-①個々のスキルや目標を、作業の納期や作業量に合わせ、ご利用者の作業分担を検討、個々に設定し実施していただきます。	自立度の向上に向け、資材準備、機械操作等をご利用者を中心に組みました。	実施できました。	次年度も継続します
【就労継続支援B型】 (1)-①ご利用者が毎日意欲を持って、個々の持つ力を大いに発揮していただけるよう、作業の組立・工程の工夫、個別スペースを活用し作業を実施します。	ご利用者像に合わせ、各々の力が充分に発揮できるよう職員間で、話し合いました。レイアウトや声の掛け方、見通しを分かり易く示す等を行い、モチベーションを保てるようまた、意欲的に取り組めるよう支援しました。	実施できました。	職員の欠員の補充が急務となっており、募集の強化を勧めています。

-②その日の作業量の目標数を掲示して達成感を感じられるようにします。	漠然と作業に取り組むのではなく、一日の目標をご利用者と職員で相談しホワイトボードに目標数を記入し意欲的に取り組むことができました。	実施できました。	次年度も継続します
(2) -①各ご利用者の技術向上を図り、新たな作業・機械操作にもチャレンジしていきます。	○冊子を出し並べる作業、PP袋・紙封筒の50単位の仕分け等の資材準備作業 ○封緘機、丁合機、紙織機、係数カウンター機等の作業機械操作 ○宛名チェック、割符の記入等の作業 職員がご利用者の障がい像に合わせ、時間を掛け、作業に取り組む際に何がネックになっているかを確認し丁寧に支援した結果、すべてのご利用者の自立度向上に繋げることができました。	実施できました。	次年度も継続します
-②受注量150,000通/月以上、収入月平均1,200,0000円/月以上を目標とします。	平均工賃35,000円を下回らないように達成しました。	実施できました。	ご利用者の自立度の向上を図る為、受注量の調整を行います。

生活介護

Ⅰ. 支援部門

(1) 目標
目標1. 心も体も健康に働き続けられるよう支援します。
目標2. 地域との関わりを持って生活できるよう支援します。
目標3. 職員の専門性の習得、資質の向上を図り、サービスの向上に努めます。
目標4. 余暇活動を設定し、充実した時間を過ごします。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) -①毎朝健康状態の確認し把握、毎月の体重測定、半年ごとの体脂肪率測定、口腔ケア（休憩時のうがいの実施・口腔ケアの職員補助）、健康診断、歯科検診、問診を実施します。	健康診断、歯科検診、ブラッシング指導・インフルエンザ予防接種を実施しました。検査や診断結果を保護者と共有し、治療などに結びつけてることができました。	実施できました。	次年度も継続します。
-②生産活動において、ご利用者の状態像に合う作業を提供し、無理なく取り組み易い作業を提供します。	有期職員を含めた朝礼を行い、ご利用者の状態や作業内容を確認し共有しました。 自助具を作成し、新たな作業に取り組んだり、苦手な作業でも取り組みやすい手順を検討し、取り入れながら個々に合わせて作業提供することができました。	実施できました。	次年度も、ご利用者ができる作業を増やせるよう、作業工程やレイアウトなどを検討し、よりよい環境で作業提供ができるようにします。
(2) -① みんなの会で実施する美化活動を通しての地域貢献を行います。	レクの予定の中で、近隣の美化活動の時間を設定し、ゴミ拾いを行いました。定期的に行うことで地域への貢献ができました。	実施できました。	直接的に地域の方と交流する場の設定が課題です。美化活動を通し、町内会への貢献ができるよう次年度も継続していきます。次年度は公開作業を行い、地域の方に事業所を知っていただけるよう取り組んでいきます。

(3) -① 各職員の目標管理に基づいて、Web研修や外部研修に参加し、研修報告を会議などで実施し専門職として必要な知識や専門性を身につけ、適切な支援ができるよう努めます。	積極的な外部研修への派遣は実施できませんでした。職員の支援の質向上のため、年間を通してケース検討を行い一人一人のケースについて確認を行いました。また、日々の振り返りの時間を設定し、就B・生活介護での活動の状況を共有し全体での把握ができるようにしました。	概ね実施できました。	職員配置が年々少なくなり、補充されない状況の中で、外部研修の派遣が難しい現状があります。Eラーニングなどを有効に活用しながら職員の学びの時間の確保ができるようにしていく必要があります。また、研修受講後は受講職員がフィードバックを行うことを基本とし、全体での知識の共有と、個人の知識の定着を図っていきます。
(4) -①ご利用者のご希望を取り入れながら、毎月2回の余暇活動を計画・実施します。	月2回レクを実施しました。クッキングや制作など季節や行事を感じられるような内容も工夫し、作業とのメリハリをつけることができました。	実施できました。	作業状況に合わせて実施することが多く、あらかじめ予定が決まっていない状況だったため、レクが続いてしまうこともありました。あらかじめ日程を設定することで計画的に実施できるようにしていきます。

2. 生産活動部門

(1) 目標
目標1. ”働く”ことを大切にします。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) -① DMソリューションズの作業を中心として、平均工賃7,200円を目指します。	封入以外に新たに封緘作業や宛名貼りにも取り組んでいただく機会を提供したことにより平均工賃7,200円を達成できました。	実施できました。	次年度も継続します
-②個々のご利用者の状態に合った作業を提供し、出来るだけストレスがなく楽しく取り組めるように支援します。	ご利用者の状態や作業内容により、作業の配置変更を行い、意欲的に作業に取り組めるようにしました。自助具を作成し、新たな作業にも挑戦し、自信に繋げることができました。	実施できました。	次年度も継続します。高齢化に伴う身体機能の低下や、障がい像に配慮した作業や環境設定が今後課題になってくるため、少しずつ検討していきます。

-③働くことの大切さを ご利用者と一緒に考えて いきます。	個々の特性に合わせた仕事 のしやすい環境や、ご利用 者自身が取り組みたい作業 の提供も意識し、働くこと の意欲につながり目標工賃 を達成出来ました。	実施でき ました。	次年度も継続します
-------------------------------------	---	--------------	-----------

3.栄養部門

(1) 目標			
目標1. 日本人の食事摂取基準に基づいて、ご利用者一人ひとりに適正な栄養のある食事、 年間を通して飽きの来ない美味しいランチ提供を目指します。			
目標2. ご家族等を対象に試食会を実施します。			
目標3. 調理員の知識や技術の向上をはかり、危害分析重要管理点HACCP(ハサップ)に基づい た衛生管理の徹底をして、安心・安全な食事提供をします。			
目標4. ご利用者のご希望が多かった食育活動を実施します。			
目標5. 災害時に備えて、通常通りの食事の時間に温かい食事提供が出来るように、 事業継続計画（BCP）を取り入れた食事の訓練を計画的に実施します。			

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) -① 一人ひとりに 適正な栄養目標量を設定 して献立作成を行いま す。	個別の栄養目標量を4月、1 0月に設定して必要な栄養 が摂取できる献立作成を行 いました。	実施でき ました。	次年度も継続。
-② ご利用者の嗜好調 査、アンケート、健康診 断の結果、食事時の訪問 を通して利用者の摂食機 能や食事状況の把握に努 めて、支援職員、看護師 と連携を図り、必要な栄 養素を摂取出来る食事 量、食事形態を考慮した 給食を提供します。 また、肥満の方（BMI 25%以上）には、カロ リー33%減で食物繊維が 豊富なマンナンヒカリ入 りごはんを提供します。	アンケート調査の結果や個 人の嗜好への配慮、健康診 断や通院の結果を踏まえて 個別の計画を立て食事提供 を行いました。 肥満傾向のある方にはマン ナンヒカリ入りご飯を提供 しました。	実施でき ました。	次年度も継続。

－③ 季節の行事食の提供、ご利用者一人ひとりの誕生会を誕生者のリクエストメニューで実施します。毎月、選択メニューも実施します。	リクエストをご利用者全員にお聞きし、誕生会とリクエストが多い時には、その月中に実施して喜んでいただけました。選択メニューは月２～３回実施しました。	実施できました。	次年度も継続。
－④年間を通して飽きの来ないように、旬な食材を用いた新メニューを取り入れて提供します。	旬の食材を使用した季節感のある、色彩豊かな食事の提供を行いました。また、ご利用者から、さまざまなリクエストをいただけて、新メニューの開発にもつながることができました。	実施できました。	次年度も継続。
(２)－①「食材の品質」「冷蔵庫・冷凍庫の温度」「調理員の健康管理や衛生的な作業着の着用」「調理中の重要管理のポイント」などHACCPの考え方を取り入れて立てた衛生管理計画の表に、毎日記録をつけて確認をします。	出勤時や調理中に、それぞれの書式にもれなく記入をして、HACCPの考え方を取り入れた衛生管理の徹底をしました。	実施できました。	次年度も継続。

－② 昨年度に引き続き、コロナ禍に伴い密をさけてパーティションを設置し、2交代制での給食提供をし、酸性水やアルコールを用いて常に消毒を行います。 ※国の定める感染症法上の分類の引き下げ等を鑑み、給食提供方法を検討します。	6人掛けのテーブルに互い違いに3名の席をご用意して一人ずつにパーティションで仕切り、食堂の準備時、ご利用者の入替時、食事終了後には必ず消毒を行いました。コロナが5類になってからは、パーティションや交代制は中止して、セルフ方式配膳に戻しました。	実施出来ました。	感染状況等に合わせ、食事をする環境を整えていきます。
－③ 清掃チェックリストに基づいた清掃の他、5月と11月に厨房内、食堂の大掃除を実施します。	出来る限り通常業務を早く終わらせるように努力をして、5月、11月に一カ月をかけて、厨房内、食堂、ベランダ、窓、外回り、トイレ、各種フィルター等を丁寧に掃除をしました。	実施できました。	次年度も継続。
(3)－① 春夏秋冬に合わせ年間で4つの食育のテーマを決めます。食事のマナーを守って、落ち着いて正しい食事が取れるようにご利用者に伝えていきます。	テーマにそっての実施はせず、食事姿勢、食器の持ち方、ゆっくり噛んで食べること、静かに食事するなどのマナーを、日常的に食事にお伝えしました。	概ね実施できました。	次年度も継続。
－② 食事のありがたさを改めて感じられるように、「食べ物に感謝」「食事を作る人への感謝」の気持ちを感じただけのようにご利用者に伝えていきます。	給食ができるまで、いろいろな人がかかわっていること。また、防災食メニューで備蓄食品の時は、いつもの食事のありがたさ等をお伝えしました。残食はほぼないので、食品ロスにも勤めています。	実施できました。	次年度も継続。

－③ 「日本の冬のお祭り」をテーマに各地の郷土料理を含んだお祭りニューを提供する食育週間を1月に実施します。食事をとりながら各地方の伝統食等について学ぶことが出来るよう取り組みます。	1/22～1/26に5都道府県のお祭りを行っている地域の郷土料理を実施しました。お祭りや郷土料理のスライドを見ていただき、その土地の食材を使用した料理を提供してわかりやすく説明いたしました。	実施できました。	次年度は、ご利用者の希望の多かった食育への取り組みを実施予定です。
(4) －①今年度に賞味期限がせまっている備蓄食材を、召し上がっていただき、作り方やご利用者が食べやすいかなどを確認します。新たに備蓄食材を購入する時の参考にして備蓄食材を選びます。	備蓄食品を召し上がっていただく時は、蓋や袋を開ける、まぜるなど、ご利用者のできることはやっていただきました。備蓄食品の入っているパックのままで食べられずらいかなど、おいしく食べられているかなどを見て、聞いて、新たな備蓄食材を購入しました。	実施できました。	次年度も賞味期限が切れる備蓄食品がありますので、防災食訓練を計画します。
②炊き出し窯やカセットコンロを使用して、給食でローリングストックしている食材で食事作りをします。	給食食材在庫の乾物類、缶詰、冷凍庫にある食材を使用して作る献立を、炊き出しかまど、カセットコンロを使用して食事提供を実施しました。普段から食べなれている食材の料理なので美味しく召し上がっていただけることが出来ました。	実施できました。	給食の在庫食品を増やして、災害時により多くの食事提供が出来るように災害時マニュアルを作成します。

みんなの会

(1) 目標

目標1. みんなの会でご利用者に関わる行事内容などを話し合う機会を設定し、
ご利用者を中心に決定します。

目標2. ご利用者一人ひとりが自己表現・自己決定できる機会とします。

目標3. 地域交流活動を行います。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) -①ご利用者の意見を反映させ、良い行事となるようみんなの会で話し合う時間を作ります。	みんなの会でやりたいことや買いたい物を話し合いました。また、他のご利用者に聞いてもらいたいことを発表する機会も設けました。	実施できました。	次年度も継続します
(2) -①行事の内容や参加をご利用者自らの意思で、選択する、設定するなどの自己決定ができるようにします。	みんなの会で日帰りレクの行き先を決めるなど、自分たちで決定する機会を設けました。	実施できました。	意思決定できる機会を増やします。
-②年度末にみんなの会役員選挙を通じて、立候補することや他のご利用者を推薦する・されるなど、自身の自己表現・自己決定ができるようにします。	立候補者を募り、来年度の役員をみんなで決めることができました。	実施できました。	次年度も継続します
(3) -①地域の中で共に生活する一員として、地域貢献として美化活動を実施します。	作業の合間やレクで美化活動を実施しました。	実施できました。	次年度も継続します
(3) -①地域の中で共に生活する一員として、地域貢献として美化活動を実施します、	作業の合間に美化活動を実施しました。	実施できました。	来年度は今年度よりも美化活動の回数を増やし、地域に貢献していきます。

保健衛生

(1) 目標
目標 1. ご利用者の安心・安全を目指した健康支援を行います。
目標 2. 歯科衛生に努めます。
目標 3. 家庭支援としてご家族からの健康相談に応じます。
目標 4. 感染症の予防に努めます。
目標 5. 感染症が発生した場合であっても、サービスが安定的・継続的に提供されることを鑑み、業務継続計画（BCP）に基づき、より重要な業務への影響を最小限に抑え、できる限り迅速に業務を再開できるように対応を進めて参ります。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) -① 希望されるご利用者のみ健康診断を施設にて実施します。	産業健診センターに依頼し、検診車来訪 希望者に対して健康診断を実施しました。 今年度は、成人病予防の観点からHBAI cの測定も追加しました。	実施できました。	来期については、鶴川記念病院に依頼予定です。
-②毎月体重・血圧測定を行ないます。	基本的に月末に本体、分場と分けて測定しました。	実施できました。	次年度も継続します
-③年に1度体脂肪率測定を行ないます。	健康診断受診時に体脂肪測定を行いました。	実施できました。	次年度も継続します
-④殺菌効果のある酸性水を使用し、うがいを行なうよう支援します。	通所時に酸性水でのうがいを実施しました。	実施できました。	次年度も継続します

-⑤服薬管理を適切に行ないます。 ・常備薬の内容の把握 ・災害時用の３日分の服薬管理（４月・１０月に差し替えを行ないます）	日々の服薬管理については、誤薬なく実施しています。常用薬の管理についても、ご家庭と連携を取り、把握した分については効能書の控えを管理しています。災害時の預かり分については、定期的な入れ替えを含めて実施できています。また、返却した薬の潰れや変性が確認されたため、必要な対策を取りました。	実施できました。	必要に応じて対策の変更も検討しながら次年度も継続します。
（２）-①昼食後の歯磨き支援は、ブラッシング指導内容を参考に対象者を決めて行ないます。	毎食後の歯磨きでは、ブラッシング指導内容を参考にし、必要な方に仕上げ磨きを行ないました。	実施できました。	次年度も継続します
-②歯科衛生士によるブラッシング指導を実施します。	全員を対象に障がい者歯科の歯科衛生士によるブラッシング指導を６月に４回に分けて個別に行いました。ブラッシング指導での内容をご家庭に報告書を配布し、歯科受診にも繋げました。	実施できました。	次年度も継続します
-③原則全員のご利用者に成人歯科健診を実施します。	１２月１２日に実施しました。その結果必要な方には医師受診を進めました。	実施できました。	次年度も継続します
（３）-①嘱託医による問診を実施します。	西嶋医院と調整し２月８日に実施しました。	実施できました。	次年度も継続します

(4) -①施設内のインフルエンザ流行を防ぐため、ご利用者・職員の呼びかけ、希望者に予防接種を実施します。	西嶋医院と調整し10月25日にインフルエンザ予防接種を実施しました。	実施できました。	次年度も継続します
-②コロナウイルス感染予防のための手指消毒器によるアルコール消毒と常時マスクの着用を徹底します。また、ワクチン接種時等の指導があれば適切に対応します。	毎日手指消毒器の清掃点検を行い、アルコール液の残量も確認しました。ご利用者・職員ともにマスク着用を徹底し感染予防に努めました。コロナワクチンに関しては、5類移行に伴い事業所での接種日の設定は行いませんでした。	実施できました。	次年度も継続します
-③手洗いチェッカーを施設に設置し、7月、11月、3月に手洗い確認を実施します。ご利用者の皆様に正しい手洗い方法を習得していただきます	3回／年手洗いチェックを実施できました。手洗いが不十分な方に対してはネットやブラシを利用して洗えるように準備しました。	実施できました。	次年度も継続します

(5) -①BCP計画に基づいたマニュアルを活用します。感染症が発生した際、迅速に行動するために、被害を想定し、机上でBCPの内容や各自の役割を確認したうえで、感染症が発生しても計画通りに動けるか議論を進め、実際の訓練時に事業継続計画の実効性や内容が適切かどうかを検証し、定期的な見直しを行ないます。	BCP計画で作成した感染マニュアルに基づき、感染症対策訓練を11月19日と2月4日に実施しました。	実施できました。	次年度も継続します
---	--	-----------------	------------------

実習・ボランティア

(1) 目標
目標1. 職場体験・実習生の受け入れをします。
目標2. ボランティアの方が楽しく作業や行事補助ができるよう配慮します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) -①特別支援学校、福祉、一般学生からの実習受け入れを年間スケジュール、現場の状況から勘案し、計画的に受け入れます。	特別支援学校、一般学生の依頼に沿って実習の受け入れをしました。	実施できました。	次年度も継続します
(2) -①ボランティアセンターと連携を取り、積極的に受け入れを行います。また、ボランティアの方との意見交換を実施して、受け入れについての改善点などを見つけ定着を図っていきます。	ボランティアセンター様と連絡を取り合い情報提供をいただきましたが、受け入れには至りませんでした。	実施しましたが、結果が不十分。	次年度も継続します
-②ボランティアの方が楽しく作業補助や行事補助が出来ように環境作りします。	ボランティアの方の受け入れには至っておらず実施出来ていません。	実施できませんでした。	今後もボランティアセンターと連携し、取り組んでまいります。

(1) 目標
目標1. より多くの方々にボワ・アルモニーの行事やお知らせに興味を持っていただけるよう、日常におけるアルモニーでの出来事を発信します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) -①年4回発行される法人広報誌の紙面と適宜更新するホームページを利用して、ボワ・アルモニーでの取り組んでいる活動等について、広く地域に向けて周知を働きかけます。	ボワ・アルモニーで行った行事や日々の活動の様子、取り組みを広報誌やホームページに掲載し、お知らせすることが出来ました。特にホームページ掲載の頻度を上げていく必要がありました。	実施できました。	広報誌は予定通り実施できました。HPへの掲載はコンスタントな掲示が出来なかったため定期的に掲載できるようにしていきます。
-②利用者様の個人情報に配慮し行事や活動・日常の出来事等を、当施設のご利用者の様子を広くお知らせします。	個人情報等に配慮し、ホームページ、広報誌を媒体として、日々の活動等を広く、お知らせすることができました。	実施できました。	個人情報に配慮し、日常のご利用者の活動や、特別な行事等も含め、幅広くお知らせしてまいります。
-③4月にアンケートを配布し、顔出しについてや名前の開示についてなどの意識調査を行います。	法人広報誌やHPの掲載同意に加えて、事業所内で配布するお知らせでの掲載同意を取りました。	実施できました。	法人と事業所それぞれ同意の内容が違う方も多く、お知らせ作成時に写真掲載の確認が煩雑になる傾向がありました。同意書が2種類あることにより、内部のお知らせと法人広報誌用など2種類作成する必要がある、課題が残ります。

虐待防止委員会

(1) 目標
目標1. 虐待防止研修を実施しサービスの質の向上をします。
目標2. 身体拘束Oに向け、適正化を図る研修を行います。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) -①虐待防止責任者を設置し、虐待防止に取り組めます。	虐待防止責任者を設置し、虐待と思われる案件や繋がる案件について話し合いました。	実施できました。	虐待に繋がる不適切支援について、常に話し合いができる環境を作ります。
-②虐待防止についての研修を5、10月に実施し、職員の質の向上・人材育成を行ないます。	アルモニーや他事業所の虐待に繋がる案件等を例に挙げ、職員全員で意見交換し、虐待に繋がらないような支援について話し合いました。	実施できました。	次年度も継続します
(2) -①身体拘束の場面を想定し、3要件である「切迫性」「非代替性」「一時性」の原則に照らし出来得る限りの身体拘束をしない取り組みについて研修を行います。やむを得ず拘束する必要がある場合は、マニュアルに照らし、保護者への確認、施設内での情報共有と施設決定、3要件の街頭等の手順や条件を満たしているか確認します。	身体拘束の事例はありませんでしたが、身体拘束になり得る状況を想定して、虐待防止の研修と併せて確認をしました。	実施できました。	次年度も継続します

防災委員会

(1) 目標
目標1. 災害時に備え、防災意識を高めていけるよう、避難訓練、防災会議等を行います。
目標2. 災害などが発生して事業継続が危機的状況に陥った際に、より重要な業務への影響を最小限に抑え、できる限り迅速に業務を再開できるように、復旧対策の手立てを事前に策定するBCP（事業継続計画）を基本に災害時の対応を進めて参ります。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) -①避難訓練（火災、地震、水害被害想定）を実施します	火災や地震などを想定した避難訓練を実施することが出来なかったです。	着手できなかった	来年度は年間行事予定に訓練の日程を組み込み、5/29に地震を想定した避難訓練。11/11に火災を想定し、滑り台を使用する訓練を計画し、実施します。
-②起震車体験、初期消火訓練を実施します。	起震車体験は実施することができましたが、初期消火訓練を実施することができなかったです。 申込等の準備が遅れ、年間予定で計画した時期に設定できなかったため、年間予定を意識し、計画通り遂行できるようにしていきます。	実施しましたが、結果が不十分。	来年度は、起震車体験と初期消火訓練を同時に実施します。
-③防災備蓄品の確認を年に1回行ないます	備蓄食品の賞味期限や災害時に必要な備品の確認をしました。新たにカセットボンベで使えるストーブ1台、灯油のみで使えるストーブ1台を購入しました。	実施できました。	次年度も継続します
-④年2回、専門業者に委託し、消防設備等の点検を行ないます。	予定通り2回実施しました。	実施できました。	次年度も継続します

-⑤防火管理責任者が、施設・設備の総点検を行いません。	施設内の設備点検とともに防災設備および防災の視点での点検を毎月１回実施しました。	実施できました。	次年度も継続します
-⑥自主検査チェック票（日常）「閉鎖障害等」を毎日確認、記入します。	本体・分場職員により自主点検を毎日実施しました。	実施できました。	次年度も継続します
（２）-①BCP計画に基づいたマニュアルを活用します。 自然災害に見舞われた際、迅速に行動するために、被害を想定し、机上でBCPの内容や各自の役割を確認したうえで、災害などが起こっても計画通りに動けるか議論を進め、実際の訓練時に事業継続計画の実効性や内容が適切かどうか検討し、定期的な見直しを行ないます。	BCP計画に基づいたマニュアルを活用し、机上で災害時の担当や役割を確認しました。	実施しましたが、結果が不十分。	今後はBCP計画に基づいたマニュアルを活用し、職員とご利用者が有事を想定した訓練を実施できるよう取り組みます。

安全衛生委員会

（１）目標
目標１．ご利用者・職員の安全及び衛生的な環境で過ごせるための環境整備に努めます。
目標２．感染症対策を徹底し、感染予防に努めます。
目標３．安全衛生に関する研修を実施し、職員の知識の向上、育成に努めます。

（２）計画	実施状況	評価	今後の課題
（１）-①施設内の安全、快適な環境整備を維持する為に、日々の消毒、清掃を実施します。	施設内に於いて、危険箇所等を発見した際は、安全が担保されるよう速やかに対処しています。また感染症等の予防を念頭に消毒、清掃に力を注ぎました。	実施できました。	次年度も継続します

(2) - ①感染症に関する適切な情報収集による 早め予防対策を随時検討し、対応します。	コロナウイルス感染症やインフルエンザ、ノロウイルスにおける感染予防を徹底しました。発熱がない場合でも鼻水、咳、のどの痛み等の体調不良の訴えがあった際は、抗原検査を行い、早い段階での発見に心掛けました。陽性が出た際は適切に対応し、クラスター等は防ぐことができました。	実施できました。	次年度も継続します
- ②感染者発生時対応訓練 (11月)を実施します。	コロナウイルス感染症のみならず、ノロウイルス感染症等の発症時の対応訓練を看護師を中心に組みました。	実施できました。	次年度も継続します
(3) - ①感染症及び食中毒等の防止の対策を、内部(毎月)、外部研修で実施(適宜)します。外部研修の情報は、職員全体に周知して共有します。	感染症に対応する手順や未然に防ぐ対策等を内部研修で学びました。手指の消毒は通常の消毒液を使用し、うがいは酸性水を提供し、感染防止に取り組みました。	実施できました。	次年度も継続します

一泊旅行・レクリエーション

(1) 目標
目標 1. 日頃の作業を離れ、余暇活動を提供します。
目標 2. 感染症のリスクを回避しながら、ご利用者が楽しく笑顔になれる一泊旅行を提供します。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) - ① 11月7日(木)～11月8日(金) 1泊旅行を計画し、3月20日木曜日/春分の日)にレクリエーションを企画します。みんなの会と連携し、何処に行って何をしたいか話し合い、実施します。	年間予定では1泊旅行を予定していましたが、職員体制(男女比・人数)とご利用者の男女比等を考慮し、宿泊先での支援体制が整わないと職員間で議論を重ね、日帰り旅行に変更しました。 3/20(金)のレクは、準備開始が遅くなり会場等の選定が直前になってしまいましたが、当日はケガなどはなく盛り上がり終わることが出来ました。	実施できました。	職員体制での困難さが予測できなかったため、年間予定作成段階で安全に実施できるように考慮して計画作成が必要です。日帰り旅行に変更しましたが、行先は「みんなの会」を通して決定することが出来、次年度もみんなの会を通じて実施できるようにします。 3/20(木)の開所日が年間予定は配布していたものの、保護者の認識が低かったです。お知らせが直前になったこともあり次年度は前もって計画し周知できるようにします。
-② 感染症のリスクを鑑みながら、現地でしか見られない景色や食べられない美味しいものを堪能して頂きながら、日常できない体験やショッピング等もご案内し、心身共にリフレッシュできる一泊旅行を提供します。	1泊旅行は日帰り旅行に変更しましたが、バイキングに行きテーブルごとに好きなものをオーダーしながら食べるなど、思い々に楽しむことが出来ました。行先も「みんなの会」を通して意見を出し合い多数決で決めることでご利用者の意向を取り入れた内容にすることが出来ました。	実施できました。	班分けをしていましたが、全体での行動をしました。職員の体制等により制限があるものの、班ごとに自由行動など選択肢が広げられるような検討もしていきます。

送迎管理

(1) 目標
目標1. ご利用者の安心安全を第一に考えた送迎業務を行います。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) -①安全第一で交通ルールを遵守し、無事故で送迎できるよう徹底します。	4月より車幅が広いハイエースに変わり、車体の物損事故が多く発生しました。走行中の事故に関しては、交通ルールの遵守を徹底し、安全に送迎業務を行うことが出来ました。	概ね実施できました。	車体の大きさを意識し、安全確認を徹底し、事故の無いよう心がけます。
-②日常点検、整備、洗車、給油等を随時実施し、送迎業務に支障がないよう管理します。	運転手の協力の元、日々の走行前後に車内外の清掃を行ないました。	実施できました。	
-③送迎車内でのトラブル防止に配慮します。	送迎運行の際、停車時・ご利用者の乗り降り時にトラブルはありませんでした。また、置き去り防止センサーを取り付けご利用者の置き去り事故の防止に繋がりました。	実施できました。	
-④運行予定表を作成しご利用者の休み等を事前に把握し、スムーズな送迎業務を実施します。	運行予定表をスマートフォンのアプリケーションに変更することで送迎のキャンセル等の最新の情報交換が可能になり、運転手への連絡も迅速かつ確実に実行できたことで、連絡ミスなく運行対応を行なうことが出来ました。	実施できました。	

-⑤感染対策の為、乗車時には消毒の徹底をします。	ご利用者の乗車時は、消毒を徹底し、窓を開ける対応を取りました。	実施できました。	
ー⑥緊急時に備えたマニュアルを作成し車内に常設できるようにします。	災害時用の水・非常食・簡易救急セット・災害避難マップを車内に常備し、運転手と確認を行ないました。	実施できました。	

車両管理

(1) 目標
目標1. 車両が安心・安全に走行できるよう、点検・車検・修理を行います。
目標2. 車両の清掃を行い、各車にあった管理を行います。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) -①安全走行を第一に心掛け、週に一度、点検項目確認（エンジンオイルの量や色、ラジエーター液の点検、ヘッドライト・テールライトの点検、ファンベルの緩みの確認、タイヤの溝の確認や空気圧の点検、室内空間/ヒーター・クーラーの確認）を行ないます。	運行前に点検を行ないました。 また、破損など修理が必要な場合は迅速に対応することができました。	実施できました。	
-②冬用のタイヤへの交換は12月・3月に実施します。	業者と調整の上、予定通り交換を実施しました。	実施できました。	

(2)-①車両の外・内部を清掃に保つよう清掃点検を実施します。	運行前後の清掃を行ない車内環境の整備に努めました。	実施できました。	次年度も継続します
-②減免申請や車検の手続きは滞らないよう、計画的に行います。	全車両の車検日の一覧表を作成し、計画的に行いました。	実施できました。	
-③感染予防の為、アルコール消毒を車内に用意し、乗車の際には消毒の徹底をします。	ご利用者の乗車時は、消毒を徹底し、窓を開け換気対応を取りました。	実施できました。	

入所式

(1) 目標
目標1. 新社会人としての新たなスタートをご利用者、職員全員で歓迎し、同時に自覚が芽生えるよう、支援してまいります。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1)-①授産作業を一つから丁寧にお伝えし、一歩ずつ覚えて頂けるよう、ご本人とコミュニケーションと取り、またレクリエーション等で作業以外の楽しい場も提供し、アルモニーでの生活に慣れて頂けるよう支援してまいります。	入所式では全ご利用者、職員に歓迎され新たなスタートを切ることができました。 授産作業では少しずつできることを増やし、作業に慣れてもらうように努めました。休憩時に職員や他のご利用者との会話を通してコミュニケーションを取り、余暇活動にも意欲的に参加されています。	実施できました。	

アルモニー祭り

(1) 目標
目標 1. アルモニーの大切な地域交流の機会として、 楽しく充実した 1 日を過ごせるようにします。
目標 2. 地域に開かれた施設として、地域の方々にも楽しんでいただけるように、 出店内容の工夫や地域宣伝も兼ねた告知をします。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) - ①企画の段階から職員全体で進め、ご利用者やご家族からの意見も反した内容を検討し、楽しく充実した 1 日を過ごせるようにします。内容を見直して、地域の方々がより楽しんでいただけるようにします。	ご利用者には、お祭りを楽しむことと、順番に受付や接客などを分担し、まつり運営にも参加していただきました。「ご利用者のダンス」「保護者の演奏」「屋台」「カフェ」などをたくさんの方の保護者とボランティアのご協力をいただき開催することが出来ました。	実施できました。	職員、保護者、ボランティアからの改善点を踏まえて計画するようにします。
(2) - ①広報誌、町田市広報、町内会への回覧、ポスター掲示などを行ない、多くの近隣の方が、ご来場できるようにします。	ご利用者の絵をたくさん入れたポスターを作成して来所された方に配布しました。保健所への届出の際、「模擬店開始届」では、食品の販売で不特定多数が来場するようなものは実施できないとの指摘があり、地域への宣伝ができなくなりました。そのため、事業所内での関係者や、事前申し込みのあった見学者への対応が主になってしまい、来場者も少なくなり地域との交流には至らなかったです。	概ね実施できました。	イベント実施の際は、保健所への必要な届け出を再度確認します。「臨時営業許可書」での実施内容にするのかなどの協議が必要です。

2024年度 ボワ・ミニヨン 年間総括

1. 支援部門

【ボワ・ミニヨン】

(1) 目標
①リズムに合わせた生活、個別の余暇活動を充実します。
②eラーニングの積極的活用と目標共有面接を通して、職員育成を行います。
③採用事務の改善を行い、開所ニーズに沿った職員採用を行います。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
1-① 個別の予定や状況に合わせ、食事の提供時間や入浴の順番等に配慮した支援を行います。	個別の通院や外部サービス(余暇活動・高齢者デイサービス)等を優先し、夕食や入浴時間を調整しました。 出勤時間に合わせ、朝食時間を早めるなどの対応を行いました。	実施できました	
1-② 休日の過ごし方や余暇活動について、個々の希望を聞きながら、それぞれが豊かに過ごせるよう支援します。	帰宅やヘルパーとの外出について、概ね月毎に予定を確認し、希望通りに過ごせるよう、関係先と連絡調整を行いました。	実施できました	
1-③ 個別の余暇活動では外出日や外出先について、関係先との連絡調整を行います。	外出日の相談や外出先の細かい確認を行いました。単独での外出時には定時連絡を行いました。 活動先の休日等を確認し、ヘルパーの手配等を行いました。	実施できました	
1-④ ご利用者が一体となって楽しめるレクリエーション活動を行います。	外食やカラオケ、合同でのバーベキューなど、ご利用者が積極的に参加できる内容のレクリエーションを企画、実行しました。	実施できました	
2-① 主任が中心となりeラーニングの年間計画に沿って研修の実施と報告会を行います。	「障がい者虐待防止1～4回」 「障がい者との関係構築1～4回」 「障がい者支援の理念とは1～4回」 「障がい者支援の実践 第1回 怒りやストレスのコントロール法」 上記の研修を主任発信により取り組みました。正規職員は全員受講しています。	実施できました	

2-② 年3回以上の目標共有面接を行い、年度目標を管理者、職員双方で計画し、達成状況についての確認を行います。	正規職員を対象に行いました。 1回目を5～6月に行い、目標、計画を共有しました。 2回目を9～10月に行い、目標達成に向けた行動の進捗状況を確認しました。 3回目を2～3月に行い達成状況について確認しました。	実施できました	
2-③ 東京都社会福祉協議会階層別研修、グループホーム世話人研修など、各種研修に参加します。	東京都社会福祉協議会階層別研修（チームリーダー研修）や東京都グループホーム制度説明会、東京都障がい者グループホーム従事者人材育成事業研修等、各種研修をオンライン受講しました。 研修後は報告書の回覧や職員会議を通じたフィードバックを行うことで、内容の周知を図りました。	実施できました	
3-① 同業態業種の時給の調査を行い、見劣りしない時給での求人を行います。	夜勤については時給の表示とともに日給を表示することで、わかりやすく賃金を伝えました。 就業時間が短い日勤よりも夜勤の応募が多く見られました。	実施できました	
3-② 求職者が働ける時間や業務内容等、多様な働き方に対応したシフトを導入します。	週1回1コマからの求人を行いました。介助業務が苦手な方には、家事援助を主としたシフトを提案しました。 扶養内で働きたい求職者には収入制限の中で就業できるようシフトを調整しました。	実施できました	

2024年度 短期入所であい 年間総括

1. 支援部門

【であい】

(1) 目標
①生活リズムに合わせた支援をします。
②利用目的に沿った支援をします。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
--------	------	----	-------

1-① ご家庭、通所先と連携し、ご利用者の状態把握に努め、日常生活リズムをできる限り乱さないようにします。	睡眠、排泄、服薬等の引継ぎ等について、ご家庭や通所先と連絡を取り合いました。 前回の利用から数カ月経過しているご利用者等は、利用受付の際に、特に生活リズム等について共有する声掛けを行いました。	実施できました	
1-② 定時の検温など、健康観察を行います。体調に変化が見られる時や薬についての確認など、必要に応じてご家庭、通所先、その他関係機関と連携することで、迅速で適切な対応をします。	帰寮時や入浴前、起床時や通所前に検温を行いました。 薬の使用について、連絡帳等の記載で不明な点など、ご家庭に連絡を取り、間違いがないよう確認しました。 必要な情報は連絡帳等で通所先と共有を図りました。	実施できました	
1-③ 入浴時、必要なお利用者には支援をサポートする機器を使用することで、安全に入浴していただきます。	入浴リフトでの介助浴が必要なご利用者に対しては、積極的にリフトを使用していただきました。 安心安全な入浴となるよう、リフト使用においても、できる限り複数での介助を行いました。	実施できました	
2-① グループホーム入居など将来の生活に向けた取り組みを支援します。	2024年度中にもご利用者数名がグループホームに入居されました。 入居先から利用時の様子について問い合わせがあった際には、ご本人の了承のもと情報提供を行うようにしました。	概ね実施できました	
2-② レスパイトケアを通して、ご家庭や保護者の生活を支援します。	前月初回営業日に電話での予約受付を継続して行いました。 予約の際、利用できる日をお伝えし、できる限り要望に応えられるようにしました。 キャンセルは年に数回しかなく、急な申し込みには対応できませんでした。	実施できました	

2024年度 児童支援部 年間総括

部門別年間総括

Ⅰ. 支援部門

【全体】

(1) 運営方針
①安心、安全な活動ができる場を提供します。
②いろいろな人との関わりや、発達段階に応じた楽しい遊びを提供します。
③遊びを通して社会性を育みます。
④児童支援部の各事業所が連携し、円滑な運営を行います。
(2) 目標
①児童一人ひとりに寄り添った支援を行います。
②職員は専門的な視点で発達や成長を捉え、児童の障がい特性を踏まえた質の高い支援や成長を促す活動を提供します
③児童が将来の日常生活や社会生活を円滑に営めるよう、総合的な本人支援を工夫し提供します。
④ご家庭、学校、地域との連携に積極的に取り組みます。
⑤再編成後の運営を円滑に行い、安定した利用や活動を保証しつつ収支のバランスを整えます。

計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) -① 一人ひとりの得意/不得意、好き/苦手を理解し、持っている力を十分に発揮し活動できる環境を整えます。	児童一人ひとりの好みや得手不得手を把握し、対応や活動の検討をしました。好きなことを活動に取り入れることで、意欲を引き出すことや次への楽しみに繋げるよう支援しました。得意なことや注目を集め、褒められることや認められることを繰り返し、適切に承認欲求を満たすことや自信に繋がれるよう支援しました。	実施できました	引き続き、児童の状況や特性を理解し、適切な支援についての検討を深めます。
(1) -② 遊びや活動、人との関わりを通して、安心してチャレンジできる環境を整えます。	クッキングや制作、外出など様々な活動を設定し、いろいろな経験をすることを大切にしました。活動内容を分かりやすく伝え見通しを持つことで、楽しく参加できるよう支援しました。少し自信のない活動に対しては、職員からの励ましや適切な介助を受けることで、安心してチャレンジできるよう工夫しました。達成をともに喜び、自信や次への意欲に繋がりました。	実施できました	遊びや活動についても知識を拡げ、様々な遊びを提案できるよう努めます。

(2) -① 児童の表情や様子だけでなく、環境や前後の状況、言葉かけのタイミングや内容など多角的な視点で、行動のきっかけや原因を探り解決策を考えます。	日々の打ち合わせや振り返り、職員会議等の中で児童の行動についての気づきを職員間で共有しました。集めた情報をもとに、行動のきっかけや原因を探りました。思い当たる（考えられる）原因を減らし行動の変化を観察しながら改善に向けて取り組みました。こだわりや、切り替えの難しさなど生活に困難が見られるときは、できるだけこだわりの原因（きっかけ）になる事象を取り除くと同時に、原因の分析や統一した対応を検討し支援しました。	実施できました	引き続き、行動理由や目的、結果に着目し、効果的な支援を工夫します。
(2) -② 医療的ケアを必要とする児童が利用しやすい環境や体制を整え、積極的な受け入れを行います。	看護師の配置を行い、医療的ケアを必要とする児童の利用ニーズに応えることができました。予約自体は多くありませんでしたが、受け入れの枠を拡げ、積極的な受け入れをすることができました。花の家に送迎車の調整を依頼し、できる限り送迎を保証しました。 しばらくできていなかった新規契約を再開し、地域のニーズに応えることができました。	実施できました	引き続き、医ケア児童のニーズに応えられるよう、看護、支援、送迎等の調整を行います。
(2) -③ 研修やケースカンファレンスを通して、障がいや個人についての理解を深めます。対応や手立てについても、専門的な視点を持って検討します。	年二回、外部講師による心理研修（カンファレンス）を行い、直面している対応課題について学びました。障がい特性や固有感覚について理解を深め、個人の感覚世界を理解した上で対応や手立てを検討しました。ケースカンファレンスや相談支援のモニタリング対応の際は、「できることや苦手なこと」だけでなく、個人の状態を把握したうえで「見立て」や「具体的な対応」についても伝えることを意識しました。	実施できました	

(3) -① 基本的な活動や支援に加え、本人支援の5領域全体をカバーした支援計画のもと、「自己肯定感」「達成感」「仲間形成」「孤立防止」を盛り込んだ支援を構築します。	児童の要求を受け止め「願いがかなった、自分が尊重された」という自己肯定感を感じられる関りや支援をすることを大切にしました。活動を通して仲間を意識すること、楽しさを共感すること、必要な場面では相手を尊重することや我慢をすることも経験できるよう支援を工夫しました。 集団が苦手、安定した通学が難しい等、個人の状況を把握し、必要に応じて個別の時間設定や送迎を実施しました。	実施できました	
(3) -② 児童の「今」を大切にすると同時に、将来必要となる力にも目を向けて活動や支援を考えます。	体力や興味、その年代に必要な経験や取り組みについて検討し、活動を設定しました。自分でできること、選択することなどを活動に取り入れ、それぞれの年齢に合わせた「主体性」を大切にしました。 活動や人との関わりの中で「適切に気持ちを伝える」「納得をして折り合いをつける」ことを多く経験できるよう支援しました。	実施しましたが結果が不十分でした	
(4) -① 保護者向け事業所見学会や保護者懇親会を実施し、学校卒業後のイメージを持つことや保護者間の交流を持つことができる場を提供します。	感染症の状況に配慮しつつ、事業所見学会、保護者懇親会を実施しました。見学会は多くのご希望をいただき、2回に分けて実施しました。ゆっくりと見学し、質疑応答の時間も設けたことで「将来へのイメージを持つことができた」とのご意見を多くいただきました。懇親会だけでなく、見学会も保護者間交流の機会となりました。	実施できました	

(4)-② 個別面談の実施と合わせてオンラインで話を聞ける「おはなし広場」を使用し、個人の発達や生活に関する疑問や悩みについて相談しやすい環境を整えます。	各事業所で面談期間を設定し、希望者を対象に面談を実施しました。オンラインでの「おはなし広場」の利用は多くはありませんでしたが「話を聞ける場」として面談、メール、電話などのツールと合わせて幅広い選択ができる環境を整えました。話を聞くだけでも、少しの安心や次の展開に向かう力を与えられることが感じられました。	実施できました	定期的に案内をしながら、相談ツールの一つとして位置づけるようにします。
(4)-③ 放課後等デイサービスガイドラインの遵守及び自己評価の結果を公表します。	保護者、事業所双方の自己評価を実施しました。プリント、メールでの案内を複数回行い、より多くの意見を集められるようにしました。ガイドラインに沿って、まとめ、検討、公表を行いました。	実施できました	
(4)-④ 下校時に児童の様子や学校での過ごし方について積極的に確認し、学校との連携した支援を行います。	その日の状況や体調、排泄の有無などについて、下校時に確認し、必要な対応や配慮ができるようにしました。同時に事業所で気になることについても確認し、学校と事業所での違いに気づけるようにしました。学校とギャップがあることに関しては、その原因を考え、対応を検討、工夫しました。	実施できました	
(4)-⑤ 関係機関との連絡会や支援会議に積極的に参加し、地域の情報を集めます。	設定された支援会議にはできるだけ参加するよう調整しました。時間や体制が整わない時は、担当の方と連絡を取り、資料の提供を行い、会議後には議事録を送ってもらうなどの対応で、全体像を理解したり、足並みを揃えた対応を意識しました。会議や電話連絡を通して、情報共有しやすい関係を作ることができました。	実施できました	支援会議等に積極的に参加し、情報共有や一体的な支援について検討できるようにします。

(5)-① 再編成による変化に柔軟に対応し、法人内他事業所との連携をとりつつ、安定した利用や活動を提供できるようにします。	曜日による予約数の偏りはありましたが、できるだけ希望に応えられるよう利用調整を行いました。送迎車が足りない時は、花の家、本部、居住の車両を借用しながら、送迎保証できるよう努めました。コンサール、エールが連携し、急な利用問い合わせにも柔軟に対応できるよう工夫しました。	実施できました	
(5)-② 豊かな時間の提供を工夫しながらも、収支バランスの取れた事業所運営を行います。	活動するグループを分けることや準備を丁寧に行うなど、たくさん利用児童がいても、スムーズに活動できるよう活動しやすさを工夫しました。利用率を上げつつも、児童一人ひとりが満足感を得られるよう、活動や関りを工夫しました。	実施できました	引き続き、支援や活動の質を維持しつつ、収支のバランスをとることを目指します。

委員会年間総括

1. 虐待防止委員会

(1) 目標
①虐待防止や児童の安全と権利擁護に向けて取り組みます。

計画	実施状況	評価	今後の課題
(1)-① 運営会議と合わせて虐待防止委員会を開催し、虐待や身体拘束防止の検討を行います。事業所ごとの状況を把握し、情報共有したうえで適切な対応を検討し、児童支援部として共通認識が持てるようにします。	毎月運営会議と合わせて、月1回虐待防止委員会を設定し、必要な取り組みについての検討や情報共有を行いました。事業所ごとの状況や児童への対応の確認も合わせて行い、適切な支援について検討しました。虐待防止研修の内容や進め方を検討し実施しました。	実施できました	次年度も継続します

(1)-② 10月、全職員を対象とした虐待防止研修を行います。権利擁護や虐待防止について学び理解を深めます。また、虐待防止チェックリストの結果をもとに、児童支援部としての対応を委員会で検討し、全職員に周知します。	10月に全職員対象で虐待防止研修を行いました。研修前にチェックリストを実施し、集計結果を含め全職員に周知しました。回答が分かれる項目に関しては、正職会議で確認し、回答の意図について検討、改善策についても話し合いました。研修では人権についての学びを深め、「これって権利侵害かも」というテーマでグループワークを行いました。職員一人ひとりの気づき力の向上を目指しました。	実施できました	次年度も継続します。
(1)-③ 気づきを共有できる、風通しの良い職場環境を整えます。事業所ごとの打ち合わせ等で、支援方法や関わり方などに関しても意見交換できるようにします。状況に応じて児童支援部全体の会議でも取り上げ、支援の不安や悩みを共有し、一人が抱え込まない環境を作ります。	事業所ごとに、支援前の引継ぎや打ち合わせを実施しました。支援の根拠を明確にし必要性を共有すると同時に、他に手立てがないかということについて、職員間で話し合い、より適切な支援のあり方を工夫しました。各事業所で検討されたことや上がった意見に関しては委員会内で議題として提案し、検討し結果を職員会議で全体に報告しました。	実施できました	次年度も継続します

2. 身体拘束適正化委員会

(1) 目標
①事業所内での身体拘束廃止に向けた取り組みを実施します。
①安全確保のため、やむを得ず身体拘束をする場合の検討を行い、記録を徹底します。

計画	実施状況	評価	今後の課題
(1)-① 3ヶ月に一度身体拘束委員会を開催し、身体拘束に関わる現状把握、見直し等について検討します。検討内容については、児童支援部全体の職員会議内で周知し、職員との意見交換を行いつつ改善につなげます。	予定通り委員会を開催し、必要な内容について確認、検討しました。個別の対応について、丁寧に情報共有し、適正についての検討を深めました。	実施できました。	次年度も継続します。

(1) -② 虐待防止と合わせて身体拘束に関する研修を実施し、身体拘束廃止に向けた基本方針や取り組みに対する理解を深めます。	10月の虐待防止研修を合わせて、身体拘束に関する研修を行いました。車いすのベルトなど、ご本人の安全を守るためのものでも身体拘束にあたることもあるという事実を理解し、実施にあたっては個別支援計画への記載と保護者の同意、また実施の際の記録についても確認をしました。	実施できました。	次年度も継続します。
(2) -① 安全確保を目的とした身体拘束について、事業所内での定期的な見直し、改善を検討し、身体拘束適正化委員会の中でさらに検討を深めます。	会議において実施の状況や個人の様子、ご家庭との連絡について確認しました。定期的な見直しの中で、身体拘束ではない方法で安全を確保する方法について議論し、対応を検討しました。個人の安全を守るために必要なもの（取り組み）については、その必要性についても十分に議論しました。	実施できました。	次年度も継続します。
(2) -② 安全確保を目的とした身体拘束を行う際は、ご利用者、保護者への説明を丁寧に行い同意を得ます。また、実施の際は状況や必要性について丁寧な記録を徹底します。	車内での補助ベルトなど、その必要性については、児童の状況や行動を含め、丁寧にご家庭に伝え確認を行いました。自主送迎の実施など代替策も選択肢として提示し、より適切な対応についてもご家庭と検討しました。 実施については、ケアカルテにて実施の状況を記録しました。	実施できました。	次年度も継続します。

3. 安全衛生委員会

(1) 目標
①児童・職員の安全及び衛生のための取り組みを実施します。
②事業所内の重大事故を未然に防ぐ事故予防に努めます。
③児童・職員が健康で快適に過ごせる施設環境を整えます。

計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) -① 運営会議と合わせて安全衛生委員会を開催し、児童・職員の安全衛生及び労務環境についての検討、整備を行います。	月に一度、安全衛生委員会を実施し児童の健康状態や職員の健康、労務環境について検討、情報共有しました。	実施できました	次年度も継続します。
(1) -② 11月、全職員を対象とした感染症研修を実施し、感染症予防、衛生環境についての理解を深めます。	11月と1月に、全職員を対象とした感染予防研修と訓練を実施しました。感染症対応マニュアルの確認を中心に行い、必要な対策について周知しました。各事業所に設置している、感染症対応セット（吐物処理セット）の内容を見直し、必要時には迅速に対応できるように整えました。BCP研修についても1月に実施し、感染症発生時の速やかな対応や事業継続ができるように努めました。	実施できました	引き続き、基礎的な知識や実践的な技術を学べるような研修を工夫します。
(2) -① 事業所内でのヒヤリハットについて検証、必要な対策を講じることで重大事故を予防します。	それぞれの事業所で気づいたヒヤリハットや安全衛生に関わることについて、安全衛生委員会の中でも検討し、必要な対応について、職員会議で周知できるようにしました。社会的にニュースになった事故についても、自事業所に置き換えて危険やリスクについて検討し、事故防止に努めました。	実施できました	引き続き、ヒヤリハット事例や安全衛生について検討、対策を講じながら事故防止に努めます。

(2) -② 事故検証では、直接的な要因だけでなく背景となる要因にも目を向け、環境改善を含めた再発防止に努めます。	事故発生の際は、各事業所で原因、対策について検討しました。児童に関わる事故については、本人の行動特性や得たい刺激、支援のあり方、空間環境などさまざまな視点から検証し、解決策を模索しました。安全衛生委員会の中でもさらに深め、再発防止に努めました。	実施できました	次年度も継続します。
(2) -③ 防犯研修や訓練、マニュアルの整備等を行い、防犯に対する意識を高めます。	研修やマニュアルの整備には至りませんでした。不審者の侵入などの際に、児童、職員の安全を守るための話をし、各自が意識を持てるようにしました。社会的な事件や事故についても情報を集め、防止や抑止への意識を高めました。	概ね実施できました	次年度も継続します。
(3) -① 定期的に設備や備品、玩具等の安全を確認します。	備品や玩具の点検を定期的を実施し、破損や不具合がみられるものについては適切に修理、破棄しました。 備品や玩具の破損による事故は発生しませんでした。	実施できました	次年度も継続します。
(3) -② 定期的な換気や季節に合わせた温度湿度に配慮し、健康に快適に過ごせる環境を整えます。	感染症に気を付け、定期的な室内の換気や温度調節を行いました。感染症の対応については、必要に応じて市や保健所とやり取りをしながら学校等に準じた適切な対応ができるよう努めました。	実施できました	次年度も継続します。

4. 防災委員会

(1) 目標
①災害に備え、避難訓練を実施し、職員・児童の防災意識を高めます。
②消火訓練、応急救護訓練、AED研修を実施します。
③災害備蓄品の適正な管理や補充を行います。

計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) -① 火災想定避難訓練、地震想定避難訓練を1回ずつ、1週間を通して実施します。	火災（5月）、地震（1月）を想定した避難訓練を実施しました。一週間を通して設定することで多くの児童、職員が避難訓練に参加し安全意識の向上に努めました。コンサールのみ河川の氾濫、浸水などによる水害を想定した避難訓練を実施しました。	実施できました。	年間予定、連絡帳、広報、HPなどで保護者へお知らせをしていますが周知しきれていない様子が伺えているので周知のあり方について検討します。
(1) -② 避難訓練の振り返りを行い、必要な備品や人の動きを確認し、適切な防災環境を整えます。	訓練実施後に各事業所ごとで振り返りを実施しました。備品や避難のあり方を再検討し、実際に避難が必要な場面でスムーズな避難ができるよう環境を整えました。実施内容については報告書を作成し次年度に活かせるようにしました。	実施できました。	次年度も継続します。
(2) -① 年間計画で日程を整え、計画的に実施します。	年間計画（児童支援部共通）で決めた日程で計画的に実施しました。年間計画、連絡帳、HPなどを通して実施状況を保護者にも周知しました。居住支援部、児童支援部合同での初期消火訓練やAEDの取り扱いについて研修形式で訓練を実施し防災、応急救護への意識を高めました。	実施できました。	次年度も継続します。

(3)-① 各事業所で必要な防災備蓄の確認をします。賞味期限を確認し、無駄なく消費、追加をします。また、備蓄内容についてリスト化し、分かりやすく管理します。	各事業所ごとに必要な防災備蓄品の確認を進めました。賞味期限を確認しながら、活動の中で（おやつ、昼食など）無理なく消費してからの購入を進めました。備蓄内容、消費期限リスト化し見やすいところに掲示するなどして管理しました。	実施できました。	次年度も継続します。
---	--	-----------------	-------------------

5. 送迎委員会

(1) 目標
①安全な送迎を実施します。
②災害や事故に備え、マニュアルの作成や災害対応訓練を実施します。

計画	実施状況	評価	今後の課題
(1)-① 半年に一度の定期点検を行います。また各事業所での走行前点検を行い、安全に走行できるよう車両を整備します。	各事業所で半年点検、車検を実施しました。また送迎実施前には全車両点検を行い、安全に走行が行えるように車両の整備を行いました。	実施できました。	次年度も継続します。
(1)-② 運転者チェックリストや健康確認等、運転者の適正を確認し、安全に送迎業務を行います。	運転手の健康確認や適正については運転手に直接確認を行いました。運転手からの申し出により勤務日の変更や運転車両を限定するなど、安全な送迎が行えるように努めました。	実施しましたが、結果が不十分でした。	次年度も継続します。運転者チェックリストの整備を行い、運転前の健康確認を行えるツールを整備します。
(1)-③ 運転者は、交通ルールを遵守し安全な走行に努めます。	送迎実施中の重大な人身事故・違反はなく、交通ルールを遵守した安全な送迎が実施できました。	実施できました。	次年度も継続します。次年度は運転時のヒヤリハット訓練を定期的に行い、危険予知の訓練を行い、より安全な走行ができるようにしていきます。

(1)-④ 車内では児童の座席配置に配慮し、安全に乗車できるようにします。	乗降順や児童同士の相性や特性を考慮して座席を配置しました。また、置き去り防止装置を全車両に設置し、児童の置き去りが無いようにしました。車内での大きなトラブル・事故はなく、安全な送迎が実施できました。	実施できました。	次年度も継続します。
(2)-① 事故時におけるマニュアルを整備し、迅速な対応ができるようにします。	事故対応マニュアルを各事務所に設置し、いつでも閲覧できる環境を整えています。年に1度、災害対応訓練の際に確認をし、事故が起きた際に迅速な対応ができるように努めました。	実施できました。	次年度も継続します。
(2)-② 災害時に備え、実際に車両を運行させた災害対応訓練を実施し、適切な判断ができるようにします。	年に1回、送迎に関わる職員（運転手、添乗員）を対象にして、災害対応訓練を実施しました。実際に車両を走行させ、安全確保と連絡の訓練を行いました。	実施できました。	次年度も継続します。

6. 広報委員会

(1) 目標
①広報誌にて、児童支援部の取り組みや活動の様子を広く伝えます。
②ホームページを活用し、活動の様子や必要な情報を発信します。

計画	実施状況	評価	今後の課題
(1)-① 広報発行に合わせて、原稿を構成し地域や保護者に向けて活動の様子や取り組みを紹介します。	今年度の広報発行（4月、7月、9月、1月）に合わせて、原稿のテーマを受けて記事を作成しました。事業所ごとの活動の様子や取り組みを写真を使用して紹介することができました。	実施できました。	次年度も継続します。

(1)-② 写真使用について、毎年、個人情報同意書にて同意の有無について確認をします。個人情報の取扱いに厳重に注意します。	写真使用について同意があるご利用者のみ掲載するように広報誌やホームページを作成しました。広報発行前、HP掲載前には決裁にて内容や写真の使用可否の確認を行いました。	実施できました。	次年度も継続します。
(2)-① 保護者会資料や年間予定など、必要な情報をホームページ上で確認できるようにします。	ホームページの児童支援部専用ページにおいて、保護者会資料や年間予定などの情報提供を行いました。また、法人ホームページにて2024年度児童支援部事業所自己評価集計及び検討結果を掲載しました。	実施できました。	次年度も継続します。
(2)-② 事業所での活動について、定期的に記事を投稿しお知らせします。	各事業所ごとに定期的にホームページの記事を作成し、更新をしました。活動の様子を写真を交えて紹介することができました。	実施しましたが、更新頻度が少なく不十分でした。	次年度も継続します。投稿する日にちを決めて事業所ごとに更新頻度を上げます。

7. 苦情解決委員会

(1) 目標
①利用児童、保護者、地域からの苦情や要望に対して、適切な対応を検討します。

計画	実施状況	評価	今後の課題
(1)-① 苦情や要望の内容を正確に把握できるよう丁寧な聞き取りを行い、適切な対応を検討します。	年間を通して苦情の発生はありませんでした。要望については傾聴姿勢を意識し、丁寧に話を聞くと同時に、具体的な要望を確認し、事業所としてできることとできないことを明確にお伝えしました。会議にて情報を共有し統一した対応ができるよう整えました。	実施できました。	次年度も継続します

(1) -② 苦情、要望、相談については、迅速に対応します。	寄せられた要望、相談については、職員、主任、園長など対応職員について判断し、時間をあけずに対応しました。判断の内容についても全体で共有し、ズレのない対応を心掛けました。職員間で苦情対応マニュアルの確認を行い、それぞれの役割で適切な対応ができるよう努めました。	実施できました。	次年度も継続します
(1) -③ 苦情の内容や対応の経過、検討結果について、必要に応じて情報開示できるよう、透明性の高い対応をします。	苦情の発生はありませんでしたが、苦情につながりそうな事故については苦情解決第三者委員会へも報告しました。委員会でいただいたご意見を活かし、より良い対応やサービスを工夫しました。求めがあった場合には当事者へも開示できる内容で報告書を作成しました。	実施できました。	次年度も継続します

2024年度 ボワ・コンサル 年間総括

Ⅰ. 支援部門

【ボワ・コンサル】

(Ⅰ) 目標
①一人ひとりの障がい特性や発達、性格を理解し、個人に合わせた適切な対応をします。
②安心できる環境の中で、好きな遊びや得意な遊びに取り組み、楽しい時間を過ごせるようにします。

(Ⅱ) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(Ⅰ)-① 個人の発達の段階や特性を理解し、成長を促せるよう適切な支援を検討・実施します。研修やケースカンファレンスを通して、多角的に個人を理解し適切な支援を検討します。支援方法の根拠を明確に示し、統一した対応ができるようにします。	好きなことや興味を持てることを探りながら、活動や関りを工夫しました。好きな遊びをじっくりと楽しんだり、好きなことをきっかけに、職員や友達とのコミュニケーションをとることを楽しみました。友達や職員、集団を意識できるような活動も取り入れ、「友達と遊ぶこと」「みんなで楽しむこと」ができるよう工夫しました。ごっこ遊びやすごろく、トランプ、だるまさんが転んだ等集団遊びを楽しむ様子が多くみられました。児童同士のトラブルには、職員が介入し、解決することやトラブルに繋がらない遊び方を経験しました。	実施できました	引き続き、個人の障がい特性の理解や成長を促す支援について、更に専門的な視点で支援ができるようにします。
(Ⅰ)-② 児童一人ひとりの得意や苦手を把握し、「見て分かる」「単語で分かる」「行動で伝える」など、個人にとって分かりやすい方法で情報を伝えます。文字や視覚的な手がかりなど様々なツールを工夫し意思表示をしやすい環境を整えます。	個人に合わせた言葉の量や視覚的な手がかりの使用など、分かりやすい情報の伝え方を工夫しました。言葉の影響を受けやすい児童に対しては、なるべく言葉を減らし、耳からの情報に振り回されない対応を心掛けました。また、玩具カードや文字盤の使用、言葉やジャスチャーなど、伝えたいことをできるだけ正確に伝えることや受け止められることができるよう支援しました。	実施できました	相手にしっかりと伝える情報の伝え方や受け止め方を工夫し、できるだけ正確に気持ちの疎通ができるよう工夫します。

(1) -③ 児童の思いを理解し、寄り添いながらも善悪については明確に伝えます。気持ちをしっかりと受け止めていることを伝えつつ、意志を貫くための激しい行動に対しては揺れない対応をすることで信頼関係を築きます。将来の日常生活や社会生活を見据え、適切な気持ちの伝え方や行動を経験できるようにします。	表現される感情や表出される行動の本質を理解しつつ、表現や表出の方法については適切に行えるよう支援しました。「善い/悪い」「できる/できない」ことを端的に明確に伝え、納得を促しました。職員の反応を伺うような行動については揺れない対応をし、適切な関係を築きました。気持ちを適切に伝えられる環境や関係を整えました。	実施できました	引き続き、個人の思いや気持ちを受け止め、尊重しつつ、気持ちや意志の伝え方については、その適正さについても伝えることができるよう支援します。
(1) -④ 行動のきっかけや原因となる事象や環境について丁寧に分析します。複合的な要因を視野に入れ、対応や環境を工夫します。視点や対応についてPDCAを繰り返しより精度の高い分析を目指します。不適切な行動につながる要因を減らすことで、持っている力を十分発揮し成功体験を増やせるよう支援します。	行動前、行動中、行動後の様子を丁寧に観察し、本人がどのような結果（効果）を得ているのか分析をすることを大切にしました。「注目」「感覚」など、同時に複数の結果（効果）を期待している行動も多く、不適切な行動で得られるものを最小限にできるよう対応を工夫しました。必要に応じて、刺激の少ない場所で個別の活動設定をするなどし、穏やかな気持ちで遊びや人との関りを楽しむ経験を積めるようにしました。	実施できました	引き続き、児童の様子を丁寧に観察、分析を行い、行動のきっかけや本人が得ようとしていることを正しく把握し、適切な対応（支援）ができるようにします。
(2) -① 一日の活動の中で動きのある遊びと、ゆっくりじっくり楽しむ遊び、また集団で楽しむことと、少人数で安心して過ごせることを、バランスよく行えるよう活動や環境を設定します。	一日の活動を2チームに分け、「戸外遊び」「室内遊び」を交互に設定しました。戸外では職員体制を整え、安心して好きな遊びを楽しめるよう活動を行いました。室内の人数も半数になることで、集中して自分の好きな遊びに取り組める環境を整えました。個人の興味や得意なことに合わせて、活動場所を設定するなど、遊びやすさを大切にしました。	実施できました	大人数でも安心して、満足して遊べる環境や活動設定を工夫します。

(2) -② 一人ひとりの興味やできることを把握し活動に取り入れ、楽しめることや自信を持って取り組めることを大切にします。同時に、苦手なことに対しても取り組みやすい環境や安心できる人からの励ましなど工夫し、チャレンジすることを大切にします。	個人の好みや得手不得手を把握しながら活動や遊びを設定し、遊びやすい環境を整えました。個人の様子を観察し、どのような感覚をどのように楽しんでいるかを知り、遊びを提案しました。遊びを通して「楽しむ」「チャレンジする」「合わせる」などの経験ができるよう活動内容や支援を工夫しました。遊びの中で得られる達成感や満足感を大切にし、褒める、認めるなどの方法で、次の意欲に繋げるよう支援しました。	実施できました	引き続きチャレンジしやすい環境や関りを工夫し「やってみよう」と思えることを大切にします。職員らの働きかけだけでなく、児童同士の刺激（自分もやってみたい！と思えること）も大切にします。
(2) -③ 児童がしっかりと力を使う（発揮する）場面を設定し、児童自身が「がんばった！できた！」と感じられるような経験を増やします。個人の力を最大限に発揮できる支援を検討し、実施します。がんばったこと、できたことを褒められ（認められ）、多くの満足感や達成感を得られるよう支援します。	活動の中に工作を設定し全員が取り組むことを大切にしました。「今日の工作は何？」と楽しみにしている児童も多く、意欲的に取り組む姿がみられました。「見本を見て一人で作る」「職員が説明をして作業する」「職員が手添えて作業する」など、児童に合わせて取り組み方や支援量を調整し、達成感や満足感を得ることを大切にしました。日常生活の中でも「自分でできること」を見極め、「やってみよう！」と思える環境を整えました。	実施できました	「持っている力をしっかりと使う」「正しくエネルギーを使う」ことを計画的に活動に取り入れ、本人が頑張ったと思えることで褒められることを大切にします。
(2) -④ クッキング、季節の制作を年間のスケジュールで計画的に行います。活動の中で役割や順番を楽しく経験し、責任を持つことや「できた」「楽しかった」という充実感や自信を得られるよう支援します。	年間のスケジュールに沿って、クッキングや季節の制作を実施しました。継続的に取り組む中で、児童の持っている力を把握し適切なサポート量を工夫しました。また、分かりやすく役割分担をし、与えられた役割に責任を持ち、意欲的に取り組む経験ができるよう支援しました。感染予防に配慮しつつ昼食作り（カレー）などのクッキングを設定し、皆で協力して作ること、食べることを楽しみました。	実施できました	引き続き、楽しみや経験の拡大、ワクワク感に繋がるような活動設定を工夫します。

(2) -⑤ 玩具遊びやおやつなど興味のあることを通して『自分で選ぶ』『自分で決める』ことを楽しく経験します。日常の中で、納得して行動できることを増やします。	活動の流れについては個人の選択はあまり行いませんでしたが、おやつや工作の中で「自分で選ぶ」「自分で決める」ことを経験できるようにしました。「これが好きなんだね」「良いのを選んだね」と選んだことに対して認められることや共感されることも経験できるように支援しました。日常の中でも、選択可能なことについては絞られた選択肢から自分で選び、納得して行動することを大切にしました。	実施できました	児童に合わせて選択肢の範囲を調整し、自己充実感や満足感、納得感に繋がることを大切にします。
(2) -⑥ 玩具の点検や環境の整備を行い、分かりやすく安全に活動できる空間や備品を整えます。分かりやすい環境の中で主体的に活動することを大切にします。	玩具を使用する際は、できるだけコーナー分けをし、玩具や遊びが煩雑にならないよう配慮しました。使い終えた玩具（コーナー）は一度片付けをして、次のコーナーを作るなど「玩具があり過ぎて集中できない環境」にならないよう配慮しました。定期的に玩具棚の整理を行い、同時に点検を行いました。	実施できました	引き続き、安全な環境で安心して活動できることを大切にします。

2024年度 ボワ・エール 年間総括

1. 支援部門

【ボワ・エール】

(1) 目標
①一人ひとりが、安心して楽しく過ごせるように支援します。
②社会性を育む支援を行います。
③医ケア児・肢体不自由児の安定した利用と活動が保障できるよう取り組みます。

(2) 計画	実施状況	評価	今後の課題
(1) -① 一人ひとりの障がいや行動の特性、心と体の状態を理解し、個々の気持ちに寄り添った支援を行います。行動の背景を含め、不適切な行動の要因となり得ることの検証を行い支援の手立てや環境の設定を検討・実施します。	一人ひとりの障がいや行動の特性や状態を理解し、関りや環境を工夫しました。不適切な行動については、行動中や前後の様子を見ながら、どのような思いがあるのか、何を求めているのかなど行動理由や目的、きっかけについて分析をしました。個人の気持ちを理解しながら、必要に応じては明確にNGを伝える、場面や環境を変えて気持ちの切り替えを図る、折り合いのつけ方を経験する等の支援を行いました。	実施できました	次年度も継続します。障がい特性を理解したうえで、適切な支援ができるようにしていきます。見える行動だけでなく、行動の背景を探り具体的な支援方法を見つけていきます。

(1) -② 活動の中で、体を動かす活動や、のんびりリラックスした気持ちで過ごせること、集団で活動することをバランスよく設定します。	個人のニーズを把握しながら活動を組み立てました。戸外で体を動かす時間、室内で好きな遊びをじっくり楽しむ時間を個人に合わせて設定しました。長期休みなど利用時間が長いときは、午前午後に分けて戸外/室内活動を設定しバランスよく活動できるようにしました。半分に分けることで、少人数の集団になり、ゆったりと活動することができました。	実施できました	次年度も継続します。児童の相性や共通の楽しみなどにも配慮しながらグループ分けを行い、コミュニケーションを取りやすい工夫をします。
(1) -③ 活動の狙いや目的を明確にし、児童の特性に合わせた活動を提供します。	散歩をする時には、歩き方や周囲への意識、危険に認知や回避の力を把握するなど、一つひとつの活動の中で、個人の力を把握し、力を発揮しながら活動できるよう支援を行いました。好きな(得意な)遊びを見つけ、集中して取り組むことで満足感を得られるよう活動を提案しました。スヌーズレンルームのボールプールを活用するなどし、肢体不自由児童が主体的に遊べる環境も工夫しました。	実施できました	次年度も継続します。興味や得意なことを探り、主体的に遊べる活動を工夫します。肢体不自由児童が遊べる玩具についても知識を深め、取り入れられるようにします。
(1) -④ 季節の制作やクッキングを年間のスケジュールで計画し、季節を感じることを、伝統行事に触れる機会を大切にします。手先を使って集中すること、様々な感触に触れる経験、他児と協力することを通し、満足感や達成感を味わいます。	季節の制作やクッキング、夏休みには夏休み用の活動を設定し、季節を感じることや行事を楽しむにすることができるようになりました。制作の取り組みでは手元に意識を向け、作業に集中して楽しむことを大切にしました。クッキングでは、調理工程を経験することのほか、友達と協力することや役割を分担すること、何よりも美味しく食べることが楽しめるよう活動を設定し実施しました。	実施できました	引き続き、季節を感じることや、ワクワクするなど心が踊る経験をするような活動設定を工夫します。

(1) -⑤ 玩具や備品の整理整頓と衛生管理を徹底し、安心・安全な活動ができる環境を整えます。	分かりやすく出し入れできるよう、玩具の置き場所を決めました。自分で使いたいものを選んで用意し、使い終わったらしっかりと片付けができるよう環境を整えました。また、玩具の破損や危険箇所等についても定期的に確認を行いました。	実施できました	安全で分かりやすい環境を工夫することで、児童の主体性を引き出せることも合わせて検討します。
(2) -① 集団活動を通して、周りに合わせる力を身に付けられるようにします。自分ペースで物事を進めるだけでなく、周囲の意見を聞くこと、全体で話し合って決めたことに納得して合わせることの経験を積めるようにします。	活動の流れや内容を明確にした予定表を見ながら、その日の活動を確認し、必要に応じて変更はあるものの、なるべく予定に合わせて活動することを大切にしました。個人のやりたいことを把握し、好きなことに取り組める時間を確保しつつ、いろいろな遊び（活動）に触れることも経験できるようにしました。	実施できました	
(2) -② 身の回りのことを自身で行う意識付けを行い、できることを増やし、個人が持つできる力を伸ばしながら定着を図ります。	一人ひとりのできることや持っている力に合わせて、支援量を調整し過不足のない支援を目指しました。言葉かけが集中の妨げになる児童に対しては、言葉の量を減らし、簡単な言葉と指さし等でやるべきことを伝え、行動を促しました。児童を行動を丁寧に観察し、定期的に「今できていること」を確認し、自分でできることを増やしました。	実施できました	次年度も継続します。個人の力の把握や変化についても確認し、本人ができることを大切にします。また、意欲的に取り組める環境や関りを工夫します。
(2) -③ 困ったこと、不安なことなどの自分の気持ちを周囲に伝え、解決できた・対処できたことの経験を積み重ね、対処する力や気持ちをコントロールする力を身に付けられるよう支援します。	楽しかったことや要求だけでなく、困ったことや不安についても丁寧に聞き取りを行いました。伝えられた気持ちに共感し「聞いてもらえた」という安心感を得られるよう支援しました。また、「パソコン」と単語で要求を伝える場面では「パソコンをどうしたいのか（どうしてほしいのか）」確認し、しっかりと依頼をすることを意識できるよう働きかけました。	実施できました	

(3)-① 体を動かすこと、体をほぐすこと、リラックスできる環境を整えます。体を動かしたり様々な感触に触れたりすることを通して、心の動きを感じながら感情を豊かに表現できる支援をします。	利用時間や体調に合わせて活動を設定しました。できるだけ、車いすから降りて過ごす時間を作り、リラックスできる姿勢で歌や遊びを楽しめるよう支援しました。スヌーズレンルームの活用などにより、いろいろな刺激を感じながら活動を楽しむことができました。	実施できました	肢体不自由児童が主体的に遊べる遊びについて学び、活動に活かせるようにします。
(3)-② 感情や意思を表現することの楽しさや、受け止められること、共感されることの経験を積みます。人との関わりを楽しみ、信頼感を得ながら、豊かな関係を構築します。	表情や声、目や体の動きなどからも気持ちを感じ取れるよう支援しました。感じ取った気持ちを言葉にし、共感することを繰り返しました。買い物活動では、実際の物を見ながら、目の動きや声などで好きなものを選択し、購入することを経験しました。	実施できました	職員の感じる力、受け止める力を伸ばし、より正確に想いを受け止めることができるよう、研修や学習を行います。
(3)-③ 支援体制や看護体制、送迎体制を整え、安定した利用保障ができるよう取り組みます。	看護師を配置したことにより、希望に合わせて受け止めをすることができました。送迎に関しても花の家の車両を借用するなど、できるだけ送迎保証できるよう調整をしました。 また、しばらくできていなかった医ケア児童の新規契約も受付け、数名の新規契約を行いました。	実施できました	看護師により安全な医ケアを実施し、安定した利用保障を目指します。